

平成30年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金
老人保健健康増進等事業

認知症施策のアウトカムとしての認知症の本人やご家族の
視点を重視した評価指標の確立に関する研究

報告書

社会福祉法人浴風会

認知症介護研究・研修東京センター

平成31（2019）年3月

平成 30 年度厚生労働省老人保健健康増進等事業
「認知症施策のアウトカムとしての認知症のご本人やご家族の視点を重視した
評価指標の確立に関する研究」

目次

要旨	1
第 1 章 研究事業の概要と研究検討委員会の設置	2
I. 研究事業の背景	2
II. 研究事業の目的	2
III. 研究検討委員会の設置	2
1. 設置目的	2
2. 実施主体と研究委員構成	2
3. 研究委員会の回数及び各回での検討事項	3
IV. 調査研究の実施（図 1）	5
1. 調査研究の全体構造	5
2. 先行研究・参考文献調査（資料 1）	6
3. 生活状態項目の立案（表 3）	8
4. 調査概要	9
5. 予備調査の実施（表 2～5）	9
6. 本調査の実施（表 2～4）	10
7. 解析方法（表 6）	11
第 2 章 調査研究結果（表 7～47）	13
I. 解析の主目的；生活状態項目の確定	13
II. 解析の主目的；生活安寧指標の確定	21
第 3 章 認知症施策のアウトカムとしての認知症のご本人やご家族の生活安寧指標	24
第 4 章 考察	26
第 5 章 今後の課題	27
第 6 章 まとめ	27
参考資料 1（資料 1）	28
参考資料 2（図表）	39

要旨

本研究は平成 30 年度厚生労働省老人保健健康増進等事業「認知症施策のアウトカムとしての認知症のご本人やご家族の視点を重視した評価指標の確立に関する研究」として、認知症のご本人やご家族の「生活安寧状態」を定量的に評価するための指標を開発するため、12 名の有識者で構成した研究委員会、全国の介護支援専門員による認知症のご本人とご家族と介護支援専門員自身が回答するアンケート調査を実施し、「認知症のご本人やご家族の生活安寧指標；2 カテゴリー全 24 生活状態項目」を開発した。

当該研究における「生活安寧状態」とは、「生活安定度・生活の質・精神的健康状態（認知症のご本人とご家族）」などの質的側面の価値の実現状態と仮定し、「能力・頻度・重症度」などの量的な達成状況とは区別した。活用の想定は地域全体や施策のアウトカムの評価指標、自治体によるニーズ調査などとした。生活安寧指標を構成する生活状態項目を「実現したい程度」は①可能な限り属性による偏りなどの影響を受けないこと、②フォーマルサービスやインフォーマル・サポートをうけながら実現できることとした。

「生活状態項目」の原案は、認知症のご本人やご家族の視点に立ち、「認知症などの病気により自分の考えをうまく伝えることが難しくなっても介護保険サービスやご家族の支援を受けながら実現したい生活状態」として 26 項目を作成した。

調査内容は「生活状態項目案」について「認知症などの病気により自分の考えをうまく伝えることが難しくなっても実現したい程度」と、「現在、介護保険サービスやご家族等の支援をうけながら実現できている程度」、「属性」、「生活安定度；VAS」、「生活の質；short QOL-D」、「精神的健康状態；WHO-5」とした。調査期間は予備調査：平成 30 年 10 月 5 日～10 月 23 日、本調査：平成 30 年 11 月 12 日～12 月 3 日とした。抽出方法は 47 都道府県毎の多段抽出（介護支援専門員）とし、介護支援専門員が担当する任意の認知症のご本人・ご家族・介護支援専門員自身の 3 者が回答した。調査結果の回収率は予備調査 50%（n=101）、本調査 29%（n=247）であった。なお、解析に用いたデータは、認知症のご本人とご家族の視点をより正確に反映するため、介護支援専門員の判断で「ご本人」と「ご家族」回答内容の「信憑性が高い」及び「家族関係が普通から良」の結果とした（予備調査；n=58、本調査；n=139）。

解析では、まず予備調査結果に基づき「生活状態項目案：全 26 項目」毎の信頼性と妥当性の検証及び項目の過不足を検討し、他項目と類似性の高かった 2 項目を除外し全 24 項目とした。次に、本調査結果に基づき 2 カテゴリー構造（13 項目カテゴリーと 11 項目カテゴリー）とし、構造的側面の信頼性と妥当性を検証し「生活安寧指標」の構造を確定した。

今回、「認知症施策のアウトカムとしての認知症のご本人やご家族の視点を重視した評価指標」として「認知症のご本人やご家族の生活安寧指標（2 カテゴリー：全 24 生活状態項目）」を開発し、信頼性と妥当性が担保されていることを検証した（図 1）。

第1章 研究事業の概要と研究検討委員会の設置

I. 研究事業の背景

認知症施策総合推進戦略（新オレンジプラン）では認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指すことを基本的考え方とし、「医療・介護サービス等の提供に関し、個々の資源の整備に係る数値目標だけでなく、これらの施策のアウトカム指標の在り方についても検討し、できる限りの定量的評価を目指す」としており、標準的な指標の確立が求められている。

認知症の人とその家族に対して、生活の安寧度を示す認知症施策による具体的な評価要素を踏まえつつ、認知症施策に関する適正なアウトカム指標を作成・設定するとともに、その有効性を検証し、その評価指標を確立・普及する必要がある。

II. 研究事業の目的

当該研究は、今日、多様に展開されている認知症施策のアウトカム指標の確立を目指して、個々の認知症の人とその家族の生活の安寧度（生活安寧尺度）をもって、定量的に評価する指標を作成・設定し、信頼性・妥当性を検証する。

III. 研究検討委員会の設置

1. 設置目的

社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センターは標記調査研究事業を実施するにあたり、以下の通り「認知症施策のアウトカムとしての認知症のご本人やご家族の視点を重視した評価指標の確立に関する研究検討委員会（以下、「研究委員会」という。）」を設置し、研究事業の設計、実施、集計、分析、検証、報告書の作成等における助言の他、認知症の人やその家族の安寧な生活の確保はもとより、認知症の人やその家族を支える地域住民のエンパワーメントによるコミュニティの強化、国民全体が最小の投資で最大の効果を得る効率的な仕組み、及び今後の新オレンジプランの発展的見直しに寄与することを目的とする。

2. 実施主体と研究委員構成

- 1) 本研究委員会の実施主体は、社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センターとする。
- 2) 本研究委員会は、社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター 佐藤 信人 副センター長を研究代表者とし、その他の委員は下記の通りとする。

3) 研究委員会委員（敬称略、50音順）

委員	内田 千恵子	公益社団法人 東京都介護福祉士会 常務理事・事務局長
委員	大島 千帆	埼玉県立大学 保健医療福祉学部 社会福祉子ども学科 准教授
研究代表者	佐藤 信人	認知症介護研究・研修東京センター 副センター長
委員	佐藤 美穂子	公益財団法人 日本訪問看護財団 常務理事
委員長	下垣 光	日本社会事業大学社会福祉学部 福祉援助学科 准教授
委員長	寺田 整司	岡山大学大学院 医歯薬総合研究科 精神神経病態学教室 准教授
委員長	内藤 佳津雄	日本大学 文理学部 心理学科 教授
委員長	能本 守康	一般社団法人 日本介護支援専門員協会 常任理事
委員長	花俣 ふみ代	公益社団法人 認知症の人と家族の会 副代表理事
委員	菱沼 幹男	日本社会事業大学社会福祉学部 福祉計画学科 准教授
委員	村田 幸子	社会福祉評論家
助言者	山口 晴保	認知症介護研究・研修東京センター センター長

【オブザーバー】厚生労働省老健局総務課認知症施策推進室

室長補佐 余語 卓人
認知症専門官 石井 伸弥

【事務局】社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター

佐藤 信人、花田 健二、藤生 大我、寺崎 一永

3. 研究委員会の回数及び各回での検討事項

<第1回研究委員会>

日時：平成30年7月31日（火） 13:00～15:00

会場：フクラシア東京ステーション 6階会議室E

- 1) 委員紹介
- 2) 報告事項
 - (1) 調査研究事業の概要について
- 3) 検討事項
 - (1) 生活の安寧（度）の定義と実体について
 - (2) 指標における重症度の扱いについて
 - (3) 指標の頻度軸の扱いについて
 - (4) 指標の内容について
 - (5) 指標活用時の回答方法について
 - (6) サンプルング方法について

<第2回研究委員会>

日時：平成30年8月27日（月）13:00～16:00

場所：フクラシア八重洲（東京）Room6

- 1) 報告事項

予備調査票及び、調査マニュアルの概要について
- 2) 検討事項
 - (1) 予備調査手法について
 - (2) 予備調査項目について
 - (3) 予備調査項目の信頼性・妥当性検討のための外的評価指標について

<第3回研究委員会>

日時：平成30年10月2日（火）10:00～12:00

場所：フクラシア八重洲（東京） Room 6

1) 報告事項

予備調査実施概要について

2) 検討事項

解析計画の検討

<第4回研究委員会>

日時：平成30年11月6日（火）10:00～12:00

場所：フクラシア八重洲（東京） Room 6

1) 報告事項

予備調査結果について

(1) 基礎統計

(2) 妥当性の検討（基準関連妥当性）

(3) 信頼性の検討（内的一貫性）

2) 検討事項

本調査項目の検討

<第5回研究委員会>

日時：平成30年12月18日（火）10:00～12:00

場所：フクラシア八重洲（東京） Room 6

1) 報告事項

本調査結果について

基礎統計

2) 検討事項

予備調査及び本調査結果を踏まえた、生活安寧指標案の検討

<第6回研究委員会>

日時：平成30年1月11日（金）10:00～12:00

場所：フクラシア八重洲（東京） Room 6

1) 予備調査、本調査、研究委員会での議論を踏まえた生活安寧指標案について

2) 検討事項

施策の成果指標としての生活安寧指標案について

IV. 調査研究の実施（図1）

1. 調査研究の全体構造

認知症のご本人やご家族の視点からみた「安寧が保持された生活に必要な事項」は、認知症のご本人やご家族の判断に依るべきものであるから、次の過程で研究を実施した。

段階1； 先行研究に基づく調査項目原案作成

「安寧が保持された生活に必要な項目」の設定に関する先行研究を踏まえた調査項目原案を作成し項目の選別基準は、「おだやかさ」「所属」「承認」「役割」「自己決定」などとした。

段階2； 研究委員会による調査項目案の検討・作成

学際的研究者により構成する研究委員会による調査項目原案を検討・作成した。（研究委員会4回開催）

段階3； 予備調査の実施と調査項目の確定

研究委員会が検討した調査項目案について有効な項目を検証し絞り込むための予備調査を実施した。（200客体）

段階4； 本調査の実施

予備調査により確定した調査項目により、認知症の人とその家族、担当する介護支援専門員の三者を対象に調査を実施した。（960客体）

段階5； 生活安寧指標案の検討

調査結果の収集・分析、妥当性・信頼性の検討を踏まえ「安寧が保持された生活に必要な生活状態項目」を検討した。（委員会2回開催）

2. 先行研究・参考文献調査（資料1）

1) 調査目的

本研究における「生活の安寧」の定義と仮定する「認知症の人とその家族、地域社会の安らかな生活の様式（の程度）」を包摂する既存・類似尺度の有無や、生活状態項目立案の参考にした。

2) 調査方法

(1) 安寧の定義・概念

国内の一般的な国語及び医療介護福祉関係の辞書・辞典に記載されている「安寧」の定義・概念を調査した。合計 25 冊の辞書・辞典を調査対象とした。

(2) 認知症の人の「安寧」に関する評価尺度

① 国内（和文、英文邦訳含む）文献レビュー方法

認知症の人の安寧に関する国内（和文、英文の邦訳含む）の文献を医学中央雑誌（web 版）を用いて検索した。キーワードは「認知症」「高齢者」「尺度」「安寧 or 安楽」「幸福」「生活の質または QOL」とした。

② 国外（英文）文献レビュー方法

認知症の人の安寧（Well being）に関する国外の文献を Scopus（web 版）を用いて検索した。なお、今回は辞書・辞書及び国内先行研究レビュー結果にもとづき安寧=Well being として検索した。キーワードは「Dementia」「Well being」「Scale」「Elderly」とした。

(3) 参考文献・資料

生活安寧指標及びその構成要素と仮定した生活状態項目の立案の参考となる文献・資料・Web 情報などを幅広く調査した。

3) 先行研究・参考文献まとめ

安寧の定義・概念および認知症の人の「安寧」に関する評価尺度^{1~44)}

辞書・辞典による「安寧」の定義・概念は一般の国内辞典・辞書では「より静的な場の状態」を、医療介護福祉辞典・辞書では「健康概念に関する個人の良好な質的状态」を含意していると考えられた。

認知症の人の「安寧」の評価尺度は見当たらなかった。一般の人を対象とした「安寧感」の指標は国外近似概念の既存尺度を邦訳して代用したものがあつた。

認知症の人の「生活の質または QOL」の評価尺度は多数あつた。それぞれの尺度は尺度特性や属性に応じて適用に制約があつた。尺度は概ね国外開発尺度の邦訳版であつた。

国内の医療福祉介護領域においては WHO 憲章における Well being を安寧と邦訳されたことにもとづき、安寧=Well being として英文献を検索した。

安寧=Well being の定義・概念の特徴は「よい生活または QOL の構成要素の一つ」「感情や人生についての心理的・主観的な感じ方」「より連続的・長期的な状態」をあらわしていると考えられた。

認知症の人の Well being 評価方法はみあたらなかった。一般の人を対象とした Well being 評価方法では感情と思考、宗教的な質問や人生の意味・目的などを問う Well being 評価尺度があつた。Well being と関連性があり邦訳版が普及している認知症の人の QOL 評価方法は散見された。

国内外先行研究における既存の評価尺度は当該研究における「生活の安寧」の定

義と仮定する「認知症の人とその家族、地域社会の安らかな生活の様式（の程度）」を包摂する尺度とは言えない。

4) 生活安寧指標作成のための参考文献・資料

(1) 生活安寧状態の捉え方

貧困研究における Townsend の「人々が社会で通常手にいれることのできる栄養、衣服、住宅、居住設備、就労、環境面や地理的な条件についての物的な標準にこと欠いていたり、一般に経験されているか享受されている雇用、職業、教育、レクリエーション、家族での活動、社会活動や社会関係に参加できない、ないしはアクセスできない」状態のような、「絶対的・相対的な概念」などの捉え方を参考にした⁴⁵⁻⁴⁹⁾。

高齢者が人生の中で蓄えてきた、金銭の支払いを伴う有償労働ばかりではなく、ボランティア活動、家事・育児・介護などの無償労働などをも含めたプロダクティビティをサクセスフル・エイジングの要件とすること^{64,65)}などを生活の安寧を考える上で参考にした。

(2) 生活状態項目の捉え方

認知機能と生活機能（例えば内服管理能力や買い物の能力）を同時に評価でき、評価結果が生活支援に直結する「DASC-21」^{50,51)}。生活行為向上マネジメントとして、医療機関からの退所時に同職種間や介護支援専門員などの関係職種との連携ツールとして様々な生活項目からなる「興味チェックリスト」や「生活行為申し送り表」^{52~54)}など、目指す生活状態項目は能力評価とは区別することとしたが、具体性があり支援に反映しやすい視点での項目立案を参考にした。

(3) 認知症のご本人の視点

本人の意思が尊重され、住み慣れた地域で暮らし続けられる社会を目指すとして、人権や個性への配慮、切れ目のない医療と介護、地域の一員として社会参加するなど「新・京都式オレンジプラン；10のアイメッセージ」⁵⁵⁾。話をきいてくれる、ものごとに集中できるための視覚刺激など環境の配慮、くつろぐためのなじみのものなどへの配慮について、認知症の当事者としてメッセージを発信している「クリスティーナ・ブライデンのメッセージ」⁵⁶⁾。前を向いて生きること、社会の一員としてチャレンジすること、本人同士のつながり、暮らしやすいわがまちづくりについての「日本認知症本人ワーキンググループ JDWG；認知症とともに生きる希望宣言」⁵⁷⁾、など認知症のご本人の視点を基盤とした生活状態項目の立案の参考にした^{58~63)}。

(4) その他

認知症のケア^{68~74)}、認知症の予防^{75,76)}、生活の構成要素^{77,78)}、生活の環境^{79,80)}、地域ケア⁸¹⁻⁸⁷⁾、在宅ターミナルケア⁸⁸⁾、アセスメント・ケアプラン^{89~91)}、家族介護者^{92~94)}についての視点を参考にした。

3. 生活状態項目の立案（表3）

1) 安寧な生活のとらえ方

当該「生活の安寧」が保持された状態は、認知症のご本人やご家族の「生活行為・活動（生活状態）」に表れるから、認知症の人やその家族が、「（ご本人またはご家族の一員が）重い認知症になっても確保したい生活の状態」と捉えた。ただし、「重い認知症」の説明表現は、能力からみた視点となっており、認知症のご本人の視点からみると「家族の顔もわからなくなり怖い」、「出来ていたことができなくなっていく不安」などが考えられることから、設問内容に本人の主観的な要素を反映させた。認知症が軽度の段階で想定していた安寧な生活と、実際に自らの意思を表明することが難しくなった時に確保したい安寧な生活は若干異なる部分が推察された。この点については、認知症が重度になった時の認知症のご本人は、「安寧な生活」を自ら語り、図ることができづらいと推察し、当該研究では調査協力介護支援専門員が「ほぼ正確に自らの意思を表明できる」と認めた認知症のご本人の「認知症などの病気により自分の考えをうまく伝えることが難しくなっても介護保険サービスやご家族の支援を受けながら実現したい生活状態；以下：実現したい生活状態」回答をもって、推察のもと調査研究を遂行した。

2) 生活状態項目の原案作成

認知症のご本人やご家族の視点に立ち、「認知症などの病気により自分の考えをうまく伝えることが難しくなっても実現したい程度」として、生活実感を表した生活項目・表現が適切と考え26項目の原案を作成した。項目原案の作成に当たっては以下について検討し、幅広く項目を設定し、調査結果に基づいて絞り込むこととした。

当該研究で目指す指標は全国どの地域においても使用できる指標を想定していることを踏まえ、平準化の観点から、生活実感の多様性から生活状態項目を厳選するための除外の目安として、習慣、価値観、趣味・趣向等、個性、地域特性の影響があるものは指標とならないと考えた。なお、性差の影響はある程度容認する必要があると考えるが、明らかに性差が現れると予測される項目は除くこととした。一方で、生活実感の本質における個性の重要性（例えば生きがいややりがい、本人のこだわりなどの価値観の要素）や、生活が社会の中で成り立つことから地域特性（例えば、地域によって仕事は漁業であったり畑仕事であったりと異なることなど）は重要であり、個性や地域性を活かす生活は大切に重視されるべきであると考えた。しかし、生活実感として表すと千差万別となり、具体的に生活項目を設定することは多様なため、カテゴライズして例示することとした。フォーマルサービスである介護保険という限られた財源の中で生活としてどこまで確保すべきか、という視点でも項目を精査し、例えば、異性と交流する・居酒屋に行くなどは含まないこととした。

3) 調査に協力する認知症のご本人

認知症のご本人の意思をより正確に把握する必要があるが、認知症の告知がまだ一般化しているとは言えないこと、病識が低下しており認知症と自覚していない人もいることを鑑み、調査協力介護支援専門員に普段の関わりの中で「ほぼ正確に自らの意思を表明できる」と認めた人の中で選定することとし、確定診断は問わないこととした。加えて、介護認定調査における「認知症高齢者の日常生活自立度」の判定においてIV、またはMに該当する方は調査の対象とはしないこととした。高齢者と若年者でニーズが異なることが推察されるため、当該調査では対象年齢は65歳以上とし、若年性認知症の人は調査の対象とはしないこととした。調査しやすい方や好事例に偏ってしまう選択バイアスの可能性に対しては、47都道府県毎の多段抽出による介護支援専門員の抽出方法とサンプリング数を多くすることで平準化を図ること、属性との関連性を解析することとした。独居の方とご家族など同居人がいる方の生活様式は異なるものと推察し、より正確に認知症のご本人の生活の状況を把握していると推察される同居家族がいる人を対象とした。また、認知症のご本人

とご家族に対して侵襲性がないよう十分配慮すること、聞き取りをする介護支援専門員個人の姿勢や価値観が結果に反映されるなどの差が出ないように、読み上げ文章付きの研究調査マニュアルを作成して、聞き取り調査を実施することとした。

4. 調査概要

1) 調査手法

実施主体である社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター（以下：実施主体）から、一般社団法人日本介護支援専門員協会への一部実施委託協力により、任意に抽出された全都道府県の居宅介護支援事業所に属する介護支援専門員に調査を依頼した。

2) 倫理的配慮

調査協力介護支援専門員については、本調査協力は任意であり、協力の有無で不利益を被ることはないこと、調査データは、氏名や住所などの個人を特定できる情報を含まず、連結不可能で匿名化されているため、実施主体と日本介護支援専門員協会において個人情報を知り得ることはないこと、調査協力への同意については、調査票の返送をもって同意を頂いたものとするを文書で伝えた。

認知症のご本人とご家族については、調査協力介護支援専門員を委嘱した上で、調査業務にあたって知り得た個人情報の取り扱いについて、次の5項を遵守して頂くことを文書で伝えた。1. 個人情報を厳格に保持し、第三者に開示・提供してはなりません。2. 個人情報を他の目的のために使用してはなりません。3. 上記1と2については、委嘱期間終了後においても同様とします。4. 個人情報が漏洩等することのないように、必要かつ適切な措置を講じるものとします。5. その他、個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号）等関係法令を遵守するものとします。

5. 予備調査の実施（表2～5）

1) 内容

生活状態項目26項目について「認知症などの病気により自分の考えをうまく伝えることが難しくなっても実現したい程度」を「必ず必要～必要ではない、わからない」の5段階と「現在、介護保険サービスやご家族等の支援をうけながら実現できている程度；以下：実現できている程度」を「できている～できていない、今までしていない、わからない」の6段階で調査した。また、「属性」、「生活安定度；VAS」、「生活の質；short QOL-D」、「精神的健康状態；WHO-5」を調査した。

2) 期間

平成30年10月5日～10月23日

3) 形式

郵送式アンケート

4) 対象

200 ケース（認知症のご本人・ご家族・介護支援専門員）

- 5) 抽出
47 都道府県毎の多段抽出による介護支援専門員が担当する認知症のご本人とご家族を調査した。
- 6) 調査方法
調査マニュアル（読み上げ文章）を用いて、認知症のご本人とご家族の自記あるいは、自記が難しい場合は、介護支援専門員による聞き取り調査とした。
- 7) 回収率
50% (n=101)

6. 本調査の実施（表 2～4）

- 1) 内容
生活状態項目 24 項目について、「認知症などの病気により自分の考えをうまく伝えることが難しくなっても実現したい程度；以下：実現したい程度」を「必ず必要～必要ではない、わからない」の 5 段階と、「属性」について調査した。
- 2) 期間
平成 30 年 11 月 12 日～12 月 3 日
- 3) 形式
郵送式アンケート
- 4) 対象
960 ケース（認知症のご本人・ご家族・介護支援専門員）
- 5) 抽出
47 都道府県毎の多段抽出による介護支援専門員が担当する認知症のご本人とご家族を調査した。
- 6) 調査方法
調査マニュアル（読み上げ文章）を用いて、認知症のご本人とご家族の自記あるいは、自記が難しい場合は、介護支援専門員による聞き取り調査とした。
- 7) 回収率
29% (n=245)
- 8) その他
解析に用いたデータは、認知症のご本人とご家族の意思をより正確に把握し指標に反映するため、介護支援専門員の判断で「ご本人」と「ご家族」回答内容の「信憑性が高い」及び「家族関係が普通から良」の結果とした。（予備調査；n=58、本調査；n=139）

7. 解析方法（表6）

予備調査結果では、主目的を生活状態項目の確定とし、基本属性の基礎統計、生活状態項目の基礎統計、妥当性と信頼性の検証を実施した。本調査では、主目的を生活安寧指標の確定とし、構造的側面についての妥当性と信頼性の検証を実施した。

統計解析ソフトには解析手法に応じて R version 3.5.2、IBM SPSS Statistics version 25、IBM SPSS Amos 25、Microsoft Office 365 Business Excel version1901 を用いた。

1) 解析の主目的；生活状態項目の確定（表7～40）

（1）基本属性の基礎統計（表7～10；Fisher's Exact Test・度数分布）

- ① 予備調査と本調査の回答者間の属性毎の関連性
- ② 問1～12 毎の属性内傾向

（2）生活状態項目の基礎統計（表11・12；度数分布）

- ① 予備調査と本調査の「実現できている程度」、「実現したい程度」毎の程度の高低分類
- ② 認知症のご本人の「実現したい程度」のニーズの高さによる分類；下位尺度の目安

（3）妥当性の検証；生活状態項目毎の一般化可能性の側面

「実現できている程度」、「実現したい程度」の生活状態項目毎の各属性との関連性（表13～31）

（4）信頼性の検証；生活状態項目毎

- ① 予備調査と本調査毎の「実現したい程度」の生活状態項目毎の評価者間（認知症のご本人・ご家族・介護支援専門員）の判断一致度（表32；Spearman 順位相関係数）
- ② 「実現できている程度；高低2群」の評価者間（認知症のご本人・ご家族・介護支援専門員）の判断一致度（表33；Cohen's Kappa 係数）
- ③ 予備調査と本調査毎の「実現したい程度」の生活状態項目間の評価者内（認知症のご本人・ご家族・介護支援専門員）の判断一致度（類似項目）（表34；Spearman 順位相関係数）
- ④ 予備調査と本調査間の「実現したい程度」の生活状態項目毎の評価者毎（認知症のご本人・ご家族・介護支援専門員）の判断一致度；再テスト（表35；Mann-Whitney U test）

（5）妥当性・信頼性の検証；自由記述意見（表36；一覧表）

（6）妥当性の検証；基準関連妥当性の外的基準の基礎統計（表37）

- ① 生活安定度；VAS の評価者間（認知症のご本人・ご家族・介護支援専門員）の関連性（表37-1；Friedman 検定・Wilcoxon 符号付順位和検定・Spearman 順位相関係数）

- ② 精神的健康状態；WHO-5（認知症のご本人・ご家族）の関連性（表 37-2 Wilcoxon 符号付順位和検定・Spearman 順位相関係数）
- ③ 生活安定度；VAS、精神的健康状態；WHO-5、生活の質；short QOL-D の関連性（表 37-3；Spearman 順位相関係数）

(7) 妥当性の検証；生活状態項目毎の基準関連妥当性（併存的）

- ① 「実現できている程度」の評価者毎（認知症のご本人・ご家族・介護支援専門員）と生活安定度；VAS（認知症のご本人・ご家族・介護支援専門員）の関連性（表 38；Spearman 順位相関係数）
- ② 「実現できている程度」の評価者毎（認知症のご本人・ご家族・介護支援専門員）と精神的健康状態；WHO-5（認知症のご本人・ご家族）の関連性（表 39；Spearman 順位相関係数）
- ③ 「実現できている程度」の評価者毎（認知症のご本人・ご家族・介護支援専門員）と生活の質；short QOL-D の関連性（表 40；Spearman 順位相関係数）

2) 解析の主目的；生活安寧指標（構造的側面）の確定

※質問「現在、介護保険サービスやご家族等の支援をうけながら実現できている程度」については、予備調査の結果、2項目を削除した以外は項目変更の必要性が生じなかったため、予備調査のみで実施することとし、本調査で確定した下位尺度構造の検証にも用いた。

- (1) 妥当性の検証；構成概念妥当性（表 41；因子分析）本調査の生活状態項目を「実現したい程度」の評価者毎（認知症のご本人・ご家族）と二者間の共通因子（下位尺度）構造
- (2) 信頼性の検証；構造的な内的整合性（表 42；Cronbach α 係数）確定した下位尺度（2 カテゴリー）に基づいた「実現できている程度；ご家族評価」の一貫性
注）下位尺度の検証は予備調査の「実現できている程度」に因子分析で確定した 2 カテゴリー構造を適用
- (3) 妥当性の検証；構造的な一般化可能性の側面（表 43；Spearman 順位相関係数・Mann-Whitney U test）「実現できている程度；ご家族評価」の下位尺度（2 カテゴリー）毎と基本属性の関連性（性質・解釈の一貫性）
- (4) 妥当性の検証；構造的な基準関連妥当性（併存的）（表 44；Spearman 順位相関係数）「実現できている程度；ご家族評価」の下位尺度（2 カテゴリー）毎の生活安定度；VAS、精神的健康状態；WHO-5、生活の質；short QOL-D の関連性
- (5) 全体構造の検証（図 2；共分散構造分析；パス解析）「実現できている程度；ご家族評価」の下位尺度（2 カテゴリー）、生活安定度；VAS（認知症のご本人）、精神的健康状態；WHO-5（認知症のご本人・ご家族）、生活の質；short QOL-D の関連性（構造と影響）

(6) 妥当性の検証：内容的・実質的側面（表 45, 図 3 ; Pared t-test) 「実現できている程度；ご家族評価」の下位尺度（2 カテゴリー）得点の算出と平均値の比較

(7) 課題の検証（表 46, 47 ; χ^2 検定）下位尺度（2 カテゴリー）を適用した予備調査と本調査の「実現できている程度」、「実現したい程度」の欠損値の関連性

第 2 章 調査研究結果（表 7～47）

I. 解析の主目的；生活状態項目の確定

1. 基本属性の基礎統計（表 7～10 ; Fisher's Exact Test・度数分布）

1) 予備調査と本調査の回答者間の属性毎の関連性（予備調査 n=101, 本調査 n=245）

- 問 2「調査票 B ご家族回答 質問 1・2 の回答区分を教えてください」で有意差を認め、本調査の方がご家族の自記が多かった。
- その他の属性では有意差を認めなかった。

※注）以降の解析では、問 1-2 認知症のご本人、2-2 ご家族の「回答内容は、全体的に信憑性が」の「高い」かつ、問 9「調査対象ご本人とご家族の家族関係について、普段のモニタリングの様子から推測して教えてください」の「良」、「普通」のみを対象とした（予備調査 n=58, 本調査 n=139）。

2) 問 1～問 12 毎の属性傾向（予備調査 n=58, 本調査 n=139）

- 問 2「調査票 B ご家族回答 質問 1・2 の回答区分を教えてください」で有意差を認め、本調査の方がご家族の自記が多かった。
- 問 10-1-2「精神的負担感 二群分け修正（軽度～なし、中度以上）」で有意差を認め、本調査の方が中度以上が多かった。
- その他の属性では有意差を認めなかった。

2. 生活状態項目の基礎統計（表 11・12 ; 度数分布）

1) 予備調査と本調査の「実現できている程度」、「実現したい程度」毎の程度の高低分類

度数分布表は「高い」と「低い」の二群に分けた。（高い：「必ず必要」+「まあまあ必要」、低い：「あまり必要ではない」+「必要ではない」）。

本調査の認知症のご本人回答結果を「高い」の割合（%）で昇順に並び替えた。

「実現できている程度」と「実現したい程度」の高低割合が、項目ごとに類似する傾向を示唆した。

予備調査と本調査で 2 区分が変化した項目は、「家の周りが片付いている」、「テレビを見たり新聞を読んだりする」の 2 項目であったが、2 項目とも約 7 割は「高い」であった。

2) 認知症のご本人の「実現したい程度」のニーズの高さによる分類；下位尺度の目安「実現したい程度」の「高い」割合の 80%以上と以下で 2 区分した。

※最終的な 2 カテゴリーの区分と一致したため、以降の表記も 2 区分で表記。

※「ものごとに集中できる静かな環境がある」、「きれいで清潔な部屋で過ごす」は予備調査後に除外した項目のため以降の解析結果の表記も下部に区分して表記した。

3. 妥当性と信頼性の検証（表 13～31 ; Spearman 順位相関係数・Mann-Whitney U test）

妥当性の検証；生活状態項目毎の一般化可能性の側面

「実現できている程度」、「実現したい程度」の生活状態項目毎の各属性との関連性（性質・解釈の一貫性）

- 表 13；予備調査 (n=58) 本調査 (n=139) 生活状態項目を「実現できている程度」及び「実現したい程度」と「年齢」の関連性 (Spearman 順位相関係数)
予備調査介護支援専門員回答の「実現したい程度」の「家の周りが片付いている； $\rho = -.35$ 」、「部屋になじみのものが置いてある； $\rho = -.33$ 」で中程度の負の相関を認めた。
本調査認知症のご本人回答の「実現したい程度」の「買い物をする機会がある； $\rho = -.21$ 」で弱い負の相関を認めた。
その他の項目と「実現できている程度」では有意な相関を認めなかった。
- 表 14；予備調査 (n=58) 生活状態項目を「実現したい程度」と「性別」の関連性 (Mann-Whitney U test)
有意差を認めなかった。
- 表 15；予備調査 (n=58) 生活状態項目を「実現できている程度」と「性別」の関連性 (Mann-Whitney U test)
有意差を認めなかった。
- 表 16；本調査 (n=139) 生活状態項目を「実現したい程度」と性別の関連性 (Mann-Whitney U test)
認知症のご本人の「家の外になじみの場所がある； $r = .24$ ，中央値＝男性 2.00，女性 3.00」で女性が低い、「いろいろな行事を楽しむ 例) 誕生日、正月、花見、七夕、月見、クリスマスなど； $r = .22$ ，中央値＝男性 3.00，女性 3.00」で中央値は同じで、有意差を認め、いずれも効果量は小さかった。
その他の項目では有意差を認めなかった。
- 表 17；予備調査 (n=58)、本調査 (n=139) 生活状態項目を「実現できている程度」及び「実現したい程度」と「要介護度」の関連性 (Spearman 順位相関係数)
予備調査「実現できている程度」の認知症のご本人とご家族の「買い物をする機会がある；認知症のご本人 $\rho = -.36$ ，ご家族 $\rho = -.39$ 」と認知症のご本人の「部屋になじみのものが置いてある $\rho = -.36$ 」、「夜ぐっすり眠れる $\rho = -.37$ 」で、中程度の負の相関を認めた。
予備調査「実現したい程度」認知症のご本人の「部屋になじみのものが置いてある $\rho = -.34$ 」と介護支援専門員の「心地よい部屋で過ごす 例) 色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど $\rho = -.45$ 」、「夜ぐっすり眠れる $\rho = -.41$ 」で中程度の負の相関を認めた。
本調査「実現したい程度」認知症のご本人の「夜ぐっすり眠れる $\rho = -.22$ 」、介護支援専門員の「家の外になじみの場所がある $\rho = -.22$ 」で弱い負の相関を認めた。
その他の項目では有意な相関を認めなかった。
- 表 18；予備調査 (n=58)、本調査 (n=139) 生活状態項目を「実現できている程度」及び「実現したい程度」と「認知症高齢者の日常生活自立度」の関連性 (Spearman 順位相関係数)
予備調査「実現できている程度」認知症のご本人の「自分で使えるお金をもっている $\rho = -.39$ 」で中程度の負の相関を、ご家族と介護支援専門員の「軽い運動をする (散歩を含む) ご家族 $\rho = -.38$ ，介護支援専門員 $\rho = -.34$ 」の 2 者で中程度の負の相関を認めた。
予備調査「実現したい程度」認知症のご本人の「トイレに行く $\rho = .33$ 」で中程度の正の相関を認めた。
その他の項目では有意な相関を認めなかった。

- 表 19 ; 予備調査 (n=58)、本調査 (n=139) 生活状態項目を「実現できている程度」及び「実現したい程度」と「障害高齢者の日常生活自立度」の関連性 (Spearman 順位相関係数)
 - 予備調査「実現できている程度」認知症のご本人の「買い物をする機会がある $\rho = -.33$ 」、「家の外になじみの場所がある $\rho = -.36$ 」で中程度の負の相関を、介護支援専門員の「食事がおいしい $\rho = .34$ 」で中程度の正の相関を認めた。
 - 予備調査「実現したい程度」介護支援専門員の「部屋になじみのものが置いてある $\rho = -.36$ 」で中程度の負の相関を認めた。
 - 本調査「実現したい程度」の認知症のご本人の「買い物をする機会がある $\rho = -.26$ 」介護支援専門員の「安全に外出し、帰宅できる $\rho = -.25$ 」で弱い負の相関を認めた。
 - その他の項目では、有意な相関を認めなかった。
- 表 20 ; 予備調査 (n=58) 生活状態項目を「実現したい程度」と「介護支援専門員が推測したご家族の介護負担感 (精神的負担感：軽度～なし・中度以上)」の関連性 (Mann-Whitney U test)
 - 有意差を認めなかった。
- 表 21 ; 予備調査 (n=58) 生活状態項目を「実現できている程度」と「介護支援専門員が推測したご家族の介護負担感 (精神的負担感：軽度～なし・中度以上)」の関連性 (Mann-Whitney U test)
 - ご家族、介護支援専門員の「選挙に行くなどの政治活動を行う；ご家族； $r = .42$, 中央値＝軽度～なし 3.00, 中度以上 1.00, 介護支援専門員； $r = .41$, 中央値＝軽度～なし 4.00, 中度以上 1.00」で 2 者とも軽度～なしが高いで、有意差を認め、効果量は中程度であった。
 - その他の項目では有意差を認めなかった。
- 表 22 ; 本調査 (n=139) 生活状態項目を「実現したい程度」と「介護支援専門員が推測したご家族の介護負担感 (精神的負担感：軽度～なし・中度以上)」の関連性 (Mann-Whitney U test)
 - 介護支援専門員の「安全に外出し、帰宅できる； $r = .21$, 中央値＝軽度～なし 3.00, 中度以上 4.00」で中度以上が高いで、有意差を認め、効果量は小さかった。
 - その他の項目では有意差を認めなかった。
- 表 23 ; 予備調査 (n=58) 生活状態項目を「実現したい程度」と「介護支援専門員が推測したご家族の介護負担感 (身体的負担感：軽度～なし・中度以上)」の関連性 (Mann-Whitney U test)
 - 認知症のご本人の「心地よい部屋で過ごす 例) 色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど； $r = .33$, 中央値＝軽度～なし 4.00, 中度以上 3.00」で軽度～なしが高い、「きれいで清潔な部屋で過ごす； $r = .36$, 中央値＝軽度～なし 4.00, 中度以上 3.00」で軽度～なしが高いで、有意差を認め、効果量は中程度であった。
 - その他の項目では有意差を認めなかった。
- 表 24 ; 予備調査 (n=58) 生活状態項目を「実現できている程度」と「介護支援専門員が推測したご家族の介護負担感 (身体的負担感：軽度～なし・中度以上)」の関連性 (Mann-Whitney U test)
 - 認知症のご本人の「趣味やレクリエーションなどたのしい活動をする 例) 読書、音楽鑑賞、旅行など； $r = .35$, 中央値＝軽度～なし 3.00, 中度以上 2.00」で軽度～なしが高い、「心地よい部屋で過ごす 例) 色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど； $r = .34$, 中央値＝軽度～なし 4.00, 中度以上 3.00」で軽度～なしが高い、「きれいで清潔な部屋で過ごす； $r = .36$, 中央値＝軽度～なし 4.00, 中度以上 3.00」で軽度～なしが高い、

認知症のご本人とご家族の「夜ぐっすり眠れる；認知症のご本人： $r=.35$ ，中央値＝軽度～なし 4.00，中度以上 3.00，ご家族： $r=.32$ ，中央値＝軽度～なし 4.00，中度以上 3.00」で 2 者とも軽度～なしが高いで、有意差を認め、いずれも効果量は中程度であった。

ご家族と介護支援専門員の「トイレに行く；ご家族： $r=.37$ ，中央値＝軽度～なし 4.00，中度以上 3.00，介護支援専門員： $r=.27$ ，中央値＝軽度～なし 4.00，中度以上 3.50」で 2 者とも軽度～なしが高いで、有意差を認め、効果量は小～中程度であった。

- 表 25；本調査（ $n=139$ ）生活状態項目を「実現したい程度」と「介護支援専門員が推測したご家族の介護負担感（身体的負担感：軽度～なし・中度以上）」の関連性（Mann-Whitney U test）

有意差を認めなかった。

- 表 26；予備調査（ $n=58$ ）生活状態項目を「実現したい程度」と「介護支援専門員が推測したご家族の介護負担感（経済的負担感：軽度～なし・中度以上）」の関連性（Mann-Whitney U test）

ご家族の「部屋になじみのものが置いてある $r=.43$ ，中央値＝軽度～なし 4.00，中度以上 3.00」で軽度～なしが高い、「家族や親戚、親しい人たちとのつながりが保たれている $r=.40$ ，中央値＝軽度～なし 4.00，中度以上 3.00」で軽度～なしが高い、「物事に集中できる静かな環境がある $r=.37$ ，中央値＝軽度～なし 4.00，中度以上 3.00」で軽度～なしが高いで、有意差を認め、いずれも効果量は中程度であった。

ご家族と介護支援専門員の「家の中に落ち着ける居場所がある；ご家族： $r=.33$ ，中央値＝軽度～なし 4.00，中度以上 3.00，介護支援専門員： $r=.39$ ，中央値＝軽度～なし 4.00，中度以上 3.00」で 2 者とも軽度～なしが高い、「トイレに行く」の「ご家族： $r=.45$ ，中央値＝軽度～なし 4.00，中度以上 3.00」で軽度～なしが高く、「介護支援専門員： $r=.28$ ，中央値＝軽度～なし 4.00，中度以上 4.00」で中央値は同じ、「きれいで清潔な部屋で過ごす；ご家族： $r=.35$ ，中央値＝軽度～なし 4.00，中度以上 3.00，介護支援専門員： $r=.38$ ，中央値＝軽度～なし 4.00，中度以上 3.00」で 2 者とも軽度～なしが高い、介護支援専門員の「心地よい部屋で過ごす 例）色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど； $r=.41$ ，中央値＝軽度～なし 4.00，中度以上 3.00」で軽度～なしが高いで、有意差を認め、効果量は小～中程度であった。

その他の項目では有意差を認めなかった。

- 表 27；予備調査（ $n=58$ ）生活状態項目を「実現できている程度」と「介護支援専門員が推測したご家族の介護負担感（経済的負担感：軽度～なし・中度以上）」の関連性（Mann-Whitney U test）

認知症のご本人の「家の周りが片付いている； $r=.28$ ，中央値＝軽度～なし 4.00，中度以上 3.00」で軽度～なしが高いで、有意差認め、効果量は小さかった。

認知症のご本人とご家族の「部屋になじみのものが置いてある；ご家族： $r=.37$ ，中央値＝軽度～なし 4.00，中度以上 3.00，介護支援専門員： $r=.41$ ，中央値＝軽度～なし 4.00，中度以上 3.00」で 2 者とも軽度～なしが高い、「夜ぐっすり眠れる；ご家族： $r=.33$ ，中央値＝軽度～なし 4.00，中度以上 3.00，介護支援専門員： $r=.48$ ，中央値＝軽度～なし 4.00，中度以上 3.00」で 2 者とも軽度～なしが高いで、有意差を認め、効果量はいずれも中程度であった。

介護支援専門員の「家の中に落ち着ける居場所がある； $r=.38$ ，中央値＝軽度～なし 4.00，中度以上 3.00」、「きれいで清潔な部屋で過ごす； $r=.41$ ，中央値＝軽度～なし 4.00，中度以上 3.00」、「物事に集中できる静かな環境がある； $r=.34$ ，中央値＝軽度～なし 4.00，中度以上 3.00」で軽度～なしが高いで、有意差を認め、効果量は中程度であった。

その他の項目では有意差を認めなかった。

- 表 28 ; 本調査 (n=139) 生活状態項目を「実現したい程度」と「介護支援専門員が推測したご家族の介護負担感 (経済的負担感 : 軽度～なし・中度以上)」の関連性 (Mann-Whitney U test)
有意差を認めなかった。
 - 表 29 ; 予備調査 (n=58) 生活状態項目を「実現したい程度」と「過去 1 か月の間の BPSD (あり・なし)」の関連性 (Mann-Whitney U test)
認知症のご本人「トイレに行く ; $r=.33$, 中央値=あり 4.00, なし 4.00」で中央値は同じ、ご家族の「選挙に行くなどの政治活動を行う ; $r=.35$, 中央値=あり 2.00, なし 3.00」でなしが高いで、有意差を認め、効果量はいずれも中程度であった。
その他の項目では有意差を認めなかった。
 - 表 30 ; 予備調査 (n=58) 生活状態項目を「実現できている程度」と「過去 1 か月の間の BPSD (あり・なし)」の関連性 (Mann-Whitney U test)
ご家族・介護支援専門員の「選挙に行くなどの政治活動を行う ; ご家族 : $r=.34$, 中央値=あり 1.00, なし 2.00, 介護支援専門員 : $r=.41$, 中央値=あり 1.00, なし 2.00」で 2 者ともなしが高いで、有意差を認め、効果量は中程度であった。
介護支援専門員の「物事に集中できる静かな環境がある ; $r=.29$, 中央値=あり 3.00, なし 4.00」でなしが高いで、有意差を認め、効果量は小さかった。
その他の項目では有意差を認めなかった。
 - 表 31 ; 本調査 (n=139) 生活状態項目を「実現したい程度」と「過去 1 か月の間の BPSD (あり・なし)」の関連性 (Mann-Whitney U test)
有意差を認めなかった。
4. 予備調査と本調査毎の「実現したい程度」の生活状態項目毎の評価者間 (認知症のご本人・ご家族・介護支援専門員) の判断一致度
- 表 32 ; 予備調査 (n=58) 本調査 (n=139) 生活状態項目を「認知症などの病気により自分の考えをうまく伝えることが難しくなっても実現したい程度」と評価者間の判断一致傾向 (Spearman 順位相関係数)
予備調査結果で有意な相関を認めなかった項目の中で、本調査でも同様に有意な相関を認めなかった項目は、認知症のご本人と介護支援専門員の「トイレに行く $\rho=.16$ 」、ご家族と介護支援専門員の「家の外になじみの場所がある $\rho=.06$ 」、「部屋になじみのものが置いてある $\rho=.19$ 」の 3 項目で、いずれも効果量は小さかった。
本調査でのみ、有意な相関を認めなかったのは、認知症のご本人とご家族の「趣味やレクリエーションなどたのしい活動をする (例) 読書、音楽鑑賞、旅行など $\rho=.18$ 」、認知症のご本人と介護支援専門員の「家族や親戚、親しい人たちとのつながりが保たれている $\rho=.19$ 」、認知症のご本人とご家族・ご家族と介護支援専門員の「話を聞いてくれる人がいる ; 2 ペアとも $\rho=.16$ 」であった。
5. 「実現できている程度 ; 高低 2 群」の評価者間 (認知症のご本人・ご家族・介護支援専門員) の判断一致度
- 表 33 ; 予備調査 (n=58) 生活状態項目を「実現できている程度」(高・低二群) と評価者間 (認知症のご本人・ご家族・介護支援専門員) 判断一致傾向 (Cohen's Kappa 係数)
認知症のご本人とご家族・認知症のご本人と介護支援専門員・ご家族と介護支援専門員で 3 ペアとも有意な一致係数を認めなかったのは、「地域の一員として社会参加する (例) 地域の掃除等 ; $\kappa=-.12 \cdot .22 \cdot .13$ 」であった。
認知症のご本人とご家族・認知症のご本人と介護支援専門員の 2 ペアで有意な一致

係数を認めなかったのは、「話を聞いてくれる人がいる $\kappa = .09 \cdot .15$ 」であった。認知症のご本人と介護支援専門員・ご家族と介護支援専門員の2ペアで有意な一致係数を認めなかったのは、「日中は適切で清潔な服に着替える $\kappa = .19 \cdot .26$ 」であった。

その他に、有意な一致係数を認めなかったのは、認知症のご本人とご家族の「家の外になじみの場所がある $\kappa = .25$ 」、「軽い運動をする（散歩を含む） $\kappa = .29$ 」、「お風呂に入る $\kappa = .19$ 」、認知症のご本人と介護支援専門員の「身だしなみを整える $\kappa = .30$ 」、「健康的な食事ができる $\kappa = .13$ 」、「食事がおいしい $\kappa = .24$ 」、「夜ぐっすり眠れる $\kappa = .08$ 」であった。

その他の項目は、有意な一致係数を認めた。

6. 予備調査と本調査毎の「実現したい程度」の生活状態項目間の評価者内（認知症のご本人・ご家族・介護支援専門員）の判断一致度（類似項目）

- 表 34；予備調査（ $n=58$ ）本調査（ $n=139$ ）生活状態項目を「実現したい程度」の評価者内の項目間判断類似傾向（Spearman 順位相関係数）

予備調査で有意な項目間相関（ $\rho = .70$ 以上）を認めたのは、認知症のご本人の「心地よい部屋で過ごす（例）色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど」、「家の中に落ち着ける居場所がある」、「夜ぐっすり眠れる」、「きれいで清潔な部屋で過ごす」、「ものごとに集中できる静かな環境がある」、ご家族の「部屋になじみのものが置いてある」、「身だしなみを整える」、「日中は適切で清潔な服に着替える」、「お風呂に入る」、「心地よい部屋で過ごす（例）色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど」、「健康的な食事ができる」、「家の中に落ち着ける居場所がある」、「食事がおいしい」、「家族や親戚、親しい人たちとのつながりが保たれている」、「話を聞いてくれる人がいる」、「トイレに行く」、「きれいで清潔な部屋で過ごす」、「ものごとに集中できる静かな環境がある」、介護支援専門員の「身だしなみを整える」であった。

予備調査では、その他に有意な項目間相関（ $\rho = .70$ 以上）を認めなかった。

予備調査と本調査ともに有意な項目間相関（ $\rho = .70$ 以上）を認めたのは、介護支援専門員の「身だしなみを整える」のみであった。

本調査ではその他に有意な項目間相関（ $\rho = .70$ 以上）を認めなかった。

7. 予備調査と本調査間の「実現したい程度」の生活状態項目毎の評価者毎（認知症のご本人・ご家族・介護支援専門員）の判断一致度（再テスト）

- 表 35；予備調査（ $n=58$ ）本調査（ $n=139$ ）生活状態項目を「実現したい程度」（再テスト：予備調査と本調査）の判断一致傾向（Mann-Whitney U test）

認知症のご本人の「買い物をする機会がある； $r = .19$ ，中央値＝予備調査 3.00，本調査 2.00」で予備調査が高い、ご家族の「心地よい部屋で過ごす（例）色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど； $r = .14$ ，中央値＝予備調査 3.00，本調査 4.00」で本調査が高い、「健康的な食事ができる； $r = .15$ ，中央値＝予備調査 4.00，本調査 4.00」で中央値は同じで、有意差を認め、効果量はいずれも小さかった。

介護支援専門員の「家の周りが片付いている； $r = .16$ ，中央値＝予備調査 3.00，本調査 3.00」、「健康的な食事ができる； $r = .15$ ，中央値＝予備調査 4.00，本調査 4.00」でいずれも中央値は同じで、有意差を認め、効果量はいずれも小さかった。

8. 予備調査の生活状態項目についての評価者毎（認知症のご本人・ご家族・介護支援専門員）の自由記述

- 表 36；予備調査（ $n=58$ ）；生活状態項目についての自由記述では、介護支援専門員の「きれいで清潔な部屋で過ごす」、「心地よい部屋で過ごす（例）色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど」の類似性についての意見、「ものごとに集中できる静かな環境がある」と「家の中に落ち着ける居場所がある」の類似性についての意見などがあつた。

9. 生活安定度；VAS の評価者間（認知症のご本人・ご家族・介護支援専門員）の関連性

- 表 37-1；予備調査（n=58）生活安定度（VAS）「現在、ご本人の生活の内容はどの程度安定していますか」の評価者間（認知症のご本人・ご家族・介護支援専門員）の関連性（Friedman 検定、Wilcoxon 符号付順位和検定、Spearman 順位相関係数）
「認知症のご本人とご家族」、「認知症のご本人と介護支援専門員」、「ご家族と介護支援専門員」間では有意差を認めなかったが、3 ペアそれぞれで中程度の正の相関を認めた（ $\rho > .42$ ）。

10. 精神的健康状態；WHO-5（認知症のご本人・ご家族）の関連性

- 表 37-2；予備調査（n=58）精神的健康状態（WHO-5）の認知症のご本人とご家族の関連性（Wilcoxon 符号付順位和検定、Spearman 順位相関係数）
有意差は認めなかったが、中程度の正の相関を認めた（ $\rho = .52$ ）。

11. 生活安定度；VAS、精神的健康状態；WHO-5、生活の質；short QOL-D の関連性

- 表 37-3；予備調査（n=58）認知症のご本人の生活の質（short QOL-D）と精神的健康状態（WHO-5；認知症のご本人とご家族）、生活安定度（VAS）「現在、ご本人の生活の内容はどの程度安定していますか」の関連性（Spearman 順位相関係数）
認知症のご本人の生活安定度（VAS）と生活の質（short QOL-D）で有意な相関を認めなかったが、その他のすべてのペアで軽～中程度の正の相関を認めた（ $\rho > .37$ ）。

12. 「実現できている程度」の評価者毎（認知症のご本人・ご家族・介護支援専門員）と生活安定度；VAS（認知症のご本人・ご家族・介護支援専門員）の関連性

- 表 38；予備調査（n=58）生活状態項目を「介護保険サービスやご家族等の支援をうけながら実現できている程度」と生活安定度（VAS）「現在、ご本人の生活の内容はどの程度安定していますか」の関連性（Spearman 順位相関係数）
認知症のご本人の「実現できている程度」と認知症のご本人・ご家族・介護支援専門員のいずれかの VAS で有意な相関を認めたのは、「日中は適切で清潔な服に着替える」、「心地よい部屋で過ごす 例）色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど」「きれいで清潔な部屋で過ごす」、「ものごとに集中できる静かな環境がある」であった（ $\rho > .33$ ）。
ご家族の「実現できている程度」と認知症のご本人・ご家族・介護支援専門員のいずれかの VAS で有意な相関を認めなかったのは、「地域の一員として社会参加する 例）地域の掃除等」、「買い物をする機会がある」、「家の外になじみの場所がある」、「自分で使えるお金をもっている」、「趣味やレクリエーションなどたのしい活動をする 例）読書、音楽鑑賞、旅行など」、「安全に外出し、帰宅できる」の 6 項目で、その他の項目は 3 者のいずれかの VAS で有意な相関を認めた（ $\rho > .34$ ）。
介護支援専門員の「実現できている程度」と認知症のご本人・ご家族・介護支援専門員のいずれかの VAS で有意な相関を認めなかったのは、「買い物をする機会がある」、「家の外になじみの場所がある」、「自分で使えるお金をもっている」、「いろいろな行事を楽しむ 例）誕生日、正月、花見、七夕、月見、クリスマスなど」、「趣味やレクリエーションなどたのしい活動をする 例）読書、音楽鑑賞、旅行など」、「安全に外出し、帰宅できる」、「身だしなみを整える」、「テレビを見たり新聞を読んだりする」、「健康的な食事ができる」、「家の中に落ち着ける居場所がある」、「話を聞いてくれる人がいる」、「トイレに行く」の 12 項目で、その他の項目は 3 者のいずれかの VAS で有意な相関を認めた（ $\rho > .33$ ）。

13. 「実現できている程度」の評価者毎（認知症のご本人・ご家族・介護支援専門員）と精神的健康状態；WHO-5（認知症のご本人・ご家族）の関連性

- 表 39；予備調査（n=58）生活状態項目を「介護保険サービスやご家族等の支援をうけながら実現できている程度」と精神的健康状態（WHO5；認知症のご本人・ご家族）の関連性（Spearman 順位相関係数）

認知症のご本人の「実現できている程度」と認知症のご本人の精神的健康状態（WHO-5）で有意な相関を認めなかったのは、「地域の一員として社会参加する 例）地域の掃除等」、「買い物をする機会がある」、「家の外になじみの場所がある」、「自分で使えるお金をもっている」、「部屋になじみのものが置いてある」、「お風呂に入る」、「家族や親戚、親しい人たちとのつながりが保たれている」「話を聞いてくれる人がいる」、「トイレに行く」で、その他の項目は有意な相関を認めた（ $\rho > .34$ ）。

認知症のご本人の「実現できている程度」とご家族の精神的健康状態（WHO-5）で有意な相関を認めたのは、「ものごとに集中できる静かな環境がある」のみであった。

その他の項目では有意な相関を認めなかった。

ご家族の「実現できている程度」と認知症のご本人の精神的健康状態で有意な相関を認めなかったのは、「地域の一員として社会参加する 例）地域の掃除等」、「買い物をする機会がある」、「家の外になじみの場所がある」、「自分で使えるお金をもっている」、「趣味やレクリエーションなどの楽しい活動をする 例）読書、音楽鑑賞、旅行など」、「家の中に落ち着ける居場所がある」「ものごとに集中できる静かな環境がある」で、その他の項目では有意な相関を認めた（ $\rho > .30$ ）。

ご家族の「実現できている程度」とご家族の精神的健康状態で有意な相関を認めたのは、「いろいろな行事を楽しむ 例）誕生日、正月、花見、七夕、月見、クリスマスなど」、「軽い運動をする（散歩を含む）」、「心地よい部屋で過ごす 例）色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど」、「夜ぐっすり眠れる」、「家族や親戚、親しい人たちとのつながりが保たれている」、「話を聞いてくれる人がいる」、「きれいで清潔な部屋で過ごす」、「ものごとに集中できる静かな環境がある」であった（ $\rho > .30$ ）。その他の項目では有意な相関を認めなかった。

介護支援専門員の「実現できている程度」と認知症のご本人の精神的健康状態で有意な相関を認めたのは、「家族や周りの人の役に立つことをしている」、「家の周りが片付いている」、「いろいろな行事を楽しむ 例）誕生日、正月、花見、七夕、月見、クリスマスなど」、「軽い運動をする（散歩を含む）」、「安全に外出し、帰宅できる」、「日中は適切で清潔な服に着替える」、「お風呂に入る」、「心地よい部屋で過ごす 例）色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど」、「食事がおいしい」、「夜ぐっすり眠れる」、「話を聞いてくれる人がいる」、「トイレに行く」、「ものごとに集中できる静かな環境がある」であった（ $\rho > .30$ ）。その他の項目は有意な相関を認めなかった。

介護支援専門員の「実現できている程度」とご家族の精神的健康状態で有意な相関を認めたのは、「地域の一員として社会参加する 例）地域の掃除等」、「部屋になじみのものが置いてある」、「心地よい部屋で過ごす 例）色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど」、「家の中に落ち着ける居場所がある」、「夜ぐっすり眠れる」、「家族や親戚、親しい人たちとのつながりが保たれている」、「ものごとに集中できる静かな環境がある」であった（ $\rho > .31$ ）。その他の項目では有意な相関を認めなかった。

14. 「実現できている程度」の評価者毎（認知症のご本人・ご家族・介護支援専門員）と生活の質；short QOL-D の関連性

- 表 40；予備調査（n=58）生活状態項目を「実現できている程度」と生活の質（short QOL-D）の関連性（Spearman 順位相関係数）

認知症のご本人の「実現できている程度」と生活の質（QOL-D）で有意な相関を認めたのは、「選挙に行くなどの政治活動を行う」のみであった（ $\rho = .38$ ）。その他は有意な相関を認めなかった。

ご家族の「実現できている程度」と生活の質（QOL-D）で有意な相関を認められたのは、「地域の一員として社会参加する」、「軽い運動をする」、「食事がおいしい」、「話を聞いてくれる人がいる」の合計点（ $\rho > .33$ ）、「選挙に行くなどの政治活動を行う」、「家の外になじみの場所がある」、「家族や周りの人の役に立つことをしている」、「いろいろな行事を楽しむ 例）誕生日、正月、花見、七夕、月見、クリスマスなど」、「趣味やレクリエーションなどたのしい活動をする 例）読書、音楽鑑賞、旅行など」の陽性点と合計点であった（ $\rho > .43$ ）。その他の項目では有意な相関を認めなかった。

介護支援専門員の「実現できている程度」と生活の質（QOL-D）で有意な相関を認められたのは、「家族や周りの人の役に立つことをしている」、「話を聞いてくれる人がいる」の合計点（ $\rho = .38$ ）、「趣味やレクリエーションなどたのしい活動をする 例）読書、音楽鑑賞、旅行など」の陽性点と合計点であった（ $\rho > .43$ ）。その他の項目では有意な相関を認めなかった。

II. 解析の主目的；生活安寧指標の確定

15. 本調査の生活状態項目を「実現したい程度」の評価者毎（認知症のご本人・ご家族）と二者間の共通因子（下位尺度）構造

- 表 41；本調査（ $n=139$ ）生活状態項目を「認知症などの病気により自分の考えをうまく伝えることが難しくなっても実現したい程度；認知症のご本人・ご家族評価」の因子分析による二カテゴリー（因子抽出法：最尤法、回転法：Kaiser の正規化を伴うプロマックス法）

認知症のご本人・ご家族ともモデル適合度（ χ^2 ； $p = .011 < .001$ ）が高いとは言えないが、Kaiser-Meyer-Olkin の標本妥当性（.80・.85）および Bartlett の球面性検定（共に $p < .001$ ）は担保されていた。

認知症のご本人の 6 因子とご家族の 2 因子を抽出し、認知症のご本人の 1, 2 因子と 3~6 因子の 2 区分とご家族の 2 因子で共通傾向のある 2 カテゴリー構成を認めた。なお、この 2 カテゴリーは認知症のご本人が「実現したい程度」が「高い」の割合で二区分（80%以上；13 項目カテゴリー、80%以下 11 項目カテゴリー）した結果と一致した（表 11）。

13 項目カテゴリー；「家の中に落ち着ける居場所がある」、「家族や親戚、親しい人たちとのつながりが保たれている」、「部屋になじみのものが置いてある」、「心地よい部屋で過ごす 例）色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど」、「テレビを見たり新聞を読んだりする」、「夜ぐっすり眠れる」、「話を聞いてくれる人がいる」、「食事がおいしい」、「お風呂に入る」、「身だしなみを整える」、「日中は適切で清潔な服に着替える」、「健康的な食事ができる」、「トイレに行く」。

11 項目カテゴリー；「買い物をする機会がある」、「自分で使えるお金をもっている」、「趣味やレクリエーションなどたのしい活動をする 例）読書、音楽鑑賞、旅行など」、「いろいろな行事を楽しむ 例）誕生日、正月、花見、七夕、月見、クリスマスなど」、「家の外になじみの場所がある」、「家の周りが片付いている」、「地域の一員として社会参加する 例）地域の掃除等」、「選挙に行くなどの政治活動を行う」、「家族や周りの人の役に立つことをしている」、「安全に外出し、帰宅できる」、「軽い運動をする（散歩を含む）」。

16. 確定した下位尺度（2 カテゴリー）に基づいた「実現できている程度；ご家族評価」の一貫性

注）下位尺度の検証は予備調査の「実現できている程度」に因子分析で確定した 2 カテゴリー構造を適用

- 表 42；予備調査（ $n=58$ ）生活状態項目を「実現できている程度；ご家族評価」の基礎統

計量と生活安寧指標（2 カテゴリー）の信頼性検討（Cronbach α ）

13 項目カテゴリー； α 係数=.86、11 項目カテゴリー； α 係数=.81 であった。2 カテゴリーとも項目を削除した場合の α 係数が.01 以上高まる項目はなかった。

17. 「実現できている程度；ご家族評価」の下位尺度（2 カテゴリー）毎と基本属性の関連性（性質・解釈の一貫性）

- 表 43-1；予備調査(n=58)生活状態項目を「介護保険サービスやご家族等の支援をうけながら実現できている程度；ご家族評価」の2 カテゴリー(13 項目平均と11 項目平均)と属性(性別・BPSD・介護負担感)の関連性(Mann-Whitney U test)

13 項目カテゴリー・11 項目カテゴリーとも「性別」、「BPSD」、「精神的介護負担」、「身体的介護負担」では有意差を認めなかった。

「経済的介護負担」では2 カテゴリーそれぞれで有意差を認め、効果量は2 カテゴリーともに小さかった ($r < .04$)。

- 表 43-2 予備調査(n=58)生活状態項目を「介護保険サービスやご家族等の支援をうけながら実現できている程度；ご家族評価」の13 項目平均と11 項目平均と属性(要介護度・認知症高齢者の日常生活自立度・障害高齢者の日常生活自立度)の関連性(Spearman 順位相関係数)

有意な相関を認めなかった。

18. 「実現できている程度；ご家族評価」の下位尺度（2 カテゴリー）毎の生活安定度；VAS、精神的健康状態；WHO-5、生活の質；short QOL-D の関連性

- 表 44；予備調査(n=58)生活状態項目を「実現できている程度；ご家族評価」の13 項目カテゴリー合計と11 項目カテゴリー合計と生活安定度(生活安定度；VAS、精神的健康状態；WHO-5、生活の質；short QOL-D)の関連性(Spearman 順位相関係数)

認知症のご本人・ご家族・介護支援専門員の生活安定度(VAS)はともに13 項目カテゴリーと中程度の正の相関を認めた($\rho > .46$)が、11 項目カテゴリーとは有意な相関を認めなかった。認知症のご本人・ご家族の精神的健康状態(WHO-5)は13 項目カテゴリー・11 項目カテゴリーともそれぞれ中程度の正の相関を認めた($\rho > .35$)。生活の質(short QOL-D；総合計と陽性項目合計)は11 項目カテゴリーと中程度の正の相関を認めたが($\rho > .56$)、13 項目カテゴリーでは有意な相関を認めなかった。

19. 「実現できている程度；ご家族評価」の下位尺度（2 カテゴリー）、生活安定度；VAS（認知症のご本人）、精神的健康状態；WHO-5（認知症のご本人・ご家族）、生活の質；short QOL-D の関連性（構造と影響）

- 図 2；予備調査(n=58)生活状態項目を「介護保険サービスやご家族等の支援をうけながら実現できている程度；ご家族評価」の11 項目カテゴリー(合計)と13 項目カテゴリー(合計)と生活安定度；VAS、精神的健康状態；WHO-5、生活の質；short QOL-D のパス図

13 項目カテゴリーからご本人の生活安定度(VAS)への関連($r = .64, p < .001$ ； $R^2 = .41, p < .001$)と13 項目カテゴリーが11 項目カテゴリーを経て($r = .58, p < .001$ ； $R^2 = .34, p < .001$)、生活の質(short-QOL-D)への関連($r = .56, p < .001$ ； $R^2 = .31, p < .001$)が、いずれもご本人の精神的健康状態(WHO-5)に関連(VAS： $r = .52, p < .001$ / short QOL-D： $r = .41, p < .001$ ； $R^2 = .53, p < .001$)し、さらに、ご家族の精神的健康状態(WHO-5)に関連($r = .64, p < .001$ ； $R^2 = .41, p < .001$)する適合度の高いモデルを抽出した($n=33, \chi^2=4.53, df=9, p=.87, CFI=1.00, RMSEA=.000, AIC=40.53$)。

20. 「実現できている程度；ご家族評価」の下位尺度（2 カテゴリー）得点の算出と平均値の比較
- 表 45、図 3；予備調査 (n=58) 生活状態項目を「介護保険サービスやご家族等の支援を受けながら実現できている程度；ご家族評価」の 13 項目合計(平均)と 11 項目合計(平均) の比較 (Paired t-test)
13 項目カテゴリー平均；3.35、11 項目カテゴリー平均；2.45 で有意差を認めた ($t=9.72$, $df=34$, $p<.001$, $r=.86$, 95%CI；.72-1.09)。
21. 下位尺度（2 カテゴリー）を適用した予備調査と本調査の「実現できている程度」、「実現したい程度」の欠損値の関連性
- 表 46；予備調査 (n=58) 本調査 (n=139) 生活状態項目を「認知症などの病気により自分の考えをうまく伝えることが難しくなっても実現したい程度」の 13 項目と 11 項目の欠損値の関連性 (χ^2 検定)
本調査 13 項目カテゴリーと 11 項目カテゴリー、予備調査と本調査の 13 項目カテゴリー間、と 11 項目カテゴリー間のそれぞれで有意差を認めた ($p<.05$)。
 - 表 47；予備調査 (n=58) 生活状態項目を「介護保険サービスやご家族等の支援を受けながら実現できている程度」の 11 項目と 13 項目の欠損値の関連性 (Fisher's Exact Test)
13 項目カテゴリーと 11 項目カテゴリー間で有意差を認めた ($p=.006$)。

第3章 認知症施策のアウトカムとしての認知症のご本人やご家族の生活安寧指標

本研究結果に基づき、「認知症のご本人やご家族の生活安寧指標」全24項目（2カテゴリ；13項目カテゴリ・11項目カテゴリ）を確定した。

1. 先行研究調査

安寧の定義・概念および認知症の人の「安寧」に関する評価尺度の定義を調査した結果、辞書・辞典による「安寧」の定義・概念は一般の国内辞典・辞書では「より静的な場の状態」を、医療介護福祉辞典・辞書では「健康概念に関する個人の良好な質的状态」を含意していると考えられた。認知症の人の「安寧」の評価尺度は見当たらなかった。一般の人を対象とした「安寧感」の指標は国外近似概念の既存尺度を邦訳して代用したものがあつたが当該研究目的と合致する尺度は見当たらなかった。

2. 研究過程

認知症のご本人やご家族の視点をより正確に把握することを重視した。認知症が重度になった時の認知症のご本人は、「安寧な生活」を自ら語り、図ることができづらいと推察し、当該研究では調査協力介護支援専門員が「ほぼ正確に自らの意思を表明できる」と認めた認知症のご本人の回答をもって、推察のもと調査研究を遂行した。

3. 生活状態項目の原案

認知症のご本人やご家族の視点に立ち、「認知症などの病気により自分の考えをうまく伝えることが難しくなっても介護保険サービスやご家族の支援を受けながら実現したい生活状態」として、生活実感を表した生活項目・表現が適切と考え26項目の原案を作成した。

4. 調査

予備調査と本調査を実施した。予備調査では生活状態項目を確定するため、生活状態項目26項目に関する設問と、信頼性と妥当性の検証に必要な属性、外的指標（生活の質など）を調査した。本調査では、確定した生活状態項目24項目からなる生活安寧指標としての構造的側面を確定させ、信頼性と妥当性を検証するために必要な、生活状態項目24項目と、属性についての設問を調査した。

5. 解析

予備調査結果では、主目的を生活状態項目の確定とし、基本属性の基礎統計、生活状態項目の基礎統計、妥当性と信頼性の検証を実施した。本調査結果では、主目的を生活安寧指標の確定とし、構造的側面についての妥当性と信頼性の検証を実施した。

生活状態項目の確定のための解析に際しては、主に認知症のご本人やご家族が「実現したい程度」を基本とした。

6. 解析結果

1) 生活状態項目26項目毎の信頼性と妥当性及び、項目の過不足の検証

「実現したい程度」の評価者内（認知症のご本人とご家族毎）の項目間判断類似傾向において、「きれいで清潔な部屋で過ごす」、「ものごとに集中できる静かな環境がある」で、数個の他項目間との強い相関を認めた。また、生活状態項目についての自由記述において、「きれいで清潔な部屋で過ごす」、「心地よい部屋で過ごす 例）色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど」の類似性についての意見、「ものごとに集中できる静かな環境がある」と「家の中に落ち着ける居場所がある」の類似性についての意見などがあつたことから、「きれいで清潔な部屋で過ごす」、「ものごとに集中できる静かな環境がある」の2項目を削除した。

2) 生活状態項目 24 項目毎の信頼性と妥当性の検証

「実現したい程度」について、各属性で有意差を認めた項目もあったが、「1 できている・2 まあまあできている・3 あまりできていない・4 できていない」、「1 必ず必要・2 まあまあ必要・3 あまり必要ではない・4 必要ではない」各 4 段階の回答で、判断の基準が逆転する 2 以下が 3 以上となるような有意差は概ね認めなかった。ごく少数の解析結果の項目で、有意差を認めた場合も、その効果量は小さかった。相関についても、属性による有意な負の影響を示唆する解析結果は概ね認めなかった。ごく少数の解析結果で、負の影響を示唆する相関傾向を認めた場合も、その効果量は小さかった。

「実現したい程度」の評価者間（認知症のご本人・ご家族・介護支援専門員）と再テストの一致性の検証結果では概ね有意差は認めなかった。ごく少数の解析結果で、有意差や低い一致性を示唆した相関傾向を認めた場合も、その効果量は小さかった。

「実現できている程度」の評価者間（認知症のご本人・ご家族・介護支援専門員）の判断一致傾向では、3 者とも低い一致係数を認めたのは「地域の一員として社会参加する例；地域の掃除等」のみであった。低い一致係数は認知症のご本人・ご家族では 5 項目、認知症のご本人・介護支援専門員では 7 項目、ご家族・介護支援専門員では 2 項目であった。その他の 14 項目は 3 者とも高い判断一致係数であった。

「実現できている程度」とご本人の生活安定度（VAS）・精神的健康状態（WHO-5）・生活の質（short-QOL-D）の関連では、個々の項目では相関の有意性にばらつきを認めたが、下位尺度とした 2 カテゴリー（13 項目カテゴリー・11 項目カテゴリー）毎の群内の項目については有意な関連特性の群傾向を示唆した。

3) 生活安寧指標の構造的側面の信頼性と妥当性の検証

認知症のご本人の「実現したい程度」の「高い」の度数分布で 80%以上と以下の 2 区分かつ、「認知症のご本人とご家族」の「実現したい程度」の因子分析の結果と一致した 2 カテゴリー（13 項目カテゴリー・11 項目カテゴリー）を抽出した。また、2 カテゴリー毎の信頼性と妥当性を検証して生活安寧指標の下位尺度として確定した。

2 カテゴリー（13 項目カテゴリー平均と 11 項目カテゴリー平均）と属性（性別・BPSD・介護負担感）の関連性では、2 カテゴリーとも「性別」・「BPSD」・「精神的介護負担」・「身体的介護負担」では有意差を認めなかった。「経済的介護負担」では 2 カテゴリーそれぞれで有意差を認めたが効果量は小さかった。また、2 カテゴリーと属性（要介護度・認知症高齢者の日常生活自立度・障害高齢者の日常生活自立度）の関連性では有意な相関を認めなかった。

2 カテゴリーの下位尺度構造と「生活安寧」の関連については、13 項目から認知症のご本人の生活安定度（VAS）への関連と 13 項目が 11 項目を経て生活の質（short-QOL-D）への関連が、いずれも認知症のご本人の精神的健康状態（WHO-5）に関連し、さらに、ご家族の精神的健康状態（WHO-5）に関連する適合度の高いモデルを抽出した。

「実現できている程度」の 2 カテゴリー平均値の比較では有意差を認め、認知症のご本人の生活の安定度により関連する 13 項目カテゴリーよりも、生活の質により関連する 11 項目カテゴリーの方が低かった。

予備調査と本調査を通じた欠損値の関連では、設問項目の多かった予備調査の方が本調査よりも多い傾向を認めた。また、ご本人の生活の安定度により関連する 13 項目カテゴリーよりも、生活の質により関連する 11 項目カテゴリーの方が多い傾向を認めた。

第4章 考察

本研究は平成30年度厚生労働省老人保健健康増進等事業「認知症施策のアウトカムとしての認知症のご本人やご家族の視点を重視した評価指標の確立に関する研究」として、認知症のご本人やご家族の「生活安寧状態」を定量的に評価するための指標を開発するため、12名の有識者で構成した研究委員会、全国の介護支援専門員による認知症のご本人とご家族と介護支援専門員自身が回答するアンケート調査を実施し、「認知症のご本人やご家族の生活安寧指標；2カテゴリー全24生活状態項目」を開発した。

1. 研究過程

介護支援専門員の判断で「ご本人」と「ご家族」回答内容の「信憑性が高い」及び「家族関係が普通から良」の結果のみを用いたことで、認知症のご本人やご家族の視点をより正確に把握して指標に反映することができたと考ええる。

2. 生活状態項目

当該指標の活用目的として、全国どの地域においても使用できる指標を想定していることを踏まえ、より平準化したものを作成したが、生活実感の多様性（習慣、価値観、趣味・趣向等、個性、地域特性など）を専門家で議論し、カテゴライズするなどの表現の工夫により、平準化を担保しながらも、より具体的な生活実感を表現した項目とすることができたと考ええる。

3. 生活安寧指標

構造的側面については、認知症のご本人の視点を反映した「実現したい程度」の「高い」の度数分布の80%以上と以下の2区分かつ、ご家族の視点を反映した回答結果とも共通した2区分として解釈可能な下位尺度2カテゴリー（13項目カテゴリー・11項目カテゴリー）を確定したことから、認知症のご本人やご家族の視点を反映した指標の構造とすることができたと考ええる。

4. 生活状態項目毎の信頼性と妥当性

「実現したい程度」の属性との関連、評価者間（認知症のご本人・ご家族・介護支援専門員）の判断一致傾向では、概ね有意差は認めず、少数の項目で有意差や、一致度の低さを示唆する相関傾向を認めた場合も、その効果量は小さかった。このことから、生活状態項目の信頼性；一般化可能性を担保することができたと考ええる。

また、「実現できている程度」の評価者間（認知症のご本人・ご家族・介護支援専門員）の判断一致傾向でも、概ね有意差は認めず、少数の項目で有意差や、一致度の低さを示唆する相関傾向を認めた場合も、その効果量は小さかった。このことから、指標としての生活状態項目の信頼性；一般化可能性を担保することができたと考ええる。さらに、「実現できている程度」と属性の関連では、効果量が中程度で、有意差や相関傾向を認めた項目もあったことから、指標としての感度を担保できたと考ええる。

5. 生活安寧度と下位尺度との関連性

13項目カテゴリーから認知症のご本人の生活安定度（VAS）への関連と13項目カテゴリーが11項目カテゴリーを経て生活の質（short-QOL-D）への関連が、いずれも認知症のご本人の精神的健康状態（WHO-5）に関連し、さらに、ご家族の精神的健康状態（WHO-5）に関連したことから、当該研究で仮定した生活の安寧に寄与する生活状態項目モデルを抽出できたと考ええる。このことから、当該指標の生活状態項目及び、下位尺度2カテゴリー（13項目カテゴリー・11項目カテゴリー）の信頼性と妥当性を担保できたと考ええる。

第5章 今後の課題

1. 欠損値

予備調査と本調査を通じた生活状態項目の欠損値の関連では、設問項目の多かった予備調査の方が本調査よりも多い傾向を認め、また、ご本人の生活の安定度により関連する13項目カテゴリーよりも、生活の質により関連する11項目カテゴリーの方が多い傾向を認めた。

外的指標や属性などの調査量の多さの影響を示唆しており、活用の際に1枚の用紙となれば欠損値が減少することが推察できる。一方、ご本人の生活の安定度により関連する13項目カテゴリーよりも、生活の質により関連する11項目カテゴリーの方が多かった点について、2カテゴリー毎の項目内容と「実現できている程度」の度数分布などの傾向から推察すると、現在、「実現できている程度」が「実現したい程度」に影響を与えている可能性を示唆していると推察できる。特に、生活の質により関連する11項目カテゴリーは、13項目カテゴリーよりも「実現できている程度」の平均値が有意に低く、現在「実現できている程度」が低いことが、選択を困難にした結果「欠損値」として現れている可能性が考えられる。また、11項目カテゴリーの項目内容から推察すると、現在進行形の認知症施策と連動し、環境やフォーマルサービスやインフォーマル・サポートの充実していく過程の影響を受けながら「実現できている程度」を変遷させていくものと推察される。当該指標は、認知症のご本人とご家族の信憑性の高い回答、かつ家族関係が良好とされた回答結果を用いたことや、認知症のご本人とご家族では「実現したい程度」が高くなかった項目も、介護支援専門員が「実現したい程度」が高かった場合や、「実現できている程度」と生活の質などで正の相関があった場合などの根拠を含めて作成されており、目標的視点も含んでいると考えられる。

当該指標の活用における長期過程で、属性や欠損値も含めて解析することで認知症施策のアウトカムとして有益な情報を得ることが期待される。

2. 今後の活用に向けて

当該指標は、認知症施策のアウトカム指標として、自治体によるニーズ調査や地域間の比較などマクロな視点での活用を想定して開発された。認知症のご本人やご家族の視点を重視し、平準化しているができるだけ具体性のある生活実態を表現した当該指標は、生活安寧度の地域内や地域間の実態把握や、その結果を踏まえて、どのような点を充実するのかについての一助となりうる。また、施策の成果としての経過や効果を把握し、事業計画などにおいて認知症のご本人やご家族の視点を重視した具体的な対策案を検討する際の一助となることも期待される。今後、活用の知見が増え検証を継続し、属性やADLやIADLなどとの関連性を検証することで、個人レベルでのケアの指標としての活用にもつながる可能性が考えられる。

今後は、まず、マクロな視点での活用のための検討が必要である。具体的には、生活状態項目を実現する視点で必要となる、項目毎の構成要素についての知見などが考えられる。

第6章 まとめ

当該研究では、認知症のご本人やご家族が「認知症などの病気により自分の考えをうまく伝えることが難しくなっても介護保険サービスやご家族の支援を受けながら実現したい生活状態」に基づく、「認知症のご本人やご家族の生活安寧指標」を作成した。今後は、まず、地域レベルでの活用方法について検証する。

参考資料 1 (資料 1)

資料 1 ; 先行研究・参考文献調査結果

I. 安寧の定義・概念

1. 辞典・辞書を用いた調査方法

国内の一般的な国語及び医療介護福祉関係の辞書・辞典に記載されている「安寧」の定義・概念を調査した。合計 25 冊の辞書・辞典を調査対象とした。対象の辞書・辞典は広辞苑：第七版、大辞林：第三版三省堂、大辞泉：第三版小学館大辞泉編集部、三省堂国語辞典：第七版三省堂、日本国語大辞典：第一版小学館、医学大辞典：第 2 版医学書院、和英医学用語大辞典：日外アソシエーツ、南山堂医学大辞典：南山堂、精神医学辞典新版：弘文堂、看護大辞典：第 2 版医学書院、看護学学習辞典：第 3 版学習研究社、看護学辞典：日本看護協会出版社、看護学大辞典：第 6 版メヂカルフレンド社、現代社会福祉辞典：有斐閣、社会学辞典：弘文堂、社会福祉辞典：弘文堂、社会福祉学辞典：丸善出版、社会福祉用語辞典：ミネルヴァ書房、介護福祉用語辞典：七訂中央法規出版、介護福祉用語辞典：ミネルヴァ書房、実用介護辞典：講談社、ケアマネジメント用語辞典：ミネルヴァ書房、ストレス百科事典：丸善出版・日本ストレス学会、エイジング大辞典：早稲田大学出版部、生命倫理辞典[新版増補]：太陽出版とした。

2. 調査結果：一般の国語辞書・辞典（医療介護福祉関係以外）

広辞苑（第七版岩波書店）：「世の中が穏やかで平和なこと。安泰」、大辞林（第三版三省堂）：「世の中が平穏無事なこと」、三省堂国語辞典：「世の中が静かで事件が起こらないこと」、大辞泉（第 2 版小学館大辞泉編集部）：「無事でやすらかなこと。特に、世の中が穏やかで安定していること」、日本国語大辞典（第一版小学館）：「穏やかにおさまり、異変、不安などが無いこと。また、そのさま。安泰。平穩」。

3. 調査結果：医療介護福祉関係の辞書・辞典

介護福祉用語辞典（七訂中央法規出版）：ウェルビーイングは 1946 年に世界保健機構（World Health Organization=WHO）の草案の中に初めて登場したとされる。「健康とは身体的、精神的及び社会的に良好な状態（well-being）であって、単に病気でないとか、虚弱でないということではない」。このウェルビーイングを「安寧」「良好な状態」「福祉」などと訳して用いられるようになってきた。ウェルビーイングは、「個人の尊重」、「自己実現」という意味で用いられるようになってきており、近年ではウェルフェア(welfare)よりも「個人の尊重」を重視しているという見方もある。

医学大辞典（第二版医学書院）：「安寧＝ウェルビーイング」とされ健康概念と関連し、人間全体として良好・快適な状態、安寧な状態、もしくは健やかな生き方を意味する。WHO 憲章前文中の健康の定義、「健康とは、ただ疾病や傷病がないだけでなく、身体的、精神的ならびに社会的に完全に良好な状態（well-being）である」に表現されている。良好な状態とは、①気持ちの良い、②愉快的な、③心配事のない、④安楽な状態であり、身体的、精神的、社会的に三者の間のバランスがとれ、すなわち個々人がさまざまな生活の場でうまく適応し、自己実現が図られている状態を指す。

看護大辞典（第二版医学書院）：「安寧＝ウェルビーイング」とされ「①その人にとって幸福や満足を感じているよりよい状態。ウェルビーイング（安寧）であるかどうか、つまり幸福の達成度や生活の満足度は、その人によって定義される。②看護ケアを評価する具体的尺度を提供する看護成果分類 nursing outcome classification (NOC) では、ウェルビーイングは「健康状態に対する自分自身の満足感の表現」と定義され、NOC の指標として日常生活動作、心理的機能、社会的相互作用などに対する満足感の尺度が掲げられている。

実用介護辞典（第一刷講談社）：「ウェルビーイング」日常的に使われている用語であるが、QOL（生活の質）の主観的側面の一つを表す専門用語でもある。実際の「ものさし」

として、ウェルビーイング質問紙 (Well-being Questionnaire) やフィラデルフィア老年病モラールスケールなどがある。安寧、福祉、はつらつ感などと和訳されているが、「生き生き」がぴったりしているように思われる。

以下 16 の辞書・辞典には「安寧」は未記載であった。和英医学用語大辞典：日外アソシエーツ、南山堂医学大辞典：南山堂、精神医学辞典新版：弘文堂、看護学学習辞典：第 3 版学習研究社、看護学辞典：日本看護協会出版社、看護学大辞典：第 6 版メヂカルフレンド社、現代社会福祉辞典：有斐閣、社会学辞典：弘文堂、社会福祉辞典：弘文堂、社会福祉学辞典：丸善出版、社会福祉用語辞典：ミネルヴァ書房、介護福祉用語辞典：ミネルヴァ書房、ケアマネジメント用語辞典：ミネルヴァ書房、ストレス百科事典：丸善出版・日本ストレス学会、エイジング大辞典：早稲田大学出版部、生命倫理辞典[新版増補]：太陽出版。

4. 安寧の辞書による定義まとめ

以上より辞書・辞典による「安寧」の定義・概念は医療介護福祉領域で使用する「Well being の邦訳としての安寧」と医療介護福祉領域以外で用いられている一般の国語における「安寧」の 2 種類に大別された。

医療介護福祉関係以外の一般の国語辞典・辞書では「世の中」が「安定・静か・穏やかな状態」を含意した。

医療介護福祉関係の辞典・辞書では WHO 憲章の中の「Well being」を「安寧」と邦訳したことが語源となっており、その意味は概ね「健康概念に関して身体的、精神的及び社会的に「自分自身」が「良好な状態」」を含意した。

「安寧」の意味において一般の国語辞典・辞書と医療介護福祉系の辞典・辞書で共通したのは「状態」をあらわしていることであった。ただし、一般の国語辞典・辞書が「安定・静か・穏やか」などの「より静的な状態」をあらわしているのに対して、医療介護福祉辞典・辞書では「健康概念に関して良好な状態≒質」をあらわしていた。また、一般の国語辞典・辞書が「世の中」を意味の範疇とし、医療介護福祉関連の辞典・辞書は「自己自身」を意味の範疇としていることが相違点であった。このことから、「安寧」の概念・定義は一般の国内辞典・辞書では「より静的な場の状態」を、医療介護福祉辞典・辞書では「健康概念に関する個人の良好な質的状态」を含意していると考えられた。

II. 認知症の人の「安寧」に関する評価尺度

1. 国内（和文、英文邦訳含む）文献レビュー 方法

認知症の人の安寧に関する国内（和文、英文の邦訳含む）の文献を医学中央雑誌（web 版）を用いて検索した。キーワードは「認知症」「高齢者」「尺度」「安寧 or 安楽」「幸福」「生活の質または QOL」とした。検索結果から会議録は除外した。また、検索結果の文献中で引用されている参考文献で重要と考えたものも検索結果とした。検索結果を本研究における「生活の安寧」の定義と仮定する「認知症の人とその家族、地域社会の安らかな生活の様式（の程度）」を包摂する尺度であるかどうかについて検討した。

2. 国内（和文、英文邦訳含む）文献レビュー結果

- 1) 認知症の人の「安寧」の評価尺度は見当たらなかった。
- 2) 一般の人を対象とした「安寧感」の指標は Midlarsk の知見にしたがって、Rosenberg の「自尊感情スケール」邦訳版などを用いて検討されたものがあつた¹⁻⁴⁾。
- 3) 認知症の人への「幸福」評価尺度として「Philadelphia Geriatric Center Morale Scale (PGC) モラールスケール」邦訳版を用いた研究があつた⁵⁻⁸⁾。PGC モラールスケールは高齢者の主観的幸福感の測定に用いられており、「心理的安定」「孤独」「老いに対する態度」の 3 因子から構成されている。モラールとは老年社会学において「幸福な老い」を表す概念とされ、モラールが高いとは①基本的な満足感を持っていること②自分の居場所があるという感じを持っていること③努力しても動かない事実として受容できていることとされている。

- 4) 認知症の人の「安心」評価尺度は見当たらなかった。
- 5) 一般の人を対象とした「安心」の尺度開発はなされており英文献 34、和文献 56 文献を分析対象とする概念分析結果より「おだやかである」「不安・苦痛が少ない」「楽観的志向である」「自分を肯定している」「自分に自信がある」「自分で安心できる能力がある」「対人関係の確かさがある」「社会とつながっている」の 8 因子からなる尺度の研究のみであった⁹⁾。
- 6) 認知症の人の「生活の質または QOL」の評価尺度では、軽度～中等度の認知症の人の尺度として、主観的評価と客観的評価が可能で国際的に標準化され認知症の進行に伴い QOL の漸減をあらわすとされる「QOL-AD」邦訳版¹⁰⁻¹³⁾、質的研究手法をふまえて認知症の人の主観的 QOL 指標として定量化され MMSE13 点以上であれば回答可能とされる「D-QOL」邦訳版があった¹⁴⁻¹⁶⁾。中等度～重度の認知症の人を対象として国内で開発された健康関連 QOL の他者評価法である「QOL-D」¹⁷⁾、重度の認知症の人の尺度として、快・不快の因子で構成されている「QOLID」邦訳版があった¹⁸⁻²⁰⁾。健康関連の QOL 評価方法として軽度～重度の認知症の人を対象とする他者評価法の邦訳版である「AD-HRQOL-J」があった^{21,22)}。その他、一般の人を対象として作成され国際的に標準化されているが、質問の複雑さもあり認知症の人と介護者間で乖離があるとの報告がある SF-36 や EQ-5D があった^{23, 24)}。
- 7) その他の「安寧」や「QOL」関連文献として、デイケアを利用している認知症の人を対象とする他者評価の「生活健康スケール」²⁵⁾、他者評価で要介護度や認知症の程度と負の相関がある「おだやかスケール」^{26,27)}、ケア改善を目的として第三者が評価者となる「Dementia Care Mapping」邦訳版があった^{28,29)}。

3. 国内（和文、英文邦訳含む）文献レビューまとめ

認知症の人の「安寧」の評価尺度は見当たらなかった。一般の人を対象とした「安寧感」の指標は「自尊感情」など国外近似概念の既存尺度を邦訳して代用されたもののみであった。

認知症の人の「幸福」の評価尺度は見当たらなかった。ただし、一般の高齢者の主観的幸福感の測定に用いられている国外既存尺度の邦訳版を用いた研究はあった。

認知症の人の「安心」評価尺度は見当たらなかった。一般の人を対象とした「安心」の評価尺度は国内外文献の概念分析結果より尺度があった。

認知症の人の「生活の質または QOL」の評価尺度は多数あった。それぞれの尺度は尺度特性に応じて適用に制約があった。尺度は概ね国外開発尺度の邦訳版であった。尺度の特性は「認知症の程度：軽度～重度」「内容：主観的（心理的）・客観的（行動や環境）・併用」「評価者：自己・他者など」「評価場所：規定なし・デイケア・施設など」による区別があった。一般の人を対象とした尺度もあり認知症の人へ適用されている研究もあるが質問の複雑さもあり認知症の人と他者間で乖離があった。

その他の「安寧」や「QOL」関連文献はいくつかあったが、「生活の質または QOL」尺度と同様に尺度特性に応じて適用に制約があるなどの特性であった。

先行研究における既存の評価尺度は本研究における「生活の安寧」の定義と仮定する「認知症の人とその家族、地域社会の安らかな生活の様式（の程度）」を包摂する尺度とは言えない。

4. 国外（英文）文献レビュー方法

認知症の人の安寧(Well being: WB)に関する国外の文献を Scopus (web 版) を用いて検索した。なお、今回は辞典・辞書及び国内先行研究レビュー結果にもとづき安寧= Well being として検索した。キーワードは「Dementia」「Well being」「Scale」

「Elderly」とした。検索結果から会議録は除外した。また、検索結果の文献中で引用されている参考文献で重要と考えたものも検索結果とした。なお、国外尺度の邦訳版が一般化しているものについては前述の国内（和文）文献レビューに含めた。また、英文文献の邦訳が一般化している場合は邦訳を引用した。

5. 国外(英文)文献レビュー結果

安寧(WB)の定義・概念・評価尺度

- 1) 認知症の人に特化したWB評価方法はみあたらず、WBと関連性があり邦訳版が普及しているQOLの評価方法が散見された¹⁻²⁹⁾。先行研究において、認知症のWBはQOLとの関連の中でデザインされてきたがその多くはLawton's model of QOLに影響を強く受けているとされていた³⁰⁻³³⁾。
- 2) 一般の人を対象としたWB評価方法として、感情と思考について5段階で返答する「The Warwick-Edinburgh Mental Well-being scale (WEMWBS)」³⁴⁾や6段階で返答する「Ryff's Psychological Well-Being Scales (PWB)」³⁵⁾があった。
- 3) 糖尿病のような慢性疾患の人におけるWell being評価として不安、鬱、エネルギー、ポジティブwell beingの4要素から構成されている「W-BQ12」があった³⁶⁾。
- 4) その他に、宗教的な質問や人生の意味・目的などを問う「JAREL Spiritual Well-being Scale」があった³⁷⁾。
- 5) WBの定義について、モラール・スケールや生活満足度尺度などの自記式尺度によって測定される「肯定的-否定的な感情の連続体」^{38,39)}、「人々の快適、不快、人生への満足についてのより長い期間の程度から構成される」とするものがあった⁴⁰⁾。
- 6) WBとQOLの差異について、Subjective WB (SWB)はより理論的過程/QOLは方法論的成立経緯、SWBはより主観的/QOLはより客観的とする区別⁴¹⁾、その他にWBを「よい生活(good life)」の構成領域である「行動能力」「心理的well-being」「認知された生活の質」「客観的環境」の一領域として位置付けているものがあった³⁰⁾。なお、「心理的」と「認知された生活の質」は主観的な評価の結果に相当し、「行動能力」は個人の条件、「客観的環境」は環境条件に相当するとされていた。
- 7) SWBとQOLを包括した評価尺度として過去二週間の生活状況の満足、幸福、仕事、行動できる、個人的信念等を問う自答式の「WHOQOL」があった⁴²⁻⁴⁴⁾。「WHOQOL-100」は6領域25因子の100項目からなる文化交互的なWell-Beingの評価であると明記されていた。なお、「WHOQOL」ではQuality of Lifeを「個人が生活する文化や価値観のなかで、目標や期待、基準または関心に関連した自分自身の人生の状況に対する認識」と定義していた。

6. 国外文献レビューまとめ

国内の医療福祉介護領域においてはWHO憲章におけるWBを安寧と邦訳されたことにもとづき、安寧=WBとして英文献を検索した。その結果、認知症の人に特化したWB評価方法はみあたらず、WBと関連性があり邦訳版が普及しているQOLの評価方法が散見された。慢性疾患の人におけるWB評価として、「W-BQ12」があった。一般の人を対象としたWB評価方法として、感情と思考について返答する「The Warwick-Edinburgh Mental Well-being scale (WEMWBS)」、Ryff's Psychological Well-Being Scales (PWB)、宗教的な質問や人生の意味・目的などを問う「JAREL Spiritual Well-being Scale」があった。WBの定義については自記式尺度によって測定される「肯定的-否定的な感情の連続体」、「人々の快適、不快、人生への満足についてのより長い期間の程度から構成される」とするものがあった。WBとQOLの差異について、Subjective WB (SWB)はより理論的過程/QOLは方法論的成立経緯、SWBはより主観的/QOLはより客観的とする区別、その他にWBを「よい生活(good life)」の一構成領域として位置付けているものがあった。SWBとQOLを包括した評価尺度として「WHOQOL」があった。

先行研究における既存の評価尺度は本研究における「生活の安寧」の定義と仮定する「認知症の人とその家族、地域社会の安らかな生活の様式(の程度)」を包摂する尺度とは言えない。

7. その他の参考概念・尺度・認知症のご本人の視点など

1) 絶対的・相対的貧困概念

Townsendは貧困の主観的期待水準と現実的な達成水準との格差に関して相対的剥奪を定義した。タウンゼント的貧困概念とは、社会的規範に照らし合わせてその社会

の「メンバーシップ」を担うことのできない「生活様式 style of living」の「剥奪 deprivation」である⁴⁵⁻⁴⁸⁾。

2) 相対的剥奪

「人々が社会で通常手にいれることのできる栄養、衣服、住宅、居住設備、就労、環境面や地理的な条件についての物的な標準にこと欠いていたり、一般に経験されているか享受されている雇用、職業、教育、レクリエーション、家族での活動、社会活動や社会関係に参加できない、ないしはアクセスできない」状態⁴⁵⁻⁴⁸⁾。

3) 絶対的貧困

Seebom Rowntree, Lavers は 1936 年ヨーク市の調査に基づき貧困線を提唱し水準の違いにより第一次貧困と第二次貧困に区別した⁴⁹⁾。

4) DASC-21

認知症をもつ人によく見られる「認知機能障害」と「生活機能障害」をリストアップした観察尺度である。基本的には本人への侵襲がなく、認知症のスクリーニングに有用なことに加え、認知機能と生活機能（例えば内服管理能力や買い物の能力）を同時に評価するので、DASC-21 の評価結果が生活支援に直結する^{50, 51)}。

5) 生活行為向上マネジメント

平成 20 年度老人保健健康増進等事業：高齢者の持てる能力を引き出す地域包括支援のあり方研究にもとづいて開発された。医療機関からの退所時に同職種間や介護支援専門員などの関係職種との連携ツールとして「興味チェックリスト」「生活行為申し送り表」などを活用する。生活行為申し送り表はケアプランの第二表と連動するように配慮された 7 項目からなり①元気な時の状態、②本人の困っている・できるようになりたいこと（本人の意向）、③リハビリテーション治療における作業療法の目的と内容、④日常生活の主な過ごし方、⑤現在の生活状況（ADL/IADL の能力）、⑥アセスメントのまとめと解決すべき課題、⑦今後継続するとよい支援内容またはプログラム（具体的支援方法）を申し送るもの^{52, 53)}。

6) NPI (Neuropsychiatric Institute) 興味チェックリスト

1969 年に米国の南カリフォルニア大学大学院の Mary Reilly による作業療法の包括的理論である作業行動理論と関連して初めて発表された。作業行動理論は精神医学的作業療法の中から生まれてきたものであり、作業療法をそのサービスの受け手である対象者に作業的役割を獲得、あるいは、回復させる重要な養育者であると位置づける⁵⁴⁾。

7) 新・京都式オレンジプラン；10 のアイメッセージ

本人の意思が尊重され、住み慣れた地域で暮らし続けられる社会の目指すとして、人権や個性への配慮、切れ目のない医療と介護、地域の一員として社会参加するなど 10 のメッセージ⁵⁵⁾。

8) クリスティーン・ブライデンのメッセージ

話をきいてくれる、ものごとに集中できるための視覚刺激など環境の配慮、くつろぐためのなじみのものなどへの配慮について、認知症の当事者としてメッセージを発信している⁵⁶⁾。

9) 日本認知症本人ワーキンググループ JDWG；認知症ともに生きる希望宣言

「一足先に認知症になった私たちからすべての人たちへ」のメッセージとして、前を向いて生きること、社会の一員としてチャレンジすること、本人同士のつながり、暮らしやすいわがまちづくり、などについての 5 つのメッセージ⁵⁷⁾。

10) クリスティーン・ボーデン

アルツハイマー症の人から見た世界、感じたことや日常を当事者として具体的に伝えている内容は支援や生活環境のあり方について当事者の視点で考える上で参考にした⁵⁸⁾。

11) 佐藤雅彦

当事者として認知症の人はいろいろな能力が残されていて、それを発揮することで生きがいや、世の中の役に立つよこびを感じることができる。社会にある認知症に対する偏った情報や誤った見方をなくして活動は、支援や生活環境のあり方につい

- て考える上で参考にした⁵⁹⁾。
- 12) 樋口直美
レビー小体型認知症の当事者として、ないものが見える日常世界についての詳細な記述は当事者の生活状態項目を考える上で参考にした⁶⁰⁾。
 - 13) 岩佐まり
若年性の特有の社会的な役割の変化や家族として仕事と日常生活上の介護などに翻弄されながらも、あるがままを受け入れるに至った経過などは生活の安寧や生活状態項目を考える上で参考にした⁶¹⁾。
 - 14) 中村成信
若年で前頭側頭型認知症により万引きで捕まるなどを経験しながらも、社会の無理解による不利益をなくすために体験を語る活動をしている⁶²⁾。
 - 15) 藤田和子
看護師であり介護者の経験もある筆者が、介護者だった時にはわからなかった本人の世界をわかってもらいたいと、誰でも生きやすい社会をめざして発信している⁶³⁾。
 - 16) プロダクティビティー
ロバート・バトラー博士らが提唱した、プロダクティビティーには、金銭の支払いを伴う有償労働ばかりではなく、ボランティア活動、家事・育児・介護などの無償労働なども含めて考えられている。高齢者が人生の中で蓄えてきたプロダクティビティーをサクセスフル・エイジングの要件とするようになった^{64, 65)}。
 - 17) 生活用 IoT
IoTにより様々なモノとモノをつなぐことで、ひとまとまりの価値を実現できるようになってきた⁶⁶⁾。このことは、生活の安寧を構成する生活状態項目のようなひとまとまりの価値を実現できる可能性の高まりを示唆している。
 - 18) 人工知能 (AI)
人工知能 (AI) 映像や音、数列、文字列などの意味を見分ける力を急速に身に付けつつある⁶⁷⁾。このことは、IoTと連動して、ひとまとまりの価値の実現に寄与するものと考えられる。
 - 19) その他
認知症のケア^{68~74)}、認知症の予防^{75, 76)}、生活の構成要素^{77, 78)}、生活の環境^{79, 80)}、地域ケア⁸¹⁻⁸⁷⁾、在宅ターミナルケア⁸⁸⁾、アセスメント・ケアプラン^{89~91)}、家族介護者^{92~94)}についての視点を参考にした。

参考文献

- 1) Midlarsky. E. : (1991). Helping as coping. In M. S. Clark (Ed.), Review of personality and social psychology, Vol. 12. Prosocial behavior (pp. 238-264).
- 2) Morris Rosenberg. : Society and the Adolescent Self-Image. Princeton University Press, Princeton, N. J., 1965. Science 07 May 1965: Vol. 148, Issue 3671, pp. 804 DOI: 10.1126/science.148.3671.804
- 3) 山本真理子・松井豊・山成由紀子 : 1982 認知された自己の諸側面の構造教育心理学研究, 30, 64-68.
- 4) 妹尾香織、高木修 : 高齢者の援助行動経験と心理・社会的幸福・安寧感との関連、心理学研究 2004 V 75 N 5 P 428-434
- 5) Lawton MP: The Philadelphia Geriatric Center Morale Scale: A revision. Journal of Gerontology, 30: 85-89 (1975).
- 6) 前田大作・浅野仁・谷口和江 : (1979)「老人の主観的幸福感の研究」『社会老年学』(11), 15-31.
- 7) 押川武志、福本安甫、小川敬之、ほか : 軽度認知症者の主観的幸福感に関する研究～認知度による2対象群の比較～, 8 : 147-151 (2007).
- 8) 松平裕佳、高山成子、菅沼成文、ほか : 介護老人福祉施設入所者の主観的幸福感に関

- 連する要因, 日本公衛誌・57 (2) : 121-130 (2010).
- 9) 岩瀬貴子、野嶋佐由美 : 安心の尺度開発. 高知女子大学看護学会誌, 40 (2) : 81-91 (2015).
 - 10) Lawton PM : Quality of life in Alzheimer`s disease. *Alzheimer Dis Assoc Disord*8:138-150(1994).
 - 11) Logston RG, Gibbons LE, McCurry SM, et al : Determinans of the quality of life in Alzheimer`s sidease; patient and caregiver reports. *J ment Health Aging*, 5(1) : 21-32(1999)
 - 12) Matsui T, Nakaaki S, Murata Y, Sato J, Shinagawa Y, Tatsumi H, Furukawa TA. Determinants of the quality of life in Alzheimer`s disease patients as assessed by the Japanese version of the Quality of Life-Alzheimer`s disease scale. *Dement Geriatr Cogn Disord*. 2006;21(3):182-91. Epub 2006 Jan 9. PubMed PMID: 16401890.
 - 13) Tatsumi H, Nakaaki S, Torii K, Shinagawa Y, Watanabe N, Murata Y, Sato J, Mimura M, Furukawa TA. Neuropsychiatric symptoms predict change in quality of life of Alzheimer disease patients: a two-year follow-up study. *Psychiatry Clin Neurosci*. 2009 Jun;63(3):374-84. doi: 10.1111/j.1440-1819.2009.01955.x. PubMed PMID: 19566770.
 - 14) Brod M, Stewart AL, Sands L, et al : Conceptualization and measurement of quality of life in dementia; the dementia quality of life instrument (DQOL). *Gerontologist*, 39(1) : 25-35(1999)
 - 15) 鈴木みずえ, 内田敦子, 金森雅夫, ほか : 日本語版 Dementia Quality of Life Instrument の作成と信頼性・妥当性の検討. *日老医誌*, 42(4) : 423-431(2005)
 - 16) 鈴木みずえ, 金森雅夫, グライナー智恵子, ほか : 日本語版 Dementia Quality of Life Instrument (DQOL-Japanese Version) を用いた認知症高齢者の主観的 Quality of Life に関する縦断評価. *日老医誌*, 43 : 485-491(2006)
 - 17) Terada S, Ishizu H, Fujisawa Y, Fujita D, et al. Development and evaluation of a health-related quality of life questionnaire for the elderly with dementia in Japan. *Int J Geriatr Psychiatry*. 2002 Sep;17(9):851-8.
 - 18) Volicer L, Bloom-Charette L : Assessment of quality of life in advanced dementia. Volicer L& Bloom-Charette L(ed), *Enhancing the Quality of Life in Advanced Dementia*. Brenner/Mazel, Philadelphia : 3-20(1999)
 - 19) Weiner MF, Martin-Cook K, Svetik DA, et al : The Quality of Life in Late-Stage Dementia (QUALID) scale. *J Am Med Dir Assoc*, 1(3) : 114-116(2000)
 - 20) Nagata Y, Tanaka H, Ishimaru D, Fukuhara K, Ogawa Y et al. : Development of the Japanese version of the Quality of Life in Late-Stage Dementia Scale. *Psychogeriatrics* Volume 18, Issue 2, 2018
 - 21) 阿部俊子, 山本則子, 鎌田ケイ子, 他 : 痴呆性老人の生活の質尺度 (AD-HRQL-J) の開発. *老年精神医学雑誌* 1998; 9 (12) : 1489-1499.
 - 22) Rabins, P. V., Kasper, J. D., Kleinman, L., Black, B. S., & Patrick, D. L. (1999). Concepts and methods in the development of the ADRQL: An instrument for assessing health-related quality of life in persons with Alzheimer`s disease. *Journal of Mental Health and Aging*, 5(1), 33-48.
 - 23) Smith S, Lamping D, Banerjee S, et al : Measurement of health-related quality of life for people with dementia; development of a new instrument (DEMQL) and an evaluation of current methodology. *Health Twchnol Assess*, 9(10) : 1-93(2005)
 - 24) 河野禎之, 朝田隆, 木之下徹, 他 : アルツハイマー病患者における日本語版 EuroQol (EQ-5D, VAS) による QOL 評価の信頼性と妥当性の検討. *老年精神医学雑誌* 20(10) : 1149-1159(2009).
 - 25) 中島紀恵子、工藤貞子、尾崎 新、 他 : デイケアにおける痴呆性老人に対する生活健康スケール作成の試み. *社会老年学* 1992; 36: 39-49.

- 26) 辻村弘美、小泉美佐子：認知症高齢者のおだやかスケールの開発、Kitakanto Med J 119、2010；60：119～134
- 27) 辻村弘美、小泉美佐子：施設で過ごす認知症高齢者への「改訂版おだやかスケール（18項目版 DEOS）」の適用、日本看護研究学会雑誌 Vol. 39 No. 4 2016
- 28) 鈴木みずえ、水野 裕、Dawn Brooker、他：Quality of life 評価手法としての日本語版認知症ケアマッピング（Dementia Care Mapping：DCM）の検討：Well-being and Ill-being Value（WIB 値）に関する信頼性・妥当性、日老医誌 2008；45：68-76
- 29) Kitwood, T., & Bredin, K. (1992). Towards a Theory of Dementia Care: Personhood and Well-being. *Ageing and Society*, 12(3), 269-287. doi:10.1017/S0144686X0000502X
- 30) Lawton MP. Environment and other determinants of well-being in older people. *The Gerontologist* 1983; 23: 349-57.
- 31) Ready, Rebecca E, and Brian R Ott. "Quality of Life Measures for Dementia." *Health and Quality of Life Outcomes* 1 (2003): 11. PMC. Web. 8 July 2018.
- 32) Lawton MP. : Assessing quality of life in Alzheimer disease research. *Alzheimer Dis Assoc Disord.* 1997; 11 Suppl 6:91-9.
- 33) Lawton MP. : Quality of life in Alzheimer disease. *Alzheimer Dis Assoc Disord.* 1994;8 Suppl 3:138-50.
- 34) Warwick-Edinburgh Mental Wellbeing Scale (WEMWBS)<https://warwick.ac.uk/fac/med/research/platform/wemwbs/>
- 35) CD Ryff: Happiness is everything, or is it? Explorations on the meaning of psychological well-being. - *Journal of personality and social psychology*, 1989 - psycnet.apa.org
- 36) Pouwer F, Snoek FJ, van der Ploeg HM, Ader HJ, Heine RJ. The well-being questionnaire: evidence for a three-factor structure with 12 items (W-BQ12). *Psychol Med.* 2000 Mar;30(2):455-62. PubMed PMID:10824665
- 37) Hungelmann J, Kenkel-Rossi E, Klassen L, Stollenwerk R. Focus on spiritual well-being: harmonious interconnectedness of mind-body-spirit--use of the JAREL spiritual well-being scale. *Geriatr Nurs.* 1996 Nov-Dec;17(6):262-6. Review. PubMed PMID: 9060273.
- 38) Larson R. Thirty years of research on the subjective well-being of older americans. *J Gerontol.* 1978 Jan;33(1):109-25.
- 39) Wataru KOYANO : QOL Studies in Japanese Social Gerontology. *J. Natl. Inst. Public Health*, 53(3) : 2004
- 40) Ed Diener : Assessing subjective well-being: Progress and opportunities *Social Indicators Research*, 1994, Volume 31, Number 2, Page 103
- 41) Camfield L, Skevington SM. : On subjective well-being and quality of life. *J Health Psychol.* 2008 Sep;13(6):764-75. doi: 10.1177/1359105308093860.
- 42) World Health Organization 「WHOQOL Measuring Quality of Life」 WHO/MSA/MNH/PSF/97.4, Division of Mental Health and Prevention of Substance Abuse, World Health Organization.
- 43) The WHOQOL Group (1995). The World Health Organization Quality of Life assessment(WHOQOL): position paper from the World Health Organization. *Social Science of Medicine*.
- 44) WHOQOL Group. The World Health Organization Quality of Life assessment (WHOQOL): Development and general psychometric properties. *Soc Sci Med* 1998a; 46: 1569-1585.
- 45) Townsend, P., 1974, "Poverty as relative deprivation", Wedderburn, D., *Poverty, inequality and class structure*, Cambridge University. 高山武志訳, 1977, 「相対的収奪としての貧困」ウェッダーバーン, D

- 編著『イギリスにおける貧困の論理』光生館
- 46) Townsend, P., 1979, *Poverty in the United Kingdom*, Pelican Books.
 - 47) Townsend, P., 1983, "A Theory of Poverty and the Role of Social Policy." In Loney, M., Boswell, D., and Clarke, J. (eds), 1983, *Social Policy & Welfare*, Open University Press, pp. 58-82. 大山博・武川正吾・平岡公一訳者代表, 1995, 『イギリス社会政策論の新潮流』法律文化社, pp93-129
 - 48) Shibata, K. (1997) *Poverty Problems in the UK: A Broader Definition of Poverty and Its Measurement*, International Social Security Research, No. 118, pp. 4-17 (in Japanese); (柴田謙治 [1997] 「イギリスにおける貧困問題の動向——『貧困概念の拡大』と貧困の『基準』をめぐって」『海外社会保障研究』No. 118, pp 4-17
 - 49) Seebohm Rowntree and the Postwar Poverty Puzzle Timothy J. Hatton and Roy E. Bailey *The Economic History Review New Series*, Vol. 53, No. 3 (Aug., 2000), pp. 517-543
 - 50) 粟田主一, 杉山美香, 井藤佳恵, 他: 地域在住高齢者を対象とする地域包括ケアシステムにおける認知症アセスメントシート (DASC-21) の内的信頼性・妥当性に関する研究. *老年精神医学雑誌* 26 (6) : 675-686, 2015
 - 51) 山口智晴, 堀口布美子, 狩野寛子; 地域包括ケアシステムにおける認知症アセスメント (DASC-21) の認知症初期集中支援チームにおける有用性, *認知症ケア研究誌* 2 : 58-65, 2018
 - 52) 平成 20 年度老人保健健康増進等事業: 高齢者の持てる能力を引き出す地域包括支援のあり方研究, 社団法人 日本作業療法士協会
 - 53) 一般社団法人日本作業療法士協会生活行為向上マネジメント
<http://www.jaot.or.jp/science/MTDLP.html>
 - 54) 山田 孝; 精神科作業療法における評価の実際 NPI (Neuropsychiatric Institute) 興味チェックリスト—理論的背景と評価法の説明, *理学療法と作業療法* 16巻6号 1982年6月 pp. 391-398
 - 55) 新・京都式オレンジプラン; 10 のアイメッセージ; <http://www.kyoto-houkatucare.org/ninchisho/orangeplan/>, アクセス日; 2018 年 6 月 14 日
 - 56) クリスティーン・ブライデン; 「認知症とともに生きる私」大月書店 (2016)
 - 57) 認知症とともに生きる希望宣言; 一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ JDWG, <http://www.jdwg.org/>; アクセス日; 2018年11月1日
 - 58) クリスティーン・ボーデン; 私は誰になっていくの? アルツハイマー病者から見た世界, 株式会社クリエイツかもが, 2003
 - 59) 佐藤雅彦; 認知症になった私が伝えたいこと, 大月図書, 2014
 - 60) 樋口直美; 私の脳で起こったこと, ブックマン社, 2017
 - 61) 岩佐まり; 若年性アルツハイマーの母と生きる, 株式会社 KADOKAWA, 2015
 - 62) 中村成信; ほくが前を向いて歩く理由, 中央法規, 2015
 - 63) 藤田和子; 認知症になっても大丈夫, 徳間書店, 2017
 - 64) 草野篤子, 金田利子, 間野百子, 柿沼幸雄; 世代間交流効果、人間発達と共生社会づくりの視点から, 三学出版, 2007
 - 65) 草野篤子, 柿沼幸雄, 金田利子, 藤原佳典, 間野百子; 世代間交流学の創造、無縁社会から多世代間交流型社会実現のために, あけび書房, 2010
 - 66) 野城智也, 馬場博幸; 生活用 IoT がわかる本, 株式会社インプレス R&D, 2017
 - 67) 野村直之; 最強の AI 活用術, 日経 BP 社, 2018
 - 68) 山口晴保他; 認知症の正しい理解と包括的医療・ケアのポイント第 3 版, 協同医書出版社 2016
 - 69) Yamagami, Tetsuya, Takayama, Yoshifumi, Maki, Yohko, Yamaguchi, Haruyasu: A randomized controlled trial of brain-activating rehabilitation for elderly participants with dementia in residential care homes, *Dement Geriatr Cogn Dis Extra*, 2(1): 372-380. 2012

- 70) Toba, K. , Nakamura, Y. , Endo, H. , Okochi, J. , Tanaka, Y. , Inaniwa, C. , Takahashi, A. , Tsunoda, N. , Higashi, K. , Hirai, M. , Hirakawa, H. , Yamada, S. , Maki, Y. , Yamaguchi, T. and Yamaguchi, H. (2014), Intensive rehabilitation reduced BPSD. *Geriatrics & Gerontology International*, 14: 206-211. doi:10.1111/ggi.12080
- 71) Ishii, Shinya. Streim, Joel E. Saliba, Debra ; A Conceptual Framework for Rejection of Care Behaviors: Review of Literature and Analysis of Role of Dementia Severity, *Journal of the American Medical Directors Association*, Vol 13, 1, 11-23.e2, 2012, doi: 10.1016/j.jamda.2010.11.004
- 72) Ishii, Shinya, Weintraub, Nancy, Mervis, James R; Apathy: A Common Psychiatric Syndrome in the Elderly, Vol10,6,81-393,2009, doi: 10.1016/j.jamda.2009.03.007
- 73) Ishii, Shinya, Ogawa, Sumito, Akishita, Masahiro; The State of Health in Older Adults in Japan: Trends in Disability, Chronic Medical Conditions and Mortality , *PloS one* , 10(10):e0139639, 2015, doi: 10.1016/j.jamda.2009.03.007
- 74) 認知症における標準的なケアモデルの構築に関する研究;加藤 伸司,内藤 佳津雄,阿部 哲也,矢吹 知之,吉川 悠貴,平成19年度 厚生労働科学研究費補助金,長寿科学総合研究事業報告書 2008
- 75) 山口晴保; 認知症予防一読めば納得! 脳を守るライフスタイルの秘訣、協同医書出版社第2, 2014
- 76) 石井伸弥 監修; 覚えておこう 認知症の予防法, 社会保険出版社
- 77) 下垣光、大島千帆、渡邊祐紀、天野由以他; 要介護高齢者の生活の構成要素に関する一考察、*日本社会事業大学研究紀要*、61、45-52、2015
- 78) 天野由以、渡邊祐紀、安瓊伊、大島千帆、岸野靖子、下垣光、中島健一; 介護福祉学における「生活」の定義 : 要介護状態の人の生活を理解するために、*介護福祉学*、137-146、2013
- 79) 廣瀬 圭子, 児玉 桂子, 大島 千帆, 下垣 光, 他; 「認知症高齢者に配慮した施設環境づくり支援プログラム」の効果的実践モデルの構築 : プログラム評価理論および方法論の適用, *日本社会事業大学紀要*, 58, 109-123, 2012
- 80) 大島千帆, 菱沼幹男, 児玉桂子他; 「超高齢団地に居住する高齢者の地域生活支援に関する研究」, 平成 26 年度日本社会事業大学社会事業研究所共同研究研究成果概要報告書
- 81) 認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン) 厚生労働省, <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000076236.html>
- 82) 「認知症にやさしい地域づくり」日英豪グローバル専門家会合, 2019, <https://hgpi.org/events/dementia-3-1.html>
- 83) 中島修・菱沼幹男共編, 日本地域福祉研究所監修; 『コミュニティソーシャルワーク野理論と実践』, 中央法規出版, 2015
- 84) 山井 理恵; 地域包括ケアにおける営利事業所の役割と課題に関する検討—コミュニティソーシャルワークの視点から—, *明星大学研究紀要—人文学部* 第 52 号 2016
- 85) 個別支援と地域支援の融合～「身近な地域のつながり・支えあい活動推進事業」の取組から～; 社会福祉法人横浜市社会福祉協議会 2015
- 86) 見直しませんか 支援のあり方・あなたのまち～安心生活を創造するための孤立防止と基盤支援～厚生労働省(安心生活創造事業成果報告書), 2012
- 87) 成年後見制度利用促進基本計画について～「内閣府の2年間」を踏まえて～ 厚生労働省 2017, http://jaga.gr.jp/wp-content/uploads/sanjikan_180608.pdf
- 88) 佐藤美穂子; 在宅ターミナルケアと看護, 第 24 回日本老年学会総会記録シンポジウムⅡ: 老年学から見た死をめぐる問題, 43: 303-305, 2006
- 89) 佐藤信人; ケアプラン作成の基本的考え方, 中央法規出版, 2008

- 90) 小笠原祐次, 貝田百合子, 山田恵子, 内田 千恵子他; 介護老人福祉施設の生活援助—利用者本位の「アセスメント」「ケアプラン」「サービス評価」, ミネルバ書房, 2002
- 91) 平成 29 年度 厚生労働省老人保健事業推進費等補助金老人保健健康増進等事業 ケアプランへの訪問介護の生活援助を位置付ける際の調査研究事業報告書, 2018
- 92) 平成 23 年度 厚生労働省老人保健事業推進費等補助金老人保健健康増進等事業 認知症の介護家族が求める家族支援のあり方研究事業報告書～介護家族の立場から見た家族支援のあり方に関するアンケート～, 2012
- 93) 佐分厚子, 黒木保博; 家族介護者の家族会参加による介護への適応モデル, 日保学誌, 10, 2, 2007
- 94) 電話相談事業報告書 2016 年度・2017 年度 全国の電話相談のまとめ (平成 29 年度 公益財団法人キリン福祉財団 計画事業助成: 報告書); 公益社団法人認知症の人と家族の会, <http://www.alzheimer.or.jp/wp-content/uploads/2018denwasoudan-2016-17matome.pdf>

参考資料 2 (図表)

(掲載順)

- ・ 図 1
- ・ 表 1～44
- ・ 図 2
- ・ 表 45, 図 3
- ・ 表 47

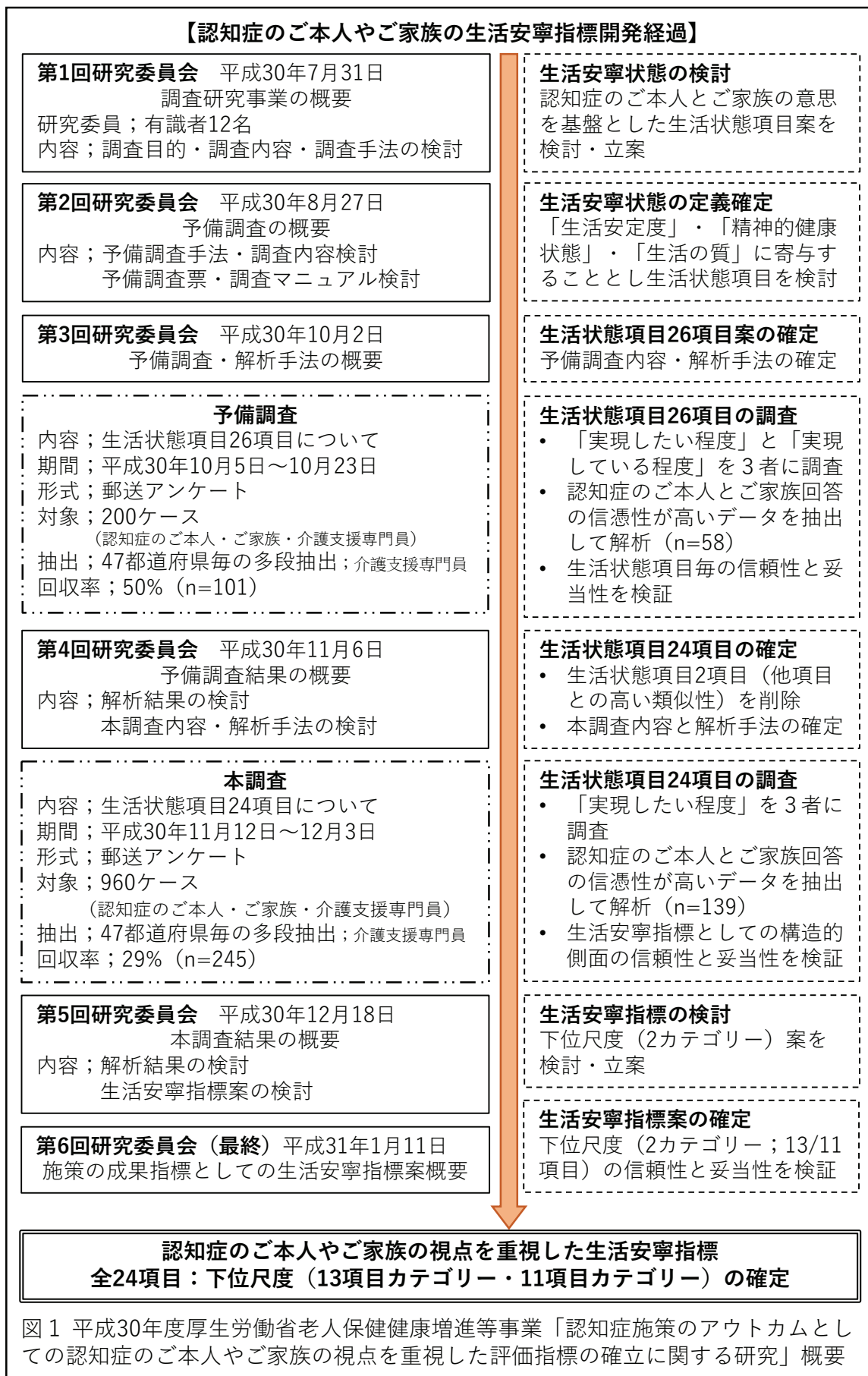


表 1 - 1 認知症のご本人やご家族の生活安寧指標（生活状態項目 24 項目）

家の中に落ち着ける居場所がある

家族や親戚、親しい人たちとのつながりが保たれている

部屋になじみのものが置いてある

心地よい部屋で過ごす 例) 色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど

テレビを見たり新聞を読んだりする

夜ぐっすり眠れる

話を聞いてくれる人がいる

食事がおいしい

お風呂に入る

身だしなみを整える

日中は適切で清潔な服に着替える

健康的な食事ができる

トイレに行く

買い物をする機会がある

自分で使えるお金をもっている

趣味やレクリエーションなどたのしい活動をする 例) 読書、音楽鑑賞、旅行など

いろいろな行事を楽しむ 例) 誕生日、正月、花見、七夕、月見、クリスマスなど

家の外になじみの場所がある

家の周りが片付いている

地域の一員として社会参加する 例) 地域の掃除等

選挙に行くなどの政治活動を行う

家族や周りの人の役に立つことをしている

安全に外出し、帰宅できる

軽い運動をする（散歩を含む）

表1-2 認知症のご本人やご家族の生活安寧指標(仮)

認知症のご本人の状態をよく把握している身近なご家族などがお答えください。

記入日： 年 月 日

ID:

問. 現在、(ご自身できなくても)介護保険サービスやご家族等の支援をうけながら「実現できている程度」を下記の1~4から一つ選択して下さい。

	できている	まあまあ できている	あまり できていない	できていない
家の中に落ち着ける居場所がある	4	3	2	1
家族や親戚、親しい人たちとのつながりが保たれている	4	3	2	1
部屋になじみのものが置いてある	4	3	2	1
心地よい部屋で過ごす 例) 色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど	4	3	2	1
テレビを見たり新聞を読んだりする	4	3	2	1
夜ぐっすり眠れる	4	3	2	1
話を聞いてくれる人がいる	4	3	2	1
食事がおいしい	4	3	2	1
お風呂に入る	4	3	2	1
身だしなみを整える	4	3	2	1
日中は適切で清潔な服に着替える	4	3	2	1
健康的な食事ができる	4	3	2	1
トイレに行く	4	3	2	1
小計Ⅰ <input type="text"/> 点	4× <input type="text"/> =	3× <input type="text"/> =	2× <input type="text"/> =	1× <input type="text"/> =
買い物をする機会がある	4	3	2	1
自分で使えるお金をもっている	4	3	2	1
趣味やレクリエーションなどたのしい活動をする 例) 読書、音楽鑑賞、旅行など	4	3	2	1
いろいろな行事を楽しむ 例) 誕生日、正月、花見、七夕、月見、クリスマスなど	4	3	2	1
家の外になじみの場所がある	4	3	2	1
家の周りが片付いている	4	3	2	1
地域の一員として社会参加する 例) 地域の掃除等	4	3	2	1
選挙に行くなどの政治活動を行う	4	3	2	1
家族や周りの人の役に立つことをしている	4	3	2	1
安全に外出し、帰宅できる	4	3	2	1
軽い運動をする(散歩を含む)	4	3	2	1
小計Ⅱ <input type="text"/> 点	4× <input type="text"/> =	3× <input type="text"/> =	2× <input type="text"/> =	1× <input type="text"/> =
小計Ⅰ <input type="text"/> + 小計Ⅱ <input type="text"/> = 合計 <input type="text"/> 点				

表 2

予備調査、本調査で用いた基本属性についての質問内容

問1	「ご本人回答 質問1・2」の回答区分
問2	「ご家族回答 質問1・2」の回答区分
回答	1:すべてを自記 2:一部を介護支援専門員が本人から聞き取って記入 3:大部分を介護支援専門員が本人から聞き取って記入 4:全てを介護支援専門員が本人から聞き取って記入
問1-2・2-2	回答内容は、
回答	1:全体的に信憑性が高い 2:全体的に信憑性が低い 3:信憑性の判断はできない
問3	調査対象ご本人の年齢
回答	1: 65～69歳 2: 70～74歳 3: 75～79歳 4: 80～84歳 5: 85～89歳 6: 90～94歳 7: 95歳以上
問4	調査対象ご本人の性別
問5	調査対象ご本人の診断名
問5-1	認知症の診断が 1: ある 2: ない (いずれかに○)
問5-2	病型の診断が 1: ある 2: ない (いずれかに○) ある場合 →問5-3
問5-3	1:アルツハイマー型 2:血管性 3:レビー小体型 4:行動障害型前頭側頭型 5:意味性 6:その他
問6	調査対象ご本人の要介護度
問7	調査対象ご本人の「認知症高齢者の日常生活自立度」※IVとMは対象外
問8	調査対象ご本人の「障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)」
問9	調査対象ご本人とご家族の家族関係；普段のモニタリングの様子から推測
回答	1:良 2:普通 3:不良
問10	ご家族の介護負担感(精神的・身体的・経済的)；普段のモニタリングの様子から推測
回答	(精神的・身体的・経済的) 毎の 1:重度 2:中度 3:軽度～なし
問11	過去1か月の間の調査対象ご本人の行動・心理症状(BPSD)の発現の有無(例:妄想、興奮、不安など)
問12	かかりつけ医がいるか
問13	現在、治療中の病気(自由記述)

注) 予備調査・本調査とも同様の内容で調査した。

解析に用いたデータは、質を担保するため介護支援専門員の判断で問1-2、2-2「ご本人」と「ご家族」回答内容の「信憑性が高い」及び問9「家族関係が普通から良」の結果とした。

表3

予備調査、本調査で用いた生活状態項目

問1	食事がおいしい
問2	お風呂に入る
問3	日中は適切で清潔な服に着替える
問4	健康的な食事ができる
問5	身だしなみを整える
問6	トイレに行く
問7	買い物をする機会がある
問8	自分で使えるお金をもっている
問9	安全に外出し、帰宅できる
問10	家の周りが片付いてる
問11	軽い運動をする（散歩を含む）
問12	趣味やレクリエーションなどの楽しい活動をする 例) 読書、音楽鑑賞、旅行など
問13	家族や周りの人の役に立つことをしている
問14	地域の一人として社会参加する 例) 地域の掃除など
問15	家の外になじみの場所がある
問16	いろいろな行事を楽しむ 例) 誕生日、正月、花見、七夕、月見、クリスマスなど
問17	話を聞いてくれる人がいる
問18	家族や親戚、親しい人たちとのつながりが保たれている
問19	きれいで清潔な部屋で過ごす
問20	心地よい部屋で過ごす 例) 色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど
問21	部屋になじみのものが置いてある
問22	ものごとに集中できる静かな環境がある
問23	家の中に落ち着ける居場所がある
問24	夜ぐっすり眠れる
問25	選挙に行くなどの政治活動を行う
問26	テレビを見たり新聞を読んだりする

注) 本調査では、予備調査結果に基づき各項目内容は変更せず、「問19.きれいで清潔な部屋で過ごす」、「問22.ものごとに集中できる静かな環境がある」の二項目を除外して本調査を実施した。

表 4

調査方法(予備調査・本調査)；生活状態項目についての質問内容と回答内容

質問内容 1 左の項目について、現在、介護保険サービスやご家族等の支援をうけながら実現できている程度を下記の1～6から一つ選択して下さい。

回答内容 1	できている	1
	まあまあできている	2
	あまりできていない	3
	できていない	4
	今までしていない	5
	わからない	6

質問内容 2 左の項目について、認知症などの病気により自分の考えをうまく伝えることが難しくなっても実現したい程度を下記の1～5から一つ選択して下さい。

回答内容 2	必ず必要	1
	まあまあ必要	2
	あまり必要ではない	3
	必要ではない	4
	わからない	5

注) 本調査では、予備調査結果を踏まえて「質問内容 2」のみ調査した。解析では回答内容 1 の「5；今までしていない」、「6；わからない」と、回答内容 2 の「5；わからない」は欠損値とした。

表 5

予備調査で用いた調査項目

生活の質；Short QOL-D（全9項目；陽性6項目、陰性3項目）

最近1週間のご本人の状態を振り返り、4段階（週に0回～ほぼ毎日）の頻度の中から一つ選ぶ客観的評価。本研究ではご家族が評価した。

寺田らによる、数少ない国内開発の認知症の人のQOL指標であり、中度～重度の認知症の人の評価が可能。

精神的健康状態；WHO-5（全5項目）

6段階（いつも～まったくない）の回答の中から、最近2週間の自己の状態に最も近いものの一つを選ぶ主観的評価。本研究では認知症のご本人とご家族自身が評価した。

世界的に標準化された評価指標の短縮版。

生活安定度；VAS

現在、認知症のご本人の生活の内容はどの程度安定しているかについて評価し、11段階（0；全く安定していない～10；とても安定している）の中から一つ選ぶ主観的評価。本研究では認知症のご本人、ご家族、介護支援専門員が評価した。

注）予備調査で調査し、結果を踏まえ本調査では調査しなかった。

解析概要	解析目的	解析内容	解析方法	本調査	予備調査	本調査	参考資料
基本属性の基礎統計	1. 予備調査と本調査の回答者の属性毎の関連性 2. 問1～問12毎の属性内傾向	1. 予備調査と本調査の「実現したい程度」の二つの高さによる分類；下位尺度の目安 注1) 高い：「必ず必要」＋「まあまあ必要」、低い：「あまり必要ではない」＋「できていない」の二値に変換 注2) 高い：「できていない」＋「まあまあできていない」、低い：「あまりできていない」＋「できていない」の二値に変換	Fisher's Exact Test 度数分布	○	○	○	表7～10
生活状態項目の基礎統計	1. 予備調査と本調査の「実現したい程度」の二つの高さによる分類；下位尺度の目安 注1) 高い：「必ず必要」＋「まあまあ必要」、低い：「あまり必要ではない」＋「できていない」の二値に変換 注2) 高い：「できていない」＋「まあまあできていない」、低い：「あまりできていない」＋「できていない」の二値に変換	「実現したい程度」、生活状態項目毎の各属性との関連性（性質・解釈の一貫性） 注1) 問10介護負担感（精神的負担感・身体的負担感・経済的負担感）は「重度・中度・軽度・なし」の二値に変換	Spearman順位相関係数 Mann-Whitney U test	○	○	○	表13～31
妥当性の検証；生活状態項目毎の一般化可能性の側面		予備調査と本調査の「実現したい程度」の生活状態項目毎の評価者毎（認知症の本人・ご家族・介護支援専門員）の判断一致度	Spearman順位相関係数	○	○	○	表32
信頼性の検証；生活状態項目毎		「実現できていない程度；高低段階」の評価者間（認知症の本人・ご家族・介護支援専門員）の判断一致度	Cohen's Kappa係数	○	○	○	表33
生活状態項目の確定		予備調査と本調査の「実現したい程度」の生活状態項目間の評価者内（認知症の本人・ご家族・介護支援専門員）の判断一致度（類似項目）	Spearman順位相関係数	○	○	○	表34
妥当性の検証；自己記述意見		予備調査と本調査の「実現したい程度」の生活状態項目毎の評価者毎（認知症の本人・ご家族・介護支援専門員）の判断一致度（再テスト）	Mann-Whitney U test	○	○	○	表35
妥当性の検証；基準関連妥当性の外的基準の基礎統計		予備調査の生活状態項目についての評価者毎（認知症の本人・ご家族・介護支援専門員）の自由記述	一覧表	○	○	○	表36
		生活安定度；VASの評価者間（認知症の本人・ご家族・介護支援専門員）の関連性	Friedman検定 Wilcoxon符号付順位和検定 Spearman順位相関係数	○	○	○	表37-1
		精神的健康状態；WHO-5（認知症の本人・ご家族）の関連性	Wilcoxon符号付順位和検定 Spearman順位相関係数	○	○	○	表37-2
		生活安定度；VAS、精神的健康状態；WHO-5、生活の質；short QOL-Dの関連性	Spearman順位相関係数	○	○	○	表37-3
		「実現できていない程度」の評価者毎（認知症の本人・ご家族・介護支援専門員）と生活安定度；VAS（認知症の本人・ご家族・介護支援専門員）の関連性	Spearman順位相関係数	○	○	○	表38
		「実現できていない程度」の評価者毎（認知症の本人・ご家族・介護支援専門員）と精神的健康状態；WHO-5（認知症の本人・ご家族）の関連性	Spearman順位相関係数	○	○	○	表39
		「実現できていない程度」の評価者毎（認知症の本人・ご家族・介護支援専門員）と生活の質；short QOL-Dの関連性	Spearman順位相関係数	○	○	○	表40
		本調査の生活状態項目を「実現したい程度」の評価者毎（認知症の本人・ご家族）と二者間の共通因子（下位尺度）構造	因子分析	○	○	○	表41
		確定した下位尺度（2カテゴリ）に基づいた「実現できていない程度」の一意性 注）下位尺度の検証は予備調査の「実現できていない程度」に因子分析で確定した二カテゴリ構造を適用	Cronbach α 係数	○	○	○	表42
		「実現できていない程度」の評価者毎（2カテゴリ）の生活安定度；VAS、精神的健康状態；WHO-5、生活の質；short QOL-Dの関連性（性質・解釈の一貫性）	Spearman順位相関係数 Mann-Whitney U test	○	○	○	表43
		「実現できていない程度」の評価者毎（2カテゴリ）の生活安定度；VAS、精神的健康状態；WHO-5、生活の質；short QOL-Dの関連性	Spearman順位相関係数	○	○	○	表44
		「実現できていない程度」の評価者毎（2カテゴリ）の生活安定度；VAS、精神的健康状態；WHO-5、生活の質；short QOL-Dの関連性（構造と影響）	共分散構造分析；パス解析	○	○	○	図2
		「実現できていない程度」の評価者毎（2カテゴリ）の生活安定度；VAS、精神的健康状態；WHO-5、生活の質；short QOL-Dの関連性（構造と影響）	Pair'd t test	○	○	○	表45,図3
		下位尺度（2カテゴリ）を適用した予備調査と本調査の「実現したい程度」の欠損値の関連性	χ^2 検定	○	○	○	表46,47

注）質問「現在、介護保険サービスのご家族等の支援をうけながら実現できていない程度」については、予備調査の結果、2項目を削除した以外は項目変更の必要性が生じなかったため、予備調査のみで実施することとし、本調査で確定した下位尺度構造の検証にも用いた

表 7-1~5

予備調査及び本調査；基本属性の基礎統計1 (Fisher's Exact Test)

表 7-1

		問1「調査票A ご本人回答 質問1・2」の回答区分を教えてください 介護支援専門員が本人から聞き取って記入					
		すべてを自記	一部	大部分	全て	欠損値	合計
予備調査	度数	9	8	15	62	7	101
本調査	度数	28	16	47	143	11	245
合計	度数	37	24	62	205	18	346
	%	11%	7%	18%	59%	5%	100%
Fisher's Exact Test(欠損値を除いた：p-value)							.67

表 7-2

		問1-2 回答内容は、全体的に信憑性が				
		高い	低い	判断は出来ない	欠損値	合計
予備調査	度数	68	12	15	6	101
本調査	度数	152	40	39	14	245
合計	度数	220	52	54	20	346
	%	64%	15%	16%	6%	100%
Fisher's Exact Test(欠損値を除いた：p-value)						.54

表 7-3

		問2「調査票B ご家族回答 質問1・2」の回答区分を教えてください 介護支援専門員が本人から聞き取って記入					
		すべてを自記	一部	大部分	全て	欠損値	合計
予備調査	度数	31	15	11	37	7	101
	%	31%	15%	11%	37%	7%	100%
本調査	度数	135	13	28	58	11	245
	%	55%	5%	11%	24%	4%	100%
合計	度数	166	28	39	95	18	346
	%	48%	8%	11%	27%	5%	100%
Fisher's Exact Test(欠損値を除いた：p-value)							.00

表 7-4

		問2-2 回答内容は、全体的に信憑性が				
		高い	低い	判断は出来ない	欠損値	合計
予備調査	度数	80	3	9	9	101
本調査	度数	212	9	13	11	245
合計	度数	292	12	22	20	346
	%	84%	3%	6%	6%	100%
Fisher's Exact Test(欠損値を除いた：p-value)						.40

表 7-5

		問9 調査対象ご本人とご家族の家族関係について、普段のモニタリングの様子から推測して教えてください				
		良	普通	不良	欠損値	合計
予備調査	度数	41	44	9	7	101
本調査	度数	108	107	15	15	245
合計	度数	149	151	24	22	346
	%	43%	44%	7%	6%	100%
Fisher's Exact Test(欠損値を除いた：p-value)						.57

注) 問8以降の解析では、問1-2認知症のご本人、2-2ご家族の「回答内容は、全体的に信憑性が」の「高い」かつ、問9「調査対象ご本人とご家族の家族関係について、普段のモニタリングの様子から推測して教えてください」の「良」「普通」のみを対象とした。

表 8-1~7

予備調査及び本調査；基本属性の基礎統計2 (Fisher's Exact Test)

表 8-1

問1「調査票 A ご本人回答」の回答区分を教えてください
介護支援専門員が本人から聞き取って記入

		すべてを自記	一部	大部分	すべて	欠損値	合計
予備調査	度数	5	7	9	34	3	58
本調査	度数	19	14	25	81	0	139
合計	度数	24	21	34	115	3	197
	%	12%	11%	17%	58%	2%	100%
Fisher's Exact Test(欠損値を除いた：p-value)							.81

表 8-2

問2「調査票 B ご家族回答」の回答区分を教えてください
介護支援専門員が本人から聞き取って記入

		すべてを自記	一部	大部分	すべて	欠損値	合計
予備調査	度数	20	13	7	16	2	58
	%	34%	22%	12%	28%	3%	100%
本調査	度数	93	6	12	28	0	139
	%	67%	4%	9%	20%	0%	100%
合計	度数	113	19	19	44	2	197
	%	57%	10%	10%	22%	1%	100%
Fisher's Exact Test(欠損値を除いた：p-value)							.00

表 8-3

問3 調査対象ご本人の年齢を教えてください

		65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95歳以上	欠損値	合計
予備調査	度数	1	3	11	11	21	8	1	2	58
本調査	度数	1	10	17	35	46	28	2	0	139
合計	度数	2	13	28	46	67	36	3	2	197
	%	1%	7%	14%	23%	34%	18%	2%	1%	100%
Fisher's Exact Test(欠損値を除いた：p-value)										.64

表 8-4

問4 調査対象者ご本人の性別を教えてください

		男性	女性	欠損値	合計
予備調査	度数	19	37	2	58
本調査	度数	41	98	0	139
合計	度数	60	135	2	197
	%	30%	69%	1%	100%
Fisher's Exact Test(欠損値を除いた：p-value)					.61

表 8-5

問5-1 認知症の診断が

		ある	ない	欠損値	合計
予備調査	度数	48	8	2	58
本調査	度数	108	31	0	139
合計	度数	156	39	2	197
	%	79%	20%	1%	100%
Fisher's Exact Test(欠損値を除いた：p-value)					.24

表 8-6

問5-2 病型の診断が

		ある	ない	欠損値	合計
予備調査	度数	31	12	15	58
本調査	度数	88	48	3	139
合計	度数	119	60	18	197
	%	60%	30%	9%	100%
Fisher's Exact Test(欠損値を除いた：p-value)					.46

表 8-7

問5-3 ある場合

		アルツハイマー型	血管性	レビー小体型	行動障害型前頭側頭型	その他	欠損値	合計
予備調査	度数	25	6	5	1	1	20	58
本調査	度数	66	14	9	1	0	49	139
合計	度数	91	20	14	2	1	69	197
	%	46%	10%	7%	1%	1%	35%	100%
Fisher's Exact Test(欠損値を除いた：p-value)								.47

注) 表 8 以降の解析対象はすべて表 7 の解析結果で抽出したデータのみを対象とした (予備調査 n=58、本調査 n=139)。

表 9-1~4

予備調査及び本調査；基本属性の基礎統計3 (Fisher's Exact Test)

表 9-1

問6 調査対象ご本人の要介護度を教えてください (介護認定調査結果から記載する)

		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	欠損値	合計
予備調査	度数	6	1	24	19	4	1	0	3	58
本調査	度数	10	14	58	32	18	5	2	0	139
合計	度数	16	15	82	51	22	6	2	3	197
	%	8%	8%	42%	26%	11%	3%	1%	2%	100%
<i>Fisher's Exact Test(欠損値を除いた：p-value)</i>										.21

表 9-2

問7 調査対象ご本人の「認知症高齢者の日常生活自立度」を教えてください (介護認定調査結果から記載する)

		I	II a	II b	III a	III b	欠損値	合計
予備調査	度数	5	26	15	8	2	2	58
本調査	度数	24	37	49	26	3	0	139
合計	度数	29	63	64	34	5	2	197
	%	15%	32%	32%	17%	3%	1%	100%
<i>Fisher's Exact Test(欠損値を除いた：p-value)</i>								.08

表 9-3

問8 調査対象ご本人の「障害高齢者の日常生活自立度 (寝たきり度)」を教えてください (介護認定調査結果から記載する)

		J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	欠損値	合計
予備調査	度数	4	9	25	17	0	1	0	2	58
本調査	度数	9	27	52	29	17	4	1	0	139
合計	度数	13	36	77	46	17	5	1	2	197
	%	7%	18%	39%	23%	9%	3%	1%	1%	100%
<i>Fisher's Exact Test(欠損値を除いた：p-value)</i>										.06

表 9-4

問9 調査対象ご本人とご家族の家族関係について、普段のモニタリングの様子から推測して教えてください

		良	普通	欠損値	合計
予備調査	度数	35	21	2	58
本調査	度数	77	62	0	139
合計	度数	112	83	2	197
	%	57%	42%	1%	100%
<i>Fisher's Exact Test(欠損値を除いた：p-value)</i>					.42

表 10-1-5

予備調査及び本調査；基本属性の基礎統計3 (Fisher's Exact Test)

表 10-1-3

問10 ご家族の介護負担感（精神的・身体的・経済的）について、普段のモニタリングの様子から推測して教えてください

表 10-1-1

		問10-1 精神的負担感				
		重度	中度	軽度～なし	欠損値	合計
予備調査	度数	9	26	20	3	58
本調査	度数	23	86	30	0	139
合計	度数	32	112	50	3	197
	%	16%	57%	25%	2%	100%
Fisher's Exact Test(欠損値を除いた：p-value)						.10

表 10-2-1

		問10-2 身体的負担感				
		重度	中度	軽度～なし	欠損値	合計
予備調査	度数	2	20	33	3	58
本調査	度数	9	51	79	0	139
合計	度数	11	71	112	3	197
	%	6%	36%	57%	2%	100%
Fisher's Exact Test(欠損値を除いた：p-value)						.84

表 10-3-1

		問10-3 経済的負担感				
		重度	中度	軽度～なし	欠損値	合計
予備調査	度数	1	14	41	2	58
本調査	度数	10	28	100	1	139
合計	度数	11	42	141	3	197
	%	6%	21%	72%	2%	100%
Fisher's Exact Test(欠損値を除いた：p-value)						.31

表 10-4

問11過去1か月の間の調査対象ご本人の行動・心理症状（BPSD）の発現の有無を教えてください（例：妄想、興奮、不安など）

		ある	ない	欠損値	合計
予備調査	度数	17	38	3	58
本調査	度数	46	93	0	139
合計	度数	63	131	3	197
	%	32%	66%	2%	100%
Fisher's Exact Test(欠損値を除いた：p-value)					0.87

表 10-5

問12かかりつけ医がいるか教えてください

		はい	いいえ	欠損値	合計
予備調査	度数	56	0	2	58
本調査	度数	135	3	1	139
合計	度数	191	3	3	197
	%	97%	2%	2%	100%
Fisher's Exact Test(欠損値を除いた：p-value)					.56

表 10-1-2

		問10-1 精神的負担感 二群分け修正（軽度～なし、中度以上）			
		中度以上	軽度～なし	欠損値	合計
予備調査	度数	35	20	3	58
本調査	度数	109	30	0	139
合計	度数	144	50	3	197
	%	73%	25%	2%	100%
Fisher's Exact Test(欠損値を除いた：p-value)					.04

表 10-2-2

		問10-2 身体的負担感 二群分け修正（軽度～なし、中度以上）			
		中度	軽度～なし	欠損値	合計
予備調査	度数	22	33	3	58
本調査	度数	60	79	0	139
合計	度数	82	112	3	197
	%	42%	57%	2%	100%
value)					.75

表 10-3-2

		問10-3 経済的負担感 二群分け修正（軽度～なし、中度以上）			
		中度	軽度～なし	欠損値	合計
予備調査	度数	15	41	2	58
本調査	度数	38	100	1	139
合計	度数	53	141	3	197
	%	27%	72%	2%	100%
value)					1.00

表 1.1

生活状態項目を「認知症などの病状により自分の考えをうまく伝えることが難しくなっても実現したい程度」の予備調査と本調査の評価者ごと（認知症のご本人・ご家族・介護支援専門員）の度数分布
予備調査（n=58）、本調査（n=139）

調査種類	認知症のご本人						ご家族						介護支援専門員							
	「実現したい程度」分類		予備調査		本調査		予備調査		本調査		予備調査		本調査		予備調査		本調査			
	高い n	低い n	高い n	低い n	高い n	低い n	高い n	低い n	高い n	低い n	高い n	低い n	高い n	低い n	高い n	低い n	高い n	低い n		
生活状態項目																				
地域の一員として社会参加する例）地域の掃除等	19 (33)	34 (59)	5 (9)	5 (9)	36 (26)	89 (64)	14 (10)	14 (10)	21 (36)	32 (55)	5 (9)	5 (9)	41 (29)	89 (64)	9 (6)	9 (6)	32 (55)	22 (38)	4 (7)	82 (59)
選挙に行くなどの政治活動を行う	22 (38)	29 (50)	7 (12)	7 (12)	49 (35)	78 (56)	12 (9)	12 (9)	22 (38)	31 (53)	5 (9)	5 (9)	44 (32)	88 (63)	7 (6)	7 (6)	31 (53)	21 (36)	6 (10)	51 (37)
買い物をする機会がある	34 (59)	21 (36)	21 (36)	21 (36)	64 (46)	72 (52)	3 (2)	3 (2)	32 (55)	23 (40)	3 (5)	3 (5)	70 (50)	68 (49)	1 (1)	1 (1)	45 (78)	11 (19)	2 (3)	90 (65)
家の外に遊びの場所がある	36 (62)	14 (24)	8 (14)	8 (14)	79 (57)	48 (35)	12 (9)	12 (9)	43 (74)	11 (19)	4 (7)	4 (7)	95 (68)	38 (27)	6 (4)	6 (4)	52 (90)	4 (7)	2 (3)	119 (86)
家族や周りの人の役に立つことをしている	33 (57)	20 (34)	5 (9)	5 (9)	84 (60)	45 (32)	10 (7)	10 (7)	38 (66)	14 (24)	6 (10)	6 (10)	75 (54)	58 (42)	6 (4)	6 (4)	50 (86)	5 (9)	3 (5)	78 (56)
自分で使えるお金をもっている	32 (55)	22 (38)	4 (7)	4 (7)	87 (63)	48 (35)	4 (3)	4 (3)	28 (48)	28 (48)	2 (3)	2 (3)	63 (45)	74 (53)	2 (1)	2 (1)	35 (60)	21 (36)	2 (3)	108 (78)
家の用事が片付いている	47 (81)	6 (10)	5 (9)	5 (9)	95 (68)	38 (27)	6 (4)	6 (4)	47 (81)	8 (14)	3 (5)	3 (5)	110 (79)	29 (21)	0 (0)	0 (0)	50 (86)	6 (10)	2 (3)	102 (73)
いろいろな行事を楽しむ例）誕生日、正月、花見、七夕、月見、クリスマスなど	42 (72)	12 (21)	4 (7)	4 (7)	100 (72)	37 (27)	2 (1)	2 (1)	44 (76)	11 (19)	3 (5)	3 (5)	114 (82)	25 (18)	0 (0)	0 (0)	54 (93)	2 (3)	2 (3)	123 (88)
趣味やレクリエーションなどたのしい活動をする例）読書、音楽鑑賞、旅行など	36 (62)	17 (29)	5 (9)	5 (9)	101 (73)	35 (25)	3 (2)	3 (2)	46 (79)	9 (16)	3 (5)	3 (5)	117 (84)	20 (14)	2 (1)	2 (1)	54 (93)	1 (2)	3 (5)	125 (90)
軽い運動をする（散歩を含む）	45 (78)	10 (17)	3 (6)	3 (6)	104 (75)	31 (22)	4 (3)	4 (3)	52 (90)	3 (5)	3 (5)	3 (5)	122 (88)	16 (12)	1 (1)	1 (1)	54 (93)	2 (3)	2 (3)	129 (93)
安全で外出し、帰宅できる	45 (78)	10 (17)	3 (6)	3 (6)	105 (76)	28 (20)	6 (4)	6 (4)	45 (78)	9 (16)	4 (7)	4 (7)	111 (80)	26 (19)	2 (1)	2 (1)	51 (88)	5 (9)	2 (3)	114 (82)
部屋に遊びのものが置いてある	50 (86)	5 (9)	3 (6)	3 (6)	112 (81)	25 (18)	2 (1)	2 (1)	52 (90)	3 (5)	3 (5)	3 (5)	123 (88)	15 (11)	1 (1)	1 (1)	54 (93)	1 (2)	3 (5)	126 (91)
身だしなみを整える	55 (95)	1 (2)	2 (3)	2 (3)	116 (83)	21 (15)	2 (1)	2 (1)	55 (95)	1 (2)	2 (3)	2 (3)	128 (92)	11 (8)	0 (0)	0 (0)	56 (97)	0 (0)	2 (3)	133 (96)
テレビを見たり新聞を読んだりする	40 (69)	15 (26)	3 (6)	3 (6)	117 (84)	19 (14)	3 (2)	3 (2)	48 (83)	7 (12)	3 (5)	3 (5)	122 (88)	17 (12)	0 (0)	0 (0)	51 (88)	4 (7)	3 (5)	113 (81)
日中は適切で清潔な服に着替える	52 (90)	4 (7)	2 (3)	2 (3)	120 (86)	16 (12)	3 (2)	3 (2)	57 (98)	0 (0)	1 (2)	1 (2)	131 (94)	7 (5)	1 (1)	1 (1)	56 (97)	0 (0)	2 (3)	135 (97)
お風呂に入る	54 (93)	2 (3)	2 (3)	2 (3)	124 (89)	14 (10)	1 (1)	1 (1)	56 (97)	1 (2)	1 (2)	1 (2)	136 (98)	3 (2)	0 (0)	0 (0)	56 (97)	0 (0)	2 (3)	133 (96)
心地よい部屋で過ごす例）色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど	54 (93)	2 (3)	2 (3)	2 (3)	124 (89)	12 (9)	3 (2)	3 (2)	55 (95)	1 (2)	2 (3)	2 (3)	128 (92)	11 (8)	0 (0)	0 (0)	55 (95)	0 (0)	3 (5)	134 (96)
健康的な食事ができる	56 (97)	0 (0)	2 (3)	2 (3)	126 (91)	11 (8)	2 (1)	2 (1)	57 (98)	0 (0)	1 (2)	1 (2)	131 (94)	5 (4)	3 (2)	3 (2)	56 (97)	0 (0)	2 (3)	131 (94)
家の中に着ける居場所がある	56 (97)	0 (0)	2 (3)	2 (3)	130 (94)	6 (4)	3 (2)	3 (2)	56 (97)	0 (0)	2 (3)	2 (3)	134 (96)	5 (4)	0 (0)	0 (0)	55 (95)	0 (0)	3 (5)	133 (96)
夜ぐっすり眠れる	56 (97)	0 (0)	2 (3)	2 (3)	132 (95)	5 (4)	2 (1)	2 (1)	56 (97)	0 (0)	2 (3)	2 (3)	129 (93)	8 (6)	2 (1)	2 (1)	55 (95)	0 (0)	3 (5)	133 (96)
話を聞いてくれる人がいる	53 (91)	1 (2)	4 (7)	4 (7)	133 (96)	4 (3)	2 (1)	2 (1)	54 (93)	0 (0)	4 (7)	4 (7)	134 (96)	4 (3)	1 (1)	1 (1)	56 (97)	0 (0)	2 (3)	134 (96)
家族や親類、親しい人たちのつながりが保たれている	55 (95)	0 (0)	3 (6)	3 (6)	133 (96)	4 (3)	2 (1)	2 (1)	54 (93)	1 (2)	3 (5)	3 (5)	132 (95)	5 (4)	2 (1)	2 (1)	56 (97)	0 (0)	2 (3)	136 (98)
食事がおいしい	56 (97)	0 (0)	2 (3)	2 (3)	133 (96)	5 (4)	1 (1)	1 (1)	57 (98)	0 (0)	1 (2)	1 (2)	137 (99)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	55 (95)	0 (0)	3 (5)	135 (97)
トイレに行く	54 (93)	1 (2)	3 (6)	3 (6)	135 (97)	3 (2)	1 (1)	1 (1)	55 (95)	0 (0)	3 (5)	3 (5)	134 (96)	2 (1)	1 (1)	1 (1)	56 (97)	0 (0)	2 (3)	133 (96)
ものごと集中できる静かな環境がある	52 (90)	2 (3)	4 (7)	4 (7)	51 (88)	4 (7)	3 (5)	3 (5)	51 (88)	4 (7)	3 (5)	3 (5)	128 (92)	11 (8)	0 (0)	0 (0)	55 (95)	0 (0)	3 (5)	134 (96)
きれいで清潔な部屋で過ごす	54 (93)	2 (3)	2 (3)	2 (3)	56 (97)	1 (2)	1 (2)	1 (2)	56 (97)	1 (2)	1 (2)	1 (2)	136 (98)	3 (2)	0 (0)	0 (0)	55 (95)	0 (0)	3 (5)	135 (97)

注）度数分布票；「高い」と「低い」の二群
 高い：「必ず必要」＋「まあまあ必要」、低い：「あまり必要ではない」＋「必要ではない」
 全調査種類の結果を「高い」の割合(%)昇順に並び替え（認知症のご本人の本調査結果を基準；橙色）
 「トイレに行く」までの24項目が最終的な智定版生活状態項目
 本調査；認知症のご本人の「高い」の80%前後が最終的な下位項目の2区分（「部屋に遊びのものが置いてある」の上部のスペースで区分）
 色付き（青と黄色）；予備調査と本調査で2区分が変化した項目
 「ものごと集中できる静かな環境がある」、「きれいで清潔な部屋で過ごす」は予備調査後に除外した項目のため下部に区分して表記（「トイレに行く」の下部スペースで区分）。

表 1 2

生活状態項目を「介護保険サービスやご家族等の支援をうけながら実現できている程度」の評価者ごと（認知症のご本人・ご家族・介護支援専門員）の度数分布予備調査（n=58）

生活状態項目	「実現できている程度」の評価者				認知症のご本人				ご家族				介護支援専門員						
	「実現できている程度」分類		低い		低い		高い		低い		低い		高い		低い		高い		
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	
生活状態項目																			
地域の一員として社会参加する例) 地域の掃除等	7	(12)	40	(69)	11	(19)	4	(7)	40	(69)	14	(24)	6	(10)	42	(72)	10	(17)	
選挙に行くなどの政治活動を行う	23	(40)	29	(50)	6	(10)	19	(33)	34	(59)	5	(9)	13	(22)	34	(59)	11	(19)	
買い物をする機会がある	27	(47)	25	(43)	6	(10)	22	(38)	31	(53)	5	(9)	19	(33)	32	(55)	7	(12)	
家の外になじみの場所がある	31	(53)	22	(38)	5	(9)	31	(53)	22	(38)	5	(9)	36	(62)	17	(29)	5	(9)	
家族や周りの人の役に立つことをしている	18	(31)	37	(64)	3	(5)	24	(41)	28	(48)	6	(10)	21	(36)	32	(55)	5	(9)	
自分で使えるお金をもっている	28	(48)	25	(43)	5	(9)	27	(47)	27	(47)	4	(7)	23	(40)	27	(47)	8	(14)	
家の周りが片付いている	47	(81)	5	(9)	6	(10)	45	(78)	10	(17)	3	(5)	45	(78)	9	(16)	4	(7)	
いろいろな行事を楽しむ例) 誕生日、正月、花見、七夕、月見、クリスマスなど	38	(66)	16	(28)	4	(7)	37	(64)	19	(33)	2	(3)	41	(71)	15	(26)	2	(3)	
趣味やレクリエーションなど楽しい活動をする例) 読書、音楽鑑賞、旅行など	29	(50)	26	(45)	3	(5)	31	(53)	23	(40)	4	(7)	28	(48)	27	(47)	3	(5)	
軽い運動をする(散歩を含む)	35	(60)	22	(38)	1	(2)	34	(59)	23	(40)	1	(2)	33	(57)	22	(38)	3	(5)	
安全に外出し、帰宅できる	40	(69)	14	(24)	4	(7)	37	(64)	17	(29)	4	(7)	34	(59)	16	(28)	8	(14)	
部屋になじみのものが置いてある	47	(81)	9	(16)	2	(3)	50	(86)	5	(9)	3	(5)	49	(84)	5	(9)	4	(7)	
身だしなみを整える	53	(91)	4	(7)	1	(2)	54	(93)	4	(7)	0	(0)	54	(93)	2	(3)	2	(3)	
テレビを見たり新聞を読んだりする	41	(71)	15	(26)	2	(3)	44	(76)	14	(24)	0	(0)	34	(59)	19	(33)	5	(9)	
日は適切で清潔な服に着替える	51	(88)	5	(9)	2	(3)	50	(86)	8	(14)	0	(0)	52	(90)	4	(7)	2	(3)	
お風呂に入る	53	(91)	4	(7)	1	(2)	53	(91)	4	(7)	1	(2)	51	(88)	5	(9)	2	(3)	
心地よい部屋で過ごす例) 色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど	53	(91)	4	(7)	1	(2)	48	(83)	10	(17)	0	(0)	49	(84)	6	(10)	3	(5)	
健康的な食事ができる	54	(93)	3	(5)	1	(2)	50	(86)	8	(14)	0	(0)	49	(84)	7	(12)	2	(3)	
家の中に落ち着ける居場所がある	51	(88)	5	(9)	2	(3)	53	(91)	4	(7)	1	(2)	52	(90)	3	(5)	3	(5)	
夜ぐっすり眠れる	44	(76)	12	(21)	2	(3)	49	(84)	9	(16)	0	(0)	45	(78)	9	(16)	4	(7)	
話を聞いてくれる人がいる	52	(90)	5	(9)	1	(2)	50	(86)	7	(12)	1	(2)	50	(86)	6	(10)	2	(3)	
家族や精進、頼しい人たちのつながりが保たれている	55	(95)	2	(3)	1	(2)	51	(88)	6	(10)	1	(2)	50	(86)	6	(10)	2	(3)	
食事がおいしい	51	(88)	4	(7)	3	(5)	48	(83)	9	(16)	1	(2)	52	(90)	3	(5)	3	(5)	
トイレに行く	52	(90)	3	(5)	3	(5)	54	(93)	4	(7)	0	(0)	52	(90)	4	(7)	2	(3)	
ものごと集中できる静かな環境がある	48	(83)	8	(14)	2	(3)	50	(86)	8	(14)	0	(0)	50	(86)	5	(9)	3	(5)	
きれいで清潔な部屋で過ごす	54	(93)	3	(5)	1	(2)	50	(86)	8	(14)	0	(0)	51	(88)	3	(5)	4	(7)	

注) 度数分布票：「高い」と「低い」の二群
 生活状態項目の並び順は表11と同様；認知症のご本人評価の「実現したい程度；高い」群割合で昇順
 高い：「できている」+「まあまあできている」、低い：「あまりできていない」+「できていない」

表 1 3
生活状態項目を「介護保険サービスやご家族等の支援をうけながら実現できている程度」及び「認知症などの病気ににより自分の考えをうまく伝えることが難しくなっても実現したい程度」と「年齢」の関連性 (Spearman順位相関係数)
予備調査 (n=58)、本調査 (n=139)

調査種類	予 備 調 査						本 調 査																	
	実現できている程度			実現したい程度			認知症のご本人			実現したい程度														
	ρ	p	n	ρ	p	n	ρ	p	n	ρ	p	n												
生活状態項目についての質問種類																								
生活状態項目の評価者																								
生活状態項目																								
地域の一人として社会参加する例) 地域の掃除																								
等	-.25	.086	47	11	.08	.589	44	14	-.04	.802	48	10	.01	.963	53	5	-.11	.438	53	5	.08	.572	54	4
選挙に行くなどの政治活動を行う	-.05	.714	52	6	-.03	.809	53	5	-.05	.754	47	11	.02	.896	51	7	-.04	.777	53	5	-.02	.877	52	6
買い物をする機会がある	-.14	.316	52	6	-.28	.043	53	5	-.25	.081	51	7	-.11	.436	55	3	-.30	.025	55	3	-.22	.097	56	2
家の外になじみの場所がある	-.08	.569	53	5	-.06	.695	53	5	-.03	.836	53	5	-.02	.881	50	8	.00	.977	54	4	-.31	.019	56	2
自分で使えるお金をもっている	-.11	.425	53	5	-.02	.905	54	4	-.17	.242	50	8	-.20	.144	54	4	-.15	.278	56	2	-.08	.568	56	2
家族や周りの人の役に立つことをしている	.07	.599	55	3	-.11	.432	52	6	-.11	.428	53	5	-.11	.451	53	5	.23	.105	52	6	-.10	.474	55	3
家の周りが片付いている	.09	.522	52	6	-.11	.429	55	3	-.02	.910	54	4	-.28	.046	53	5	-.12	.391	55	3	-.35	.009	56	2
いろいろな行事を楽しむ例) 誕生日、正月、花見、七夕、月見、クリスマスなど	.13	.363	54	4	.05	.706	56	2	.12	.374	56	2	.10	.478	54	4	.05	.724	55	3	-.07	.608	56	2
趣味やレクリエーションなど楽しい活動をする例) 読書、音楽鑑賞、旅行など	.13	.343	55	3	-.03	.825	54	4	-.16	.256	55	3	.01	.930	53	5	.13	.358	55	3	-.02	.861	55	3
軽い運動をする(散歩を含む)	-.09	.508	57	1	-.02	.886	57	1	-.32	.017	55	3	.06	.649	55	3	-.01	.944	55	3	-.26	.052	56	2
安全に外出し、帰宅できる	-.17	.228	54	4	.07	.613	54	4	-.03	.849	50	8	-.11	.426	53	5	-.05	.743	54	4	-.06	.667	56	2
部屋になじみのものが置いてある	-.03	.846	56	2	.11	.427	55	3	-.03	.826	54	4	.18	.186	55	3	.16	.229	55	3	-.33	.015	55	3
身だしなみを整えられる	-.15	.281	57	1	.00	.992	58	0	.00	.998	56	2	.13	.337	56	2	.12	.382	56	2	-.16	.245	56	2
テレビを見たり新聞を読んだりする	.12	.367	56	2	.16	.225	58	0	.08	.569	53	5	.14	.315	55	3	.20	.150	55	3	-.04	.761	55	3
日中は適切で清潔な服に着替える	-.21	.124	56	2	-.08	.550	58	0	-.06	.656	56	2	-.05	.703	56	2	.12	.362	57	1	-.09	.520	56	2
お風呂に入る	-.09	.488	57	1	.00	.989	57	1	-.05	.690	56	2	.09	.501	56	2	.27	.039	57	1	-.05	.708	56	2
心地よい部屋で過ごす例) 色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど	.04	.758	57	1	-.01	.933	58	0	-.12	.385	55	3	.10	.443	56	2	-.02	.877	56	2	-.04	.767	55	3
健康的な食事ができる	.11	.435	57	1	.21	.118	58	0	.17	.214	56	2	.03	.804	56	2	.28	.034	57	1	.20	.135	56	2
家の中に落ち着ける居場所がある	.10	.480	56	2	.13	.341	57	1	-.01	.925	55	3	.03	.804	56	2	.12	.363	56	2	-.22	.101	55	3
食事をおいしい	-.22	.108	55	3	.03	.846	57	1	.08	.571	55	3	-.02	.869	56	2	.09	.516	57	1	.17	.213	55	3
夜ぐっすり眠れる	.03	.805	56	2	.09	.480	58	0	-.01	.967	54	4	.08	.559	56	2	.05	.727	56	2	.10	.453	56	2
家族や親戚、親しい人たちのつながりが保たれている	-.04	.757	57	1	.05	.734	57	1	-.05	.709	56	2	.16	.245	55	3	.13	.344	55	3	-.19	.169	55	3
話を聞いてくれる人がいる	.00	.999	57	1	.04	.783	57	1	-.07	.590	56	2	.12	.380	54	4	.12	.398	54	4	-.09	.515	56	2
トイレに行く	.18	.192	55	3	.19	.164	58	0	.11	.421	56	2	.15	.265	55	3	.01	.916	55	3	.03	.818	56	2
きれいで清潔な部屋で過ごす	.06	.651	57	1	-.06	.645	58	0	-.18	.193	54	4	.15	.258	56	2	.09	.513	57	1	-.25	.068	55	3
物事に集中できる静かな環境がある	.14	.306	56	2	.02	.893	58	0	-.03	.838	55	3	.06	.678	54	4	.06	.679	55	3	.01	.939	55	3

注) Spearman順位相関係数 (bonferroni補正)：正の関連性 = 橙色/負の関連性 = 青色；p<.017=.05/3

表 1 4

生活状態項目を「認知症などの病気により自分の考えをうまく伝えることが難しくなっても実現したい程度」と性別の関連性 (Mann-Whitney U test) 予備調査 (n=58)

生活状態項目	認知症のご本人				ご家族				介護支援専門員										
	男性		女性		男性		女性		男性		女性								
	r	p	n	中央値	四分位範囲	中央値	四分位範囲	r	p	n	中央値	四分位範囲							
地域の員として社会参加する例) 地域の掃除等	.18	.186	18	1	2.50	1.75	3.00	34	3	2.00	1.00	3.00	.02	.895	16	3	3.00	2.00	3.00
選挙に行くなどの政治活動を行う	.11	.451	16	3	2.00	2.00	3.75	34	3	2.00	1.00	3.00	.02	.901	15	4	3.00	2.00	3.00
買い物をする機会がある	.06	.680	18	1	3.00	2.00	3.75	36	1	3.00	2.00	4.00	.05	.701	18	1	3.00	3.00	3.00
家の外になじみの場所がある	.00	.991	18	1	3.00	3.00	3.00	31	6	3.00	2.00	4.00	.05	.691	18	1	3.00	3.00	4.00
自分で使えるお金をもっている	.08	.561	19	0	3.00	2.00	3.00	34	3	3.00	2.00	4.00	.20	.151	18	1	3.00	2.75	3.00
家族や周りの人の役に立つことをしている	.06	.682	17	2	3.00	2.00	3.00	35	2	3.00	2.00	3.00	.03	.822	18	1	3.00	3.00	3.25
家の周りが片付いている	.10	.485	18	1	3.00	3.00	3.25	34	3	3.00	3.00	4.00	.14	.313	18	1	3.00	3.00	4.00
いろいろな行事を楽しむ例) 誕生日、正月、花見、七夕、月見、クリスマスなど	.10	.456	19	0	3.00	3.00	3.00	34	3	3.00	2.75	4.00	.11	.420	18	1	3.00	3.00	4.00
趣味やレクリエーションなど楽しい活動をする例) 読書、音楽鑑賞、旅行など	.16	.253	17	2	3.00	2.00	3.00	35	2	3.00	2.00	3.00	.17	.221	17	2	4.00	3.00	4.00
軽い運動をする(散歩を含む)	.17	.200	18	1	3.00	3.00	4.00	36	1	3.00	3.00	4.00	.06	.659	18	1	3.00	3.00	4.00
安全に外出し、帰宅できる	.05	.709	18	1	3.00	3.00	4.00	34	3	3.50	2.75	4.00	.02	.909	18	1	4.00	3.00	4.00
部屋になじみのものが置いてある	.25	.072	19	0	3.00	3.00	4.00	35	2	4.00	3.00	4.00	.04	.787	17	2	4.00	3.00	4.00
身だしなみを整える	.07	.584	19	0	3.00	3.00	4.00	36	1	4.00	3.00	4.00	.00	1.000	18	1	4.00	3.00	4.00
テレビを見たり新聞を読んだりする	.09	.520	18	1	3.00	2.00	4.00	36	1	3.00	2.75	4.00	.21	.128	17	2	3.00	3.00	4.00
日中は適切で清潔な服に着替える	.05	.700	19	0	3.00	3.00	4.00	36	1	3.50	3.00	4.00	.11	.430	18	1	4.00	3.00	4.00
お風呂に入る	.19	.167	19	0	3.00	3.00	4.00	36	1	4.00	3.00	4.00	.03	.828	18	1	4.00	3.00	4.00
心地よい部屋で過ごす例) 色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど	.16	.246	19	0	3.00	3.00	4.00	36	1	4.00	3.00	4.00	.05	.725	17	2	4.00	3.00	4.00
健康的な食事ができる	.11	.422	19	0	4.00	3.00	4.00	36	1	4.00	3.00	4.00	.09	.492	18	1	4.00	3.00	4.00
家の中に落ち着ける居場所がある	.19	.169	19	0	3.00	3.00	4.00	36	1	4.00	3.00	4.00	.05	.746	17	2	4.00	3.50	4.00
食事をおいしい	.10	.453	19	0	4.00	3.00	4.00	36	1	4.00	3.00	4.00	.06	.658	18	1	4.00	3.75	4.00
夜ぐっすり眠れる	.29	.032	19	0	4.00	3.00	4.00	36	1	4.00	3.00	4.00	.04	.788	18	1	4.00	4.00	4.00
家族や親戚、親しい人たちのつながりが保たれている	.11	.437	19	0	4.00	3.00	4.00	35	2	4.00	3.00	4.00	.01	.930	17	2	4.00	4.00	4.00
話を聞いてくれる人がいる	.01	.965	18	1	4.00	3.00	4.00	35	2	4.00	3.00	4.00	.19	.169	18	1	4.00	4.00	4.00
トイレに行く	.06	.667	19	0	4.00	4.00	4.00	35	2	4.00	3.00	4.00	.13	.344	18	1	4.00	3.00	4.00
きれいで清潔な部屋で過ごす	.18	.178	19	0	3.00	3.00	4.00	36	1	4.00	3.00	4.00	.16	.247	17	2	4.00	3.00	4.00
物事に集中できる静かな環境がある	.19	.166	18	1	3.00	3.00	4.00	35	2	3.00	3.00	4.00	.00	.991	17	2	3.00	3.00	4.00

法) Mann-Whitney U test ; 「実現したい程度」に有意差あり (bonferroni補正 = 橙色 ; p<0.17=0.05(3) ; p<0.05)

表 1 5

生活状態項目を「介護保険サービスやご家族等の支援をうけながら表現できている程度」と性別の関連性 (Mann-Whitney U test)

予備調査(n=58)

生活状態項目	性別				認知症のご本人				ご家族				介護支援専門員						
	男性		女性		男性		女性		男性		女性		男性		女性				
	r	p	n	欠損	中央値	四分位範囲	n	欠損	中央値	四分位範囲	r	p	n	欠損	中央値	四分位範囲			
地域の一員として社会参加する例) 地域の掃除等	.07	.652	15	4	1.00	1.00	2.00	31	6	1.00	1.00	2.00	.01	.933	17	2	1.00	1.00	2.00
選挙に行くなどの政治活動を行う	.17	.238	17	2	3.00	1.00	4.00	34	3	1.50	1.00	4.00	.28	.062	15	4	2.00	1.00	4.00
買い物をする機会がある	.18	.206	16	3	2.00	1.00	3.00	35	2	3.00	1.00	4.00	.04	.780	16	3	1.50	1.00	3.00
家の外になじみの場所がある	.09	.523	17	2	3.00	2.00	4.00	35	2	3.00	2.00	3.00	.02	.873	16	3	3.00	1.25	4.00
自分で使えるお金をもっている	.17	.213	17	2	2.00	1.00	3.00	35	2	3.00	2.00	4.00	.11	.434	16	3	2.00	1.00	3.00
家族や周りの人の役に立つことをしている	.15	.267	18	1	1.00	1.00	3.00	36	1	2.00	1.00	3.00	.33	.019	17	2	2.00	1.00	2.00
家の周りが片付いている	.14	.325	19	0	3.00	3.00	4.00	32	5	4.00	3.00	4.00	.10	.460	18	1	3.50	2.00	4.00
いろいろな行事を楽しむ例) 誕生日、正月、花見、七夕、月見、クリスマスなど	.18	.195	18	1	3.00	2.00	4.00	35	2	3.00	3.00	4.00	.04	.752	18	1	3.00	2.00	4.00
趣味やレクリエーションなどたのしい活動をする 例)	.03	.849	18	1	3.00	1.75	3.00	36	1	2.50	1.25	3.00	.19	.171	17	2	3.00	2.00	4.00
読書、音楽鑑賞、旅行など	.05	.733	19	0	3.00	2.00	4.00	37	0	3.00	2.00	4.00	.12	.377	18	1	2.50	2.00	3.00
軽い運動をする(散歩を含む)	.01	.930	19	0	3.00	3.00	4.00	34	3	3.00	2.00	4.00	.00	1.000	16	3	3.00	2.00	4.00
安全に外出し、帰宅できる	.02	.867	18	1	4.00	3.00	4.00	37	0	4.00	3.00	4.00	.06	.671	16	3	4.00	3.00	4.00
部屋になじみのものが置いてある	.20	.128	19	0	3.00	3.00	4.00	37	0	4.00	3.00	4.00	.01	.934	18	1	3.50	3.00	4.00
身だしなみを整える	.01	.970	19	0	3.00	2.00	4.00	36	1	3.00	2.25	4.00	.10	.484	16	3	3.00	2.00	4.00
テレビを見たり新聞を読んだりする	.05	.700	18	1	4.00	3.00	4.00	37	0	4.00	3.00	4.00	.05	.712	18	1	3.00	3.00	4.00
日中は適切で清潔な服に着替える	.29	.028	19	0	3.00	3.00	4.00	37	0	4.00	3.00	4.00	.18	.178	18	1	3.00	3.00	4.00
お風呂に入る	.28	.036	19	0	3.00	3.00	4.00	37	0	4.00	3.00	4.00	.06	.644	17	2	4.00	3.00	4.00
心地よい部屋で過ごす 例) 色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど	.07	.614	19	0	4.00	3.00	4.00	37	0	4.00	3.00	4.00	.02	.872	18	1	4.00	2.75	4.00
健康的な食事ができる	.06	.646	18	1	4.00	3.75	4.00	37	0	4.00	3.00	4.00	.15	.286	17	2	4.00	4.00	4.00
家の中に落ち着ける場所がある	.01	.948	19	0	4.00	3.00	4.00	35	2	4.00	3.00	4.00	.12	.374	18	1	3.00	3.00	4.00
食事をおいしい	.19	.161	19	0	3.00	2.00	4.00	36	1	4.00	3.00	4.00	.05	.704	17	2	3.00	2.50	4.00
夜ぐっすり眠れる	.00	.992	19	0	4.00	3.00	4.00	37	0	4.00	3.00	4.00	.03	.837	18	1	4.00	3.00	4.00
家族や親戚、親しい人たちのつながりが保たれている	.18	.178	19	0	3.00	3.00	4.00	37	0	4.00	3.00	4.00	.10	.457	18	1	4.00	3.00	4.00
話を聞いてくれる人がいる	.16	.255	19	0	4.00	3.00	4.00	35	2	4.00	4.00	4.00	.12	.380	18	1	4.00	3.00	4.00
トイレに行く	.25	.067	19	0	3.00	3.00	4.00	37	0	3.00	3.00	4.00	.03	.812	16	3	4.00	3.00	4.00
きれいで清潔な部屋で過ごす	.17	.204	18	1	3.00	3.00	4.00	37	0	4.00	3.00	4.00	.12	.388	17	2	4.00	3.00	4.00
物事に集中できる静かな環境がある																			

注) Mann-Whitney U test ; 「実現できている程度」に有意差あり (bonferroni補正 = 青色 ; p<.017 (= .05/3) p<.05)

表 1 6

生活状態項目を「認知症などの病気により自分の考えをうまく伝えることが難しくなっても表現したい程度」(Mann-Whitney U test) と性別の関連性 (Mann-Whitney U test)

本調査 (n=139)

生活状態項目	「実現したい程度」の評価者				ご家族				介護支援専門員								
	性別		認知症のご本人		男性		女性		男性		女性						
	r	p	n	中央値	四分位範囲	n	中央値	四分位範囲	n	中央値	四分位範囲	n	中央値	四分位範囲			
地域の一員として社会参加する例) 地域の掃除等	.02	.784	37	4	2.00	1.00	3.00	89	9	2.00	1.00	3.00	91	7	2.00	2.00	3.00
選挙に行くなどの政治活動を行う	.03	.765	39	2	2.00	1.00	3.00	88	10	2.00	1.00	3.00	92	6	2.00	1.00	3.00
買い物をする機会がある	.09	.303	38	3	2.00	1.00	3.00	98	0	2.00	2.00	3.00	97	1	3.00	2.00	3.00
家の外になじみの場所がある	.24	.008	38	3	2.00	1.00	3.00	89	9	3.00	2.00	4.00	94	4	3.00	2.00	3.25
自分で使えるお金をもっている	.06	.451	40	1	3.00	1.25	4.00	95	3	3.00	2.00	4.00	97	1	2.00	2.00	3.00
家族や周りの人の役に立つことをしている	.02	.820	39	2	3.00	2.00	3.00	90	8	3.00	2.00	3.00	93	5	3.00	2.00	3.00
家の周りが片付いている	.07	.799	39	2	3.00	2.00	4.00	94	4	3.00	2.00	4.00	98	0	3.00	3.00	4.00
いろいろな行事を楽しむ例) 誕生日、正月、花見、七夕、月見、クリスマスなど	.12	.173	39	2	3.00	2.00	4.00	98	0	3.00	2.75	4.00	98	0	3.00	3.00	4.00
趣味やレクリエーションなどたのしい活動をする例) 読書、音楽鑑賞、旅行など	.01	.946	38	3	3.00	2.00	4.00	98	0	3.00	2.75	4.00	98	0	3.00	3.00	4.00
軽い運動をする(散歩を含む)	.12	.171	40	1	3.00	3.00	4.00	95	3	3.00	2.00	4.00	98	0	3.00	3.00	4.00
安全に外出し、帰宅できる	.07	.427	39	2	4.00	3.00	4.00	94	4	3.00	3.00	4.00	97	1	3.00	3.00	4.00
部屋になじみのものが置いてある	.11	.189	40	1	3.50	3.00	4.00	97	1	3.00	3.00	4.00	97	1	3.00	3.00	4.00
身だしなみを整える	.13	.134	40	1	4.00	3.00	4.00	97	1	4.00	3.00	4.00	98	0	3.00	3.00	4.00
テレビを見たり新聞を読んだりする	.20	.018	40	1	4.00	3.00	4.00	96	2	3.00	3.00	4.00	98	0	3.00	3.00	4.00
日中は適切で清潔な服に着替える	.11	.184	40	1	3.00	3.00	4.00	96	2	4.00	3.00	4.00	97	1	3.00	3.00	4.00
お風呂に入る	.02	.802	40	1	4.00	3.00	4.00	98	0	3.50	3.00	4.00	98	0	4.00	3.00	4.00
心地よい部屋で過ごす例) 色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど	.12	.150	40	1	4.00	3.00	4.00	96	2	3.50	3.00	4.00	98	0	3.00	3.00	4.00
健康的な食事ができる	.02	.851	40	1	4.00	3.00	4.00	97	1	4.00	3.00	4.00	95	3	4.00	3.00	4.00
家の中に落ち着ける居場所がある	.09	.316	40	1	4.00	3.25	4.00	96	2	4.00	3.00	4.00	98	0	4.00	3.00	4.00
食事がおいしい	.16	.062	40	1	4.00	4.00	4.00	98	0	4.00	3.00	4.00	98	0	4.00	3.00	4.00
夜ぐっすり眠れる	.00	.983	39	2	4.00	3.00	4.00	98	0	4.00	3.00	4.00	97	1	4.00	3.25	4.00
家族や親戚、親しい人たちのつながりが保たれている	.01	.861	40	1	4.00	3.00	4.00	97	1	4.00	3.00	4.00	96	2	4.00	3.00	4.00
話を聞いてくれる人がいる	.04	.627	39	2	4.00	3.00	4.00	98	0	4.00	3.00	4.00	97	1	4.00	3.00	4.00
トイレに行く	.01	.885	40	1	4.00	4.00	4.00	98	0	4.00	4.00	4.00	96	2	4.00	4.00	4.00

注) Mann-Whitney U test: 「実現したい程度」に有意差あり (bonferroni補正 = 緑色; $p < 0.017 = 0.05/3$) $p < 0.05$

表 1 7

生活状態項目を「介護保険サービスやご家族等の支援をうけながら実現できている程度」及び「認知症などの病気により自分の考えをうまく伝えることが難しくなくなっても実現したい程度」と「要介護度」の関連性 (Spearman順位相関係数)
 予備調査 (n=58)、本調査 (n=139)

調査種類	予備調査												本調査															
	実現できている程度						実現したい程度						実現したい程度						実現したい程度									
	認知症のご本人		ご家族		介護支援専門員		認知症のご本人		ご家族		介護支援専門員		認知症のご本人		ご家族		介護支援専門員		認知症のご本人		ご家族		介護支援専門員					
生活状態項目	ρ	n	ρ	n	ρ	n	ρ	n	ρ	n	ρ	n	ρ	n	ρ	n	ρ	n	ρ	n	ρ	n	ρ	n				
地域の一人として社会参加する例) 地域の掃除等	-.27	.066	47	11	-.13	.411	44	14	-.13	.390	48	10	-.13	.356	53	5	.02	.907	54	4	.05	.578	130	9	-.06	.524	131	8
選挙に行くなどの政治活動を行う	-.05	.716	52	6	-.04	.777	53	5	.09	.537	47	11	-.10	.502	51	7	-.01	.937	52	6	-.06	.528	132	7	-.04	.651	127	12
買い物をする機会がある	-.36	.009	52	6	-.39	.003	53	5	-.23	.112	51	7	-.19	.164	55	3	-.26	.060	55	3	-.12	.363	136	1	-.03	.768	135	4
家の外になじみの場所がある	.03	.811	53	5	-.04	.771	53	5	.14	.328	53	5	-.20	.156	50	8	-.03	.811	54	4	-.06	.644	133	6	-.22	.009	136	3
自分で使えるお茶をもっている	-.32	.019	53	5	-.29	.031	54	4	-.08	.603	50	8	-.18	.185	54	4	-.17	.219	56	2	.08	.535	137	2	-.10	.250	134	5
家族や周りの人の役に立つことをしている	-.20	.137	55	3	-.15	.298	52	6	-.08	.567	53	5	-.15	.293	53	5	.02	.870	52	6	.01	.949	133	6	-.02	.818	133	6
家の周りが片付いている	-.11	.438	52	6	-.01	.984	55	3	-.17	.218	54	4	-.22	.109	53	5	.09	.488	55	3	-.11	.424	137	0	-.01	.887	134	5
いろいろな行事を楽しむ例) 誕生日、正月、花見、七夕、月見、クリスマスなど	-.07	.591	54	4	-.03	.830	56	2	.09	.506	56	2	-.08	.553	54	4	.06	.660	55	3	-.06	.686	137	2	.07	.396	139	0
趣味やレクリエーションなど楽しい活動をする例) 読書、音楽鑑賞、旅行など	.06	.645	55	3	.03	.804	54	4	.06	.658	55	3	-.11	.445	53	5	.05	.734	55	3	.11	.442	137	2	.02	.775	134	5
軽い運動をする(散歩を含む)	-.12	.385	57	1	-.01	.938	57	1	-.04	.761	55	3	-.08	.582	55	3	.09	.494	55	3	.10	.452	138	1	-.07	.438	135	4
安全に外出し、帰宅できる	-.20	.145	54	4	-.18	.203	54	4	-.15	.288	50	8	-.32	.020	53	5	-.19	.167	54	4	-.24	.081	137	2	-.16	.072	134	5
部屋になじみのものが置いてある	-.36	.007	56	2	-.16	.248	55	3	-.12	.407	54	4	-.34	.011	55	3	-.09	.522	55	3	-.28	.039	138	1	-.03	.750	134	5
身だしなみを整える	-.10	.446	57	1	-.05	.719	58	0	-.04	.778	56	2	-.15	.271	56	2	.08	.556	56	2	-.07	.628	139	0	-.06	.500	136	3
テレビを息たり新聞を読んだりする	.03	.842	56	2	-.05	.731	58	0	.03	.836	53	5	-.07	.625	55	3	-.02	.875	55	3	.05	.698	139	0	-.07	.408	132	7
日中は適切な清潔な服に着替える	.03	.852	56	2	-.14	.282	58	0	.09	.491	56	2	.02	.912	56	2	.06	.668	57	1	-.06	.654	139	0	.00	.990	136	3
お風呂に入る	-.10	.449	57	1	.03	.840	57	1	.02	.876	56	2	-.07	.600	56	2	.09	.504	57	1	-.06	.641	139	0	.04	.664	136	3
心地よい部屋で過ごす例) 色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど	-.22	.103	57	1	-.04	.743	58	0	-.23	.095	55	3	-.16	.227	56	2	-.01	.939	56	2	-.45	.001	137	2	-.03	.725	136	3
健康的な食事ができる	-.05	.695	57	1	-.04	.784	58	0	.04	.778	56	2	-.13	.326	56	2	.15	.263	57	1	-.04	.745	137	2	-.02	.837	136	3
家の中に落ち着ける居場所がある	-.11	.434	56	2	-.04	.743	57	1	.04	.787	55	3	-.11	.411	56	2	-.01	.931	56	2	-.26	.053	139	0	.06	.523	136	3
食事がおいしい	-.15	.289	55	3	.02	.892	57	1	.22	.101	55	3	-.32	.017	56	2	.06	.679	57	1	.10	.484	139	0	-.03	.729	136	3
夜ぐすり眠れる	-.37	.006	56	2	-.22	.088	58	0	-.13	.351	54	4	-.30	.026	56	2	-.12	.359	56	2	-.17	.198	137	2	-.15	.084	136	3
家族や親戚、親しい人たちのつながりが保たれている	-.10	.461	57	1	-.05	.696	57	1	-.03	.845	56	2	-.29	.030	55	3	-.07	.627	55	3	-.23	.095	137	2	-.03	.729	137	2
話を聞いてくれる人がいる	-.11	.427	57	1	-.01	.925	57	1	.09	.512	56	2	-.09	.496	54	4	-.21	.134	54	4	.01	.958	138	1	.08	.336	138	1
トイレに行く	-.19	.165	55	3	-.31	.017	58	0	-.28	.036	56	2	-.19	.164	55	3	-.30	.027	55	3	-.27	.046	137	2	.10	.230	137	2
きれいで清潔な部屋で過ごす	-.25	.057	57	1	-.16	.225	58	0	-.13	.347	54	4	-.27	.046	56	2	-.02	.871	57	1	-.41	.002	137	2	-.04	.646	136	3
物事に集中できる障りな環境がある	-.22	.102	56	2	-.04	.738	58	0	-.06	.656	55	3	-.31	.024	54	4	.00	.988	55	3	-.14	.316	137	2	.05	.555	136	3

注) Spearman順位相関係数 (bonferroni補正) 正の関連性 = 青色・p<.017=.05/3)

表 1 8

生活状態項目を「介護保険サービスやご家族等の支援をうけながら実現できている程度」及び「認知症などの病気により自分の考えをうまく伝えることが難しくなっても実現したい程度」と「認知症高齢者の日常生活自立度」の関連性 (Spearman順位相関係数) 予備調査 (n=58)、本調査 (n=139)

調査種類	予備調査						本調査																													
	実現できている程度			実現したい程度			認知症のご本人			ご家族			認知症のご本人			ご家族			介護支援専門員																	
	ρ	p	n	ρ	p	n	ρ	p	n	ρ	p	n	ρ	p	n	ρ	p	n	ρ	p	n	ρ	p	n												
生活状態項目																																				
生活状態項目																																				
地域の一人として社会参加する例) 地域の掃除	.09	.551	47	.11	.20	198	.44	.14	.03	.853	48	.10	.17	.216	53	.5	-.09	.528	53	.5	-.16	.288	54	.4	.15	.087	126	13	-.05	.547	130	.9	.04	.657	131	.8
選挙に行くなどの政治活動を行う	-.01	.969	52	.6	-.04	.788	53	.5	.00	.999	47	.11	.12	.389	51	.7	-.13	.337	53	.5	-.18	.214	52	.6	.10	.248	127	12	.02	.834	132	.7	-.07	.442	127	12
買い物をする機会がある	-.19	.183	52	.6	-.07	.633	53	.5	.00	.997	51	.7	.19	.171	55	.3	-.14	.321	55	.3	.09	.489	56	.2	.08	.363	136	3	-.05	.570	138	.1	.00	.961	135	.4
家の外になじみの場所がある	-.04	.780	53	.5	.13	.362	53	.5	.13	.364	53	.5	-.10	.472	50	.8	.10	.488	54	.4	-.02	.875	56	.2	-.11	.215	127	12	-.02	.798	133	.6	-.06	.465	136	.3
自分で使えるお金をもっている	-.39	.004	53	.5	-.20	.153	54	.4	-.31	.030	50	.8	.09	.534	54	.4	-.08	.555	56	.2	-.13	.328	56	.2	.00	.969	135	4	-.03	.712	137	.2	-.10	.247	134	.5
家族や周りの人の役に立つことをしている	-.05	.722	55	.3	-.04	.798	52	.6	-.03	.854	53	.5	.21	.128	53	.5	-.07	.628	52	.6	-.02	.865	55	.3	.12	.194	129	10	-.05	.569	133	.6	-.01	.891	133	.6
家の周りが片付いている	.19	.188	52	.6	.11	.406	55	.3	.17	.224	54	.4	-.06	.681	53	.5	.12	.378	55	.3	.14	.296	56	.2	.16	.069	133	.6	-.04	.648	139	.0	-.05	.600	134	.5
いろいろな行事を楽しむ例) 誕生日、正月、花見、七夕、月見、クリスマスなど	.01	.965	54	.4	.07	.632	56	.2	.11	.419	56	.2	.06	.655	54	.4	-.01	.960	55	.3	.14	.321	56	.2	.07	.436	137	.2	.02	.821	139	.0	-.11	.197	136	.3
趣味やレクリエーションなどたのしい活動をする例) 読書、音楽鑑賞、旅行など	.12	.369	55	.3	.21	.128	54	.4	.28	.039	55	.3	-.03	.842	53	.5	-.08	.551	55	.3	.07	.613	55	.3	.06	.455	136	3	-.08	.373	137	.2	-.10	.246	134	.5
軽い運動をする(散歩を含む)	.20	.134	57	.1	.38	.004	57	.1	.34	.012	55	.3	.24	.082	55	.3	-.11	.431	55	.3	-.19	.167	56	.2	-.01	.921	135	4	-.05	.591	138	.1	-.10	.235	135	.4
安全に外出し、帰宅できる	-.12	.370	54	.4	.01	.923	54	.4	-.01	.919	50	.8	-.10	.457	53	.5	-.11	.423	54	.4	.03	.811	56	.2	.13	.139	133	.6	-.01	.912	137	.2	.00	.996	134	.5
部屋になじみのものが置いてある	-.15	.280	56	.2	.17	.211	55	.3	-.09	.500	54	.4	-.15	.274	55	.3	.05	.728	55	.3	-.26	.053	55	.3	.08	.373	137	.2	-.03	.756	138	.1	-.10	.243	134	.5
身だしなみを整える	-.02	.905	57	.1	.09	.488	58	.0	.01	.936	56	.2	.10	.444	56	.2	.05	.691	56	.2	-.19	.153	56	.2	.02	.783	137	.2	-.02	.777	139	.0	-.04	.630	136	.3
テレビを見た新聞を読んだりする	-.12	.395	56	.2	-.14	.290	58	.0	-.05	.736	53	.5	-.16	.234	55	.3	-.11	.423	55	.3	.02	.886	55	.3	.02	.844	136	3	-.09	.300	139	.0	-.07	.403	132	.7
日中は適切で清潔な服に着替える	.05	.696	56	.2	.00	.991	58	.0	.10	.481	56	.2	.11	.441	56	.2	-.13	.338	57	.1	-.20	.140	56	.2	.05	.553	136	3	-.09	.293	138	.1	.00	.960	136	.3
お風呂に入る	-.13	.349	57	.1	.03	.846	57	.1	.24	.077	56	.2	.26	.054	56	.2	-.02	.888	57	.1	-.04	.774	56	.2	-.02	.838	138	.1	.05	.583	139	.0	-.01	.885	136	.3
心地よい部屋で過ごす例) 色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど	.00	.984	57	.1	.04	.773	58	.0	-.03	.819	55	.3	-.07	.602	56	.2	.15	.276	56	.2	-.14	.308	55	.3	.00	.982	136	3	-.14	.109	139	.0	-.05	.573	135	.4
健康的な食事ができる	.17	.216	57	.1	.16	.230	58	.0	.12	.369	56	.2	.03	.853	56	.2	.10	.452	57	.1	-.18	.181	56	.2	.00	.995	137	.2	.14	.114	136	.3	.04	.684	135	.4
家の中に落ち着ける居場所がある	-.07	.627	56	.2	.09	.515	57	.1	-.07	.629	55	.3	.00	.993	56	.2	.09	.521	56	.2	-.03	.840	55	.3	-.06	.524	136	3	-.11	.215	139	.0	-.02	.801	136	.3
食事がおいしい	.05	.698	55	.3	.16	.236	57	.1	.05	.743	55	.3	.12	.385	56	.2	.09	.495	57	.1	-.07	.626	55	.3	.09	.311	138	.1	-.03	.719	139	.0	-.01	.868	136	.3
夜ぐっすり眠れる	.07	.586	56	.2	.08	.541	58	.0	.01	.965	54	.4	-.11	.439	56	.2	.19	.170	56	.2	.05	.722	56	.2	-.12	.174	137	.2	-.08	.359	137	.2	-.10	.241	136	.3
家族や親戚、親しい人たちのつながりがある	.13	.336	57	.1	-.09	.498	57	.1	.17	.202	56	.2	-.01	.933	55	.3	.12	.383	55	.3	-.12	.391	55	.3	.01	.898	137	.2	-.07	.395	137	.2	-.07	.395	137	.2
話をしてくれる人がいる	-.02	.901	57	.1	.19	.160	57	.1	.24	.074	56	.2	.08	.573	54	.4	.07	.633	54	.4	.17	.203	56	.2	.07	.397	137	.2	-.07	.414	138	.1	-.10	.259	136	.3
トイレに行く	-.18	.199	55	.3	-.14	.305	58	.0	.03	.804	56	.2	.33	.014	55	.3	-.12	.389	55	.3	-.20	.141	56	.2	.08	.354	138	.1	-.13	.121	137	.2	-.07	.428	136	.3
きれいで清潔な部屋で過ごす	.01	.946	57	.1	.06	.643	58	.0	-.08	.554	54	.4	-.21	.118	56	.2	.14	.313	57	.1	-.19	.161	55	.3	-.01	.946	137	.2	-.07	.395	137	.2	-.07	.395	137	.2
物事に集中できる静かな環境がある	-.04	.798	56	.2	.06	.669	58	.0	-.14	.316	55	.3	-.15	.275	54	.4	.14	.323	55	.3	.12	.378	55	.3	-.01	.946	137	.2	-.07	.395	137	.2	-.07	.395	137	.2

注) Spearman順位相関係数 (bonferroni補正: 正の関連性 = 青色/負の関連性 = 黄色; p<.017=.05/3)

表 1 9

生活状態項目を「介護保険サービスやご家族等の支援をうけながら実現できている程度」及び「認知症などの病気により自分の考えをうまく伝えることが難しくなっても実現したい程度」の関連性 (Spearman順位相関係数) 予備調査 (n=58)、本調査 (n=139)

調査種類	予備調査												本調査											
	実現できている程度						実現したい程度						実現できている程度						実現したい程度					
	生活状態項目		ご家族		認知症の本人		介護支援専門員		ご家族		認知症の本人		介護支援専門員		ご家族		認知症の本人		介護支援専門員					
生活状態項目	ρ	p	n	次調	ρ	p	n	次調	ρ	p	n	次調	ρ	p	n	次調	ρ	p	n	次調				
地域の一人として社会参加する例) 地域の掃除等	-.26	.079	47	11	-.06	.690	44	14	-.12	.386	53	5	.10	.455	53	5	-.01	.899	130	9	-.06	.501	131	8
選挙に行くなどの政治活動を行う	-.22	.123	52	6	-.12	.404	53	5	-.05	.705	51	7	.09	.544	53	5	-.05	.536	132	7	-.08	.366	127	12
買い物をする機会がある	-.33	.016	52	6	-.22	.107	53	5	-.01	.957	55	3	-.02	.888	55	3	-.05	.583	138	1	-.16	.058	135	4
家の外になじみの場所がある	.04	.761	53	5	-.17	.233	53	5	-.16	.262	50	8	.03	.815	54	4	-.10	.275	133	6	-.11	.209	136	3
自分で使えるお金をもっている	-.36	.008	53	5	-.31	.025	54	4	-.15	.283	54	4	-.14	.300	56	2	-.12	.381	137	2	-.09	.284	134	5
家族や周りの人の役に立つことをしている	-.14	.321	55	3	-.24	.093	52	6	-.16	.262	53	5	-.07	.626	52	6	-.17	.211	135	3	-.10	.244	129	10
家の周りが片付いている	-.03	.847	52	6	.02	.862	55	3	.01	.951	53	5	.18	.189	55	3	.07	.588	136	2	-.12	.164	133	6
いろいろな行事を楽しむ例) 誕生日、正月、花見、七夕、月見、クリスマスなど	-.19	.163	54	4	-.08	.557	56	2	-.14	.298	54	4	.15	.264	55	3	.04	.775	139	0	.02	.861	137	2
趣味やレクリエーションなどたのしい活動をする 例) 読書、音楽鑑賞、旅行など	-.05	.704	55	3	-.07	.637	54	4	-.08	.583	53	5	.01	.922	55	3	.18	.182	137	2	-.02	.775	136	3
軽い運動をする(散歩を含む)	.04	.793	57	1	.13	.333	57	1	.03	.829	55	3	.23	.096	55	3	.21	.112	136	2	-.01	.923	135	4
安全に外出し、帰宅できる	-.10	.452	54	4	-.07	.596	54	4	.00	.999	50	8	-.04	.781	53	5	-.02	.906	137	2	-.15	.080	133	6
部屋になじみのあるものが置いてある	-.22	.100	56	2	-.01	.935	55	3	-.13	.334	54	4	.14	.309	55	3	-.16	.243	137	2	-.02	.808	137	2
身だしなみを整える	-.10	.456	57	1	.22	.104	58	0	.22	.111	56	2	.05	.740	56	2	.14	.314	136	3	-.07	.446	137	2
テレビを見たり新聞を読んだりする	-.08	.562	56	2	-.03	.833	58	0	.03	.823	53	5	.03	.854	55	3	.05	.701	139	0	-.08	.341	136	3
日中は週切で清潔な服に着替える	.16	.232	56	2	.12	.352	58	0	.14	.291	56	2	.06	.675	57	1	.11	.429	139	0	.00	.968	136	3
お風呂に入る	-.03	.842	57	1	-.07	.593	57	1	.01	.943	56	2	-.18	.180	56	2	-.02	.885	138	1	.00	.986	138	1
心地よい部屋で過ごす例) 色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど	-.23	.091	57	1	.03	.798	58	0	-.05	.710	55	3	-.17	.212	56	2	-.15	.262	139	0	.10	.237	136	3
健康的な食事ができる	-.02	.881	57	1	.06	.662	58	0	.22	.112	56	2	.07	.584	56	2	.11	.400	137	2	-.05	.591	137	2
家の中に落ち着ける居場所がある	-.14	.308	56	2	-.03	.844	57	1	.01	.970	55	3	-.04	.791	56	2	-.04	.768	139	0	-.05	.563	136	3
食事がおいしい	.11	.429	55	3	.11	.433	57	1	.34	.011	55	3	-.03	.803	56	2	.04	.746	137	2	-.20	.020	138	1
夜ぐっすり眠れる	-.25	.065	56	2	-.10	.439	58	0	-.17	.211	54	4	-.16	.230	56	2	.05	.694	137	2	.00	.968	137	2
家族や親戚、親しい人たちのつながりが保たれている	-.12	.374	57	1	-.03	.847	57	1	.03	.809	56	2	-.22	.111	55	3	-.07	.624	137	2	.09	.278	137	2
話を聞いてくれる人がいる	-.03	.826	57	1	.06	.663	57	1	.03	.809	56	2	-.09	.506	54	4	.01	.931	138	1	.02	.797	137	2
トイレに行く	-.19	.167	55	3	-.06	.638	58	0	-.05	.706	56	2	.02	.891	55	3	-.13	.356	138	1	.01	.921	138	1
きれいで清潔な部屋で過ごす	-.23	.079	57	1	.09	.496	58	0	-.01	.914	54	4	-.19	.172	56	2	.12	.370	137	2	-.05	.591	137	2
物事に集中できる静かな環境がある	-.20	.135	56	2	.02	.863	58	0	-.05	.700	55	3	-.13	.354	54	4	.06	.651	139	0	-.07	.433	136	3

注) Spearman順位相関係数 (bonferroni補正) 正の関連性 = 青色 / 負の関連性 = 黄色 ; p<0.17=.05/3)

表 2 0

生活状態項目を「認知症などの病気により自分の考えをうまく伝えることが難しくなっても表現したい程度」と「介護支援専門員が推測したご家族の介護負担感（精神的負担感：軽度～なし・中度以上）」の関連性（Mann-Whitney U test）予備調査（n=58）

生活状態項目	「表現したい程度」の評価者					「介護支援専門員が推測したご家族の介護負担感（精神的負担感：軽度～なし・中度以上）」の関連性 (Mann-Whitney U test)													
	ご家族の介護負担感（精神的）					介護支援専門員													
	認知症のご本人					ご家族													
	軽度～なし					軽度～なし					中度以上								
	r	p	n	中央値	四分位範囲	r	p	n	中央値	四分位範囲	r	p	n	中央値	四分位範囲				
地域の一人として社会参加する例) 地域の掃除等	.08	.586	19	1	2.00	1.00	3.00	33	4	2.00	1.50	3.00	.25	.068	18	2	3.00	2.00	3.00
運筆に行くなどの政治活動を行う	.13	.368	19	1	3.00	2.00	4.00	31	6	2.00	1.00	3.00	.11	.450	18	2	3.00	2.00	3.00
買い物をする機会がある	.28	.041	20	0	2.50	2.00	3.00	34	3	3.00	2.00	4.00	.04	.788	20	0	3.00	2.25	3.00
家の外になじみの場所がある	.04	.770	18	2	3.00	1.75	4.00	31	6	3.00	2.00	4.00	.05	.756	20	0	3.00	3.00	3.75
自分で使えるお金も持っている	.05	.709	20	0	3.00	2.00	3.50	33	4	3.00	2.00	3.00	.23	.084	20	0	3.00	2.00	3.00
家族や周りの人の役に立つことをしている	.05	.984	18	2	3.00	2.00	3.00	34	3	3.00	2.00	3.00	.76	.445	20	0	3.00	3.00	3.00
家の周りが片付いている	.30	.032	18	2	3.00	2.75	3.00	34	3	3.00	3.00	4.00	.02	.882	20	0	3.00	3.00	3.00
いろいろなお行事を楽しむ例) 誕生日、正月、花見、七夕、月見、クリスマスなど	.01	.922	20	0	3.00	3.00	4.00	33	4	3.00	2.50	4.00	.03	.803	20	0	3.00	3.00	4.00
趣味やレクリエーションなど楽しい活動をする例)																			
読書、音楽鑑賞、旅行など	.16	.252	19	1	3.00	2.00	3.00	33	4	3.00	2.50	3.00	.04	.767	19	1	3.00	3.00	4.00
軽い運動をする(散歩を含む)	.10	.448	20	0	3.00	3.00	4.00	34	3	3.00	3.00	4.00	.20	.148	20	0	3.00	3.00	3.00
安全に外出し、帰宅できる	.15	.283	20	0	3.00	2.25	4.00	32	5	3.50	3.00	4.00	.08	.563	20	0	3.00	3.00	4.00
部屋になじみのものが置いてある	.07	.612	20	0	3.00	3.00	4.00	34	3	3.00	3.00	4.00	.05	.733	20	0	4.00	3.00	4.00
身だしなみを整える	.03	.841	20	0	3.50	3.00	4.00	35	2	4.00	3.00	4.00	.22	.101	20	0	4.00	3.00	4.00
テレビを見たり新聞を読んだりする	.05	.693	19	1	3.00	2.00	4.00	35	2	3.00	2.00	4.00	.21	.119	20	0	3.00	3.00	3.00
日中は適切で清潔な服に着替える	.22	.108	20	0	3.00	3.00	4.00	35	2	4.00	3.00	4.00	.12	.360	20	0	4.00	3.00	4.00
お風呂に入る	.23	.092	20	0	3.00	3.00	4.00	35	2	4.00	3.00	4.00	.05	.704	20	0	4.00	3.00	4.00
心地よい部屋で過ごす例) 色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど	.01	.921	20	0	3.50	3.00	4.00	35	2	4.00	3.00	4.00	.07	.584	20	0	4.00	3.00	4.00
健康的な食事ができる	.05	.716	20	0	4.00	3.00	4.00	35	2	4.00	3.00	4.00	.09	.523	20	0	4.00	4.00	4.00
家の中に落ち着ける居場所がある	.23	.089	20	0	3.00	3.00	4.00	35	2	4.00	3.00	4.00	.01	.950	20	0	4.00	3.25	4.00
食事がおいしい	.16	.224	20	0	4.00	3.00	4.00	35	2	4.00	4.00	4.00	.05	.739	20	0	4.00	3.25	4.00
夜ぐっすり眠れる	.18	.182	20	0	4.00	3.00	4.00	35	2	4.00	4.00	4.00	.04	.758	20	0	4.00	4.00	4.00
家族や親戚、親しい人たちがりがりが保たれている	.24	.076	20	0	4.00	4.00	4.00	34	3	4.00	3.00	4.00	.17	.215	20	0	4.00	4.00	4.00
話を聞いてくれる人がいる	.21	.128	20	0	4.00	3.25	4.00	33	4	4.00	3.00	4.00	.01	.960	20	0	4.00	4.00	4.00
トイレに行く	.02	.873	20	0	4.00	4.00	4.00	34	3	4.00	4.00	4.00	.06	.669	20	0	4.00	4.00	4.00
きれいで清潔な部屋で過ごす	.03	.818	20	0	4.00	3.00	4.00	35	2	4.00	3.00	4.00	.19	.167	20	0	4.00	3.00	4.00
物事に集中できる静かな環境がある	.11	.395	20	0	3.00	3.00	4.00	33	4	4.00	3.00	4.00	.04	.772	20	0	3.50	3.00	4.00

注) Mann-Whitney U test ; 「表現したい程度」に有意差あり (bonferroni補正 = 橙色 ; p<.017= .05/3) p<.05)

表 2 1

生活状態項目を「介護保険サービスやご家族等の支援をうけながら実現できている程度」と「介護支援専門員が推測したご家族の介護負担感（精神的負担感：軽度～なし・中度以上）」の関連性（Mann-Whitney U test）予備調査（n=58）

	認知症のご本人				ご家族				介護支援専門員								
	軽度～なし				中度以上				軽度～なし				中度以上				
	r	p	n	中央値	欠損値	n	中央値	欠損値	r	p	n	中央値	欠損値	n	中央値	欠損値	
生活状態項目																	
地域の一人として社会参加する(例)地域の掃除等	.21	.694	15	5	2.00	1.00	2.00	31	6	1.00	1.00	2.00	16	4	1.00	1.00	2.00
選挙に行くなどの政治活動を行う	.32	.020	20	4	2.50	1.00	4.00	31	6	1.00	1.00	3.00	16	4	4.00	1.00	4.00
買い物をする機会がある	.02	.899	16	4	2.50	1.00	4.00	19	1	2.00	1.00	4.00	18	2	1.50	1.00	3.00
家の外になじみの場所がある	.02	.882	19	1	3.00	2.00	4.00	33	4	3.00	2.00	3.00	17	3	3.00	2.50	4.00
自分で使えるお金をもっている	.22	.107	17	3	3.00	2.00	4.00	35	2	2.00	1.00	4.00	18	2	2.50	1.00	4.00
家族や周りの人の役に立つことをしている	.03	.856	19	1	2.00	1.00	3.00	35	2	2.00	1.00	3.00	19	1	2.00	2.00	3.00
家の周りが片付いている	.18	.208	18	2	3.00	3.00	4.00	33	4	4.00	3.00	4.00	18	2	3.00	3.00	4.00
いろいろな行事を楽しむ(例)誕生日、正月、花見、七夕、月見、クリスマスなど	.03	.826	19	1	3.00	2.00	4.00	35	2	3.00	2.00	4.00	20	0	3.00	2.00	4.00
趣味やレクリエーションなどたのしい活動をする(例)読書、音楽鑑賞、旅行など	.02	.880	19	1	3.00	2.00	3.00	35	2	3.00	2.00	3.00	19	1	3.00	2.00	4.00
軽い運動をする(散歩を含む)	.04	.783	20	0	3.00	2.00	3.75	36	1	3.00	2.00	4.00	19	1	3.00	2.00	3.00
安全に外出し、帰宅できる	.16	.242	19	1	3.00	1.00	4.00	35	2	3.00	3.00	4.00	18	2	3.00	1.00	4.00
部屋になじみのものが置いてある	.12	.386	19	1	4.00	3.00	4.00	36	1	4.00	3.00	4.00	19	1	4.00	3.00	4.00
身だしなみを整える	.13	.347	20	0	3.00	3.00	4.00	36	1	4.00	3.00	4.00	20	0	3.50	3.00	4.00
テレビを見たり新聞を読んだりする	.04	.789	19	1	4.00	2.00	4.00	36	1	3.00	2.25	4.00	18	2	3.50	2.00	4.00
日中は適切で清潔な服に着替える	.10	.478	19	1	4.00	3.00	4.00	36	1	4.00	3.00	4.00	20	0	3.00	3.00	4.00
お風呂に入る	.07	.624	20	0	3.50	3.00	4.00	36	1	4.00	3.00	4.00	20	0	3.50	3.00	4.00
心地よい部屋で過ごす(例)色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど	.03	.836	20	0	4.00	3.00	4.00	36	1	4.00	3.00	4.00	20	0	4.00	3.00	4.00
健康的な食事ができる	.13	.319	20	0	4.00	3.00	4.00	36	1	4.00	3.00	4.00	20	0	3.00	3.00	4.00
家の中に落ち着ける居場所がある	.15	.262	20	0	4.00	4.00	4.00	35	2	4.00	3.00	4.00	20	0	4.00	4.00	4.00
食事がおいしい	.05	.702	20	0	4.00	3.00	4.00	35	2	4.00	3.00	4.00	20	0	4.00	4.00	4.00
夜ぐっすり眠れる	.28	.035	20	0	4.00	3.00	4.00	36	1	3.00	2.00	4.00	20	0	3.50	4.00	4.00
家族や親戚、親しい人たちのつながりが保たれている	.28	.038	20	0	4.00	4.00	4.00	36	1	4.00	3.00	4.00	20	0	4.00	4.00	4.00
話を聞いてくれる人がいる	.18	.168	20	0	4.00	3.00	4.00	36	1	3.50	3.00	4.00	20	0	4.00	4.00	4.00
トイレに行く	.16	.238	19	1	4.00	4.00	4.00	35	2	4.00	4.00	4.00	20	0	4.00	4.00	4.00
きれいで清潔な部屋で過ごす	.09	.505	20	0	3.00	3.00	4.00	36	1	4.00	3.00	4.00	20	0	3.00	3.00	4.00
物事に集中できる静かな環境がある	.21	.128	20	0	4.00	3.00	4.00	35	2	4.00	3.00	4.00	20	0	4.00	4.00	4.00

法) Mann-Whitney U test; 「実現できている程度」に有意差あり (bonferroni補正 = 青色; p<.05/3), p<.05)

表 2 2

生活状態項目を「認知症などの病気により自分の考えをうまく伝えることが難しくなっても表現したい程度」と「介護支援専門員が推測したご家族の介護負担感（精神的負担感：軽度～なし・中度以上）」の関連性（Mann-Whitney U test）本調査（n=139）

生活状態項目	認知症の本人					ご家族					介護支援専門員												
	軽度～なし					中度以上					軽度～なし					中度以上							
	r	ρ	n	中央値	四分位範囲	r	ρ	n	中央値	四分位範囲	r	ρ	n	中央値	四分位範囲	r	ρ	n	中央値	四分位範囲			
地域の一角として社会参加する例) 地域の掃除等	.05	.558	30	0	2.00 1.00 3.00	96	13	2.00	1.00 3.00	.07	.455	29	1	2.00	1.00 3.00	.14	.115	30	0	3.00 2.00 3.00			
選挙に行くなどの政治活動を行う	.04	.640	29	1	2.00 1.00 3.00	98	11	2.00	1.00 3.00	.08	.338	29	1	2.00	1.00 3.00	.01	.918	30	0	3.00 2.00 3.25			
買い物をする機会がある	.06	.491	30	0	2.00 1.75 3.00	106	3	2.00	2.00 3.00	.08	.357	29	1	3.00	2.00 4.00	.13	.125	30	0	3.00 2.75 4.00			
家の外になじみの場所がある	.05	.559	28	2	3.00 2.00 3.00	99	10	3.00	2.00 4.00	.06	.475	30	0	3.00 2.00 3.00	107	2	2.00	2.00 3.00	.04	.620	30	0	3.00 2.75 4.00
自分で使えるお盆をもっている	.10	.269	29	1	3.00 2.00 3.00	106	3	3.00	2.00 4.00	.04	.615	29	1	3.00	2.00 3.00	.05	.602	29	1	3.00 2.00 4.00			
家族や周りの人の役に立つことをしている	.15	.100	27	3	3.00 2.00 3.00	102	7	3.00	2.00 3.00	.00	.984	30	0	3.00 3.00 4.00	109	0	3.00	3.00 4.00	.02	.815	30	0	4.00 3.00 4.00
家の周りが片付いている	.20	.021	29	1	3.00 2.00 3.00	104	5	3.00	2.25 4.00	.03	.699	30	0	3.00 3.00 4.00	107	2	3.00	3.00 4.00	.08	.336	30	0	3.00 3.00 4.00
いろいろな行事を楽しむ(例) 誕生日、正月、花見、七夕、月見、クリスマスなど	.11	.215	30	0	3.00 2.00 4.00	107	2	3.00	2.00 4.00	.09	.277	29	1	3.00	2.50 4.00	.12	.157	30	0	3.50 3.00 4.00			
趣味やレクリエーションなどたのしい活動をする(例) 読書、音楽鑑賞、旅行など	.02	.792	30	0	3.00 2.00 4.00	106	3	3.00	2.00 4.00	.17	.040	30	0	3.00 2.75 4.00	108	1	3.00	3.00 4.00	.11	.182	30	0	4.00 3.00 4.00
軽い運動をする(散歩を含む)	.06	.519	29	1	3.00 2.50 3.50	106	3	3.00	3.00 4.00	.04	.657	30	0	3.00 3.00 4.00	109	0	4.00	3.00 4.00	.03	.699	29	1	3.00 3.00 4.00
安全に外出し、帰宅できる	.09	.293	29	1	3.00 3.00 4.00	104	5	4.00	3.00 4.00	.01	.921	30	0	3.00 3.00 4.00	109	0	3.00	3.00 4.00	.05	.587	30	0	3.00 3.00 4.00
部屋になじみのものが置いてある	.17	.040	30	0	3.00 2.00 4.00	107	2	3.00	3.00 4.00	.03	.749	30	0	3.50 3.00 4.00	108	1	4.00	3.00 4.00	.04	.643	30	0	4.00 3.00 4.00
身だしなみを整える	.08	.363	30	0	3.00 3.00 4.00	107	2	4.00	3.00 4.00	.02	.846	30	0	4.00 3.00 4.00	109	0	4.00	3.00 4.00	.08	.353	30	0	4.00 3.00 4.00
テレビを見たり新聞を読んだりする	.07	.428	30	0	3.00 3.00 4.00	106	3	3.00	3.00 4.00	.01	.947	30	0	3.50 3.00 4.00	109	0	4.00	3.00 4.00	.07	.405	30	0	4.00 3.00 4.00
日中は適切で清潔な服に着替える	.10	.239	29	1	3.00 3.00 4.00	107	2	4.00	3.00 4.00	.12	.177	28	2	4.00	3.00 4.00	.12	.151	30	0	4.00 3.00 4.00			
お風呂に入る	.08	.335	30	0	3.00 3.00 4.00	108	1	4.00	3.00 4.00	.01	.885	30	0	4.00 3.00 4.00	109	0	4.00	3.00 4.00	.02	.804	30	0	4.00 4.00 4.00
心地よい部屋で過ごす(例) 色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど	.04	.646	30	0	3.50 3.00 4.00	106	3	4.00	3.00 4.00	.00	.967	29	1	4.00 3.00 4.00	108	1	4.00	3.00 4.00	.12	.163	30	0	4.00 4.00 4.00
健康的な食事ができる	.07	.407	29	1	4.00 3.00 4.00	108	1	4.00	3.00 4.00	.03	.709	29	1	4.00 3.00 4.00	108	1	4.00	3.00 4.00	.04	.645	30	0	4.00 4.00 4.00
家の中に落ち着ける居場所がある	.05	.589	29	1	4.00 3.00 4.00	107	2	4.00	3.00 4.00	.05	.579	30	0	4.00 3.00 4.00	108	1	4.00	3.00 4.00	.05	.544	30	0	4.00 3.75 4.00
食事がおいしい	.05	.589	30	0	4.00 3.00 4.00	108	1	4.00	3.00 4.00	.03	.709	29	1	4.00 3.00 4.00	108	1	4.00	3.00 4.00	.05	.544	30	0	4.00 3.75 4.00
夜ぐっすり眠れる	.01	.953	30	0	4.00 3.00 4.00	107	2	4.00	3.00 4.00	.03	.709	29	1	4.00 3.00 4.00	108	1	4.00	3.00 4.00	.05	.544	30	0	4.00 3.75 4.00
家族や親戚、親しい人たちとのつながりが保たれている	.07	.405	30	0	4.00 3.00 4.00	107	2	4.00	3.00 4.00	.05	.579	30	0	4.00 3.00 4.00	108	1	4.00	3.00 4.00	.05	.544	30	0	4.00 3.75 4.00
話を聞いてくれる人がいる	.04	.651	30	0	4.00 3.00 4.00	107	2	4.00	3.00 4.00	.00	.984	28	2	4.00	4.00 4.00	.05	.544	30	0	4.00 3.75 4.00			
トイレに行く	.05	.530	30	0	4.00 3.75 4.00	108	1	4.00	4.00 4.00														

注) Mann-Whitney U test : 「表現したい程度」に有意差あり (bonferroni補正 = 橙色 : p<.017=.05/3) p<.05)

表 2 3

生活状態項目を「認知症などの病気により自分の考えをうまく伝えることが難しくなっても実現したい程度」と「介護支援専門員が推測したご家族の介護負担感（身体的負担感・軽度～なし・中度以上）」の関連性（Mann-Whitney U test）予備調査（n=58）

	「実現したい程度」の評価者				ご家族				介護支援専門員							
	認知症のご本人				ご家族				介護支援専門員							
	軽度～なし				中度以上				軽度～なし				中度以上			
生活状態項目	r	ρ	n	次編	中央値	四分位範囲	n	次編	中央値	四分位範囲	r	ρ	n	次編	中央値	四分位範囲
地域の一員として社会参加する(例)地域の掃除等	.07	.606	31	3	2.00	1.00 3.00	21	2	2.00	1.00 3.00	.01	.944	32	2	3.00	2.00 3.00
遠慮に行くなどの政治活動を行う	.16	.259	32	2	2.50	2.00 3.75	18	5	2.00	1.00 3.00	.07	.624	32	2	3.00	2.00 3.00
買い物をする機会がある	.22	.108	33	1	3.00	2.00 4.00	21	2	3.00	2.00 3.00	.07	.611	33	1	3.00	3.00 3.00
家の外になじみの場所がある	.21	.146	30	4	3.00	2.00 4.00	19	4	3.00	2.00 3.00	.16	.226	33	1	3.00	3.00 4.00
自分で使えるお金もっている	.05	.724	33	1	3.00	2.00 4.00	20	3	3.00	3.00 3.75	.16	.244	33	1	3.00	3.00 4.00
家族や周りの人の役に立つことをしている	.01	.959	33	1	3.00	2.00 3.00	19	4	3.00	2.00 3.00	.04	.769	33	1	3.00	3.00 3.00
家の周りが片付いている	.11	.444	31	3	3.00	3.00 4.00	21	2	3.00	3.00 3.50	.12	.387	33	1	3.00	3.00 4.00
いろいろな行事を楽しむ(例)誕生日、正月、花見、七夕、月見、クリスマスなど	.10	.456	34	0	3.00	2.75 4.00	19	4	3.00	3.00 3.00	.03	.804	33	1	3.00	3.00 4.00
趣味やレクリエーションなどたのしい活動をする(例)読書、音楽鑑賞、旅行など	.06	.678	32	2	3.00	2.00 3.75	20	3	3.00	2.00 3.00	.09	.490	32	2	3.00	3.00 4.00
軽い運動をする(散歩を含む)	.29	.034	34	0	3.00	3.00 4.00	20	3	3.00	2.25 3.00	.26	.055	33	1	3.00	3.00 3.00
安全に外出し、帰宅できる	.06	.645	33	1	3.00	3.00 4.00	19	4	3.00	3.00 4.00	.03	.823	33	1	4.00	3.00 4.00
部屋になじみのものが置いてある	.26	.053	33	1	4.00	3.00 4.00	21	2	3.00	3.00 4.00	.01	.923	33	1	4.00	3.00 4.00
身だしなみを整える	.10	.462	34	0	4.00	3.00 4.00	21	2	3.00	3.00 4.00	.04	.741	33	1	4.00	3.00 4.00
テレビを見たり新聞を読んだりする	.04	.748	33	1	3.00	2.50 4.00	21	2	3.00	2.00 4.00	.02	.862	33	1	3.00	3.00 3.50
日中は適切で清潔な服に着替える	.17	.211	34	0	3.00	3.00 4.00	21	2	4.00	3.00 4.00	.12	.359	33	1	4.00	3.00 4.00
お風呂に入る	.05	.701	34	0	4.00	3.00 4.00	21	2	4.00	3.00 4.00	.02	.898	33	1	4.00	3.50 4.00
心地よい部屋で過ごす(例)色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど	.33	.014	34	0	4.00	3.00 4.00	21	2	3.00	3.00 4.00	.03	.802	33	1	4.00	3.00 4.00
健康的な食事ができる	.00	.992	34	0	4.00	3.00 4.00	21	2	4.00	3.00 4.00	.11	.428	33	1	4.00	4.00 4.00
家の中に落ち着ける居場所がある	.05	.736	34	0	4.00	3.00 4.00	21	2	4.00	3.00 4.00	.05	.726	33	1	4.00	3.50 4.00
食事がおいしい	.06	.679	34	0	4.00	3.75 4.00	21	2	4.00	3.00 4.00	.06	.682	33	1	4.00	4.00 4.00
夜ぐっすり眠れる	.15	.252	34	0	4.00	3.75 4.00	21	2	4.00	3.00 4.00	.29	.030	33	1	4.00	4.00 4.00
家族や親戚、親しい人たちのつながりが保たれている	.32	.021	34	0	4.00	3.75 4.00	20	3	4.00	3.00 4.00	.05	.711	33	1	4.00	4.00 4.00
話を聞いてくれる人がいる	.13	.339	33	1	4.00	3.00 4.00	20	3	4.00	3.00 4.00	.02	.895	33	1	4.00	4.00 4.00
トイレに行く	.10	.469	33	1	4.00	3.00 4.00	21	2	4.00	3.50 4.00	.06	.682	33	1	4.00	4.00 4.00
きれいで清潔な部屋で過ごす	.36	.008	34	0	4.00	3.00 4.00	21	2	3.00	3.00 4.00	.10	.484	33	1	4.00	3.00 4.00
物事に集中できる静かな環境がある	.04	.775	34	0	4.00	3.00 4.00	19	4	4.00	3.00 4.00	.07	.623	33	1	3.00	3.00 4.00

注) Mann-Whitney U test : 「実現したい程度」に有意差あり (bonferroni補正 = 検色 ; p<.017=.05/3) p<.05)

表 2 4

生活状態項目を「介護保険サービスやご家族等の支援をうけながら実現できている程度」と「介護支援専門員が推測したご家族の介護負担感（身体的負担感：軽度～なし・中度以上）」の関連性（Mann-Whitney U test）予備調査（n=58）

	「実現できている程度」の評価者			ご家族の介護負担感（身体的）			ご家族			介護支援専門員						
	認知症のご本人			軽度～なし			軽度～なし			軽度～なし						
	r	p	中央値 n	中央値 n	中央値 n	中央値 n	中央値 n	中央値 n	中央値 n	中央値 n	中央値 n	中央値 n				
生活状態項目																
地域の一員として社会参加する例) 地域の掃除等	.05	.743	28 6	1 000	1 000	2 000	18 5	1 000	1 000	1 25	.02	.905	26 8	1 000	1 000	2 000
選挙に行くなどの政治活動を行う	.15	.271	33 1	2 000	1 000	3 000	18 5	2 000	1 000	4 000	.24	.108	27 7	2 000	1 000	4 000
買い物をする機会がある	.19	.167	30 4	3 000	1 000	4 000	21 2	2 000	1 000	3 000	.08	.589	30 4	2 000	1 000	3 000
家の外になじみの場所がある	.02	.891	32 2	3 000	2 000	4 000	20 3	3 000	2 000	3 000	.05	.717	31 3	3 000	2 000	4 000
自分で使えるお釜を持っている	.24	.080	32 2	3 000	2 000	4 000	20 3	2 000	1 000	3 000	.11	.443	30 4	2 000	1 000	4 000
家族や周りの人の役に立っている	.27	.044	33 1	2 000	1 000	3 000	21 2	1 000	1 000	2 500	.22	.108	31 3	2 000	2 000	3 000
家の周りが片付いている	.21	.136	30 4	4 000	3 000	4 000	21 2	3 000	3 000	4 000	.16	.248	31 3	4 000	3 000	4 000
いろいろな行事を楽しむ例) 誕生日、正月、花見、七夕、月見、クリスマスなど	.22	.114	33 1	3 000	2 500	4 000	21 2	3 000	2 000	3 500	.18	.182	33 1	3 000	3 000	4 000
趣味やレクリエーションなどたのしい活動をする例) 読書、音楽鑑賞、旅行など	.35	.011	33 1	3 000	2 000	3 500	21 2	2 000	1 000	3 000	.26	.052	32 2	3 000	2 000	4 000
軽い運動をする(散歩を含む)	.29	.030	34 0	3 000	2 000	4 000	22 1	2 500	1 000	3 000	.24	.078	33 1	3 000	2 000	4 000
安全に外出し、帰宅できる	.03	.829	33 1	3 000	3 000	4 000	21 2	3 000	2 000	4 000	.24	.092	29 5	3 000	3 000	4 000
部屋になじみのものが置いてある	.07	.624	34 0	4 000	3 000	4 000	21 2	4 000	3 250	4 000	.04	.767	33 1	4 000	3 000	4 000
身だしなみを整える	.09	.493	34 0	4 000	3 000	4 000	22 1	3 500	3 000	4 000	.06	.640	33 1	4 000	3 000	4 000
テレビを見たり新聞を読んだりする	.17	.222	33 1	4 000	3 000	4 000	22 1	3 000	2 000	4 000	.18	.195	31 3	3 000	2 000	4 000
日中は適切で清潔な服に着替える	.04	.798	33 1	4 000	3 000	4 000	22 1	4 000	3 000	4 000	.07	.604	33 1	3 000	3 000	4 000
お風呂に入る	.03	.803	34 0	4 000	3 000	4 000	22 1	4 000	3 000	4 000	.26	.051	33 1	4 000	3 000	4 000
心地よい部屋で過ごす例) 色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど	.34	.011	34 0	4 000	3 000	4 000	22 1	3 000	3 000	4 000	.03	.809	33 1	4 000	3 000	4 000
健康的な食事ができる	.16	.237	34 0	4 000	3 000	4 000	22 1	3 500	3 000	4 000	.15	.267	33 1	4 000	3 000	4 000
家の中に落ち着ける居場所がある	.10	.474	33 1	4 000	3 500	4 000	22 1	4 000	3 000	4 000	.07	.610	33 1	4 000	3 000	4 000
食事がおいしい	.14	.302	33 1	4 000	3 000	4 000	22 1	4 000	3 000	4 000	.21	.129	33 1	4 000	3 000	4 000
夜ぐっすり眠れる	.35	.009	34 0	4 000	3 000	4 000	22 1	3 000	3 000	3 000	.33	.017	32 2	4 000	3 000	4 000
家族や親戚、親しい人たちのつながりが保たれている	.08	.571	34 0	4 000	3 000	4 000	22 1	4 000	3 000	4 000	.07	.605	33 1	4 000	3 000	4 000
話を聞かせる人がいる	.05	.691	34 0	4 000	3 000	4 000	22 1	4 000	3 000	4 000	.13	.344	33 1	4 000	3 000	4 000
トイレに行く	.28	.041	32 2	4 000	4 000	4 000	22 1	4 000	3 000	4 000	.27	.009	33 1	4 000	4 000	4 000
きれいで清潔な部屋で過ごす	.36	.007	34 0	4 000	3 000	4 000	22 1	3 000	3 000	4 000	.09	.502	33 1	4 000	3 000	4 000
物事に集中できる静かな環境がある	.14	.293	34 0	4 000	3 000	4 000	21 2	4 000	3 000	4 000	.01	.917	33 1	4 000	3 000	4 000

(注) Mann-Whitney U test; 「実現できている程度」に有意差あり (bonferrom補正 = 橙色; p<.017=.05/3) p<.05)

表 2.5

生活状態項目を「認知症などの病気により自分の考えをうまく伝えることが難しくなることも実現したい程度」と「介護支援専門員が推測したご家族の介護負担感（身体的負担感：軽度～なし・中度以上）」の関連性（Mann-Whitney U test）
本調査（n=139）

生活状態項目	「実現したい程度」の評価者				ご家族の介護負担感（身体的）				介護支援専門員			
	r	p	n	四分位範囲	r	p	n	四分位範囲	r	p	n	四分位範囲
地域の一員として社会参加する例) 地域の掃除等	.06	0.48	74	5 2.00 1.00 3.00	.06	0.50	76	3 2.00 2.00 3.00	.08	0.38	76	3 3.00 2.00 3.00
選挙に行くなどの政治活動を行う	.01	0.91	76	3 2.00 1.00 3.00	.04	0.61	75	4 2.00 1.00 3.00	.06	0.49	74	5 2.00 2.00 3.00
買い物をする機会がある	.08	0.37	78	1 3.00 2.00 3.00	.21	0.02	78	1 3.00 2.00 3.00	.00	0.98	78	1 3.00 2.00 3.00
家の外になじみの場所がある	.10	0.26	72	7 3.00 2.00 4.00	.06	0.52	77	2 3.00 2.00 4.00	.03	0.73	78	1 3.00 3.00 4.00
自分で使えるお金をもっている	.03	0.77	77	2 3.00 2.00 4.00	.04	0.62	79	0 2.00 2.00 3.00	.06	0.46	78	1 3.00 2.00 3.00
家族や周りの人の役に立つことをしている	.03	0.76	74	5 3.00 2.00 3.00	.15	0.10	78	1 3.00 2.00 3.00	.05	0.57	77	2 3.00 3.00 4.00
家の周りが片付いている	.01	0.94	76	3 3.00 2.00 3.75	.01	0.90	79	0 3.00 3.00 4.00	.01	0.93	77	2 3.00 3.00 4.00
いろいろな行事を楽しむ 例) 誕生日、正月、花見、七夕、月見、クリスマスなど	.03	0.69	79	0 3.00 2.00 4.00	.03	0.72	79	0 3.00 3.00 4.00	.06	0.46	78	1 3.00 3.00 4.00
趣味やレクリエーションなどたのしい活動をする 例)												
読書、音楽鑑賞、旅行など	.06	0.50	79	0 3.00 2.00 4.00	.07	0.42	78	1 3.00 3.00 4.00	.06	0.49	77	2 4.00 3.00 4.00
軽い運動をする(散歩を含む)	.04	0.64	77	2 3.00 3.00 4.00	.11	0.22	79	0 3.00 3.00 4.00	.16	0.07	77	2 4.00 3.00 4.00
安全に外出し、帰宅できる	.02	0.86	76	3 3.50 3.00 4.00	.01	0.88	78	1 4.00 3.00 4.00	.01	0.87	77	2 4.00 3.00 4.00
部屋になじみのものが置いてある	.19	0.03	78	1 3.00 3.00 4.00	.06	0.46	78	1 3.00 3.00 4.00	.03	0.76	76	3 4.00 3.00 4.00
身だしなみを整える	.02	0.84	79	0 3.00 3.00 4.00	.03	0.77	79	0 4.00 3.00 4.00	.03	0.77	78	1 4.00 3.00 4.00
テレビを見たリ新聞を読んだりする	.03	0.71	79	0 3.00 3.00 4.00	.20	0.02	79	0 3.00 3.00 4.00	.01	0.90	76	3 3.00 3.00 4.00
日中は適切な清潔な服に着替える	.04	0.67	78	1 3.00 3.00 4.00	.06	0.50	79	0 4.00 3.00 4.00	.07	0.42	78	1 3.00 3.00 4.00
お風呂に入る	.03	0.75	79	0 4.00 3.00 4.00	.02	0.79	79	0 4.00 3.00 4.00	.03	0.73	78	1 4.00 3.00 4.00
心地よい部屋で過ごす 例) 色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど	.01	0.91	78	1 4.00 3.00 4.00	.01	0.93	79	0 4.00 3.00 4.00	.08	0.33	77	2 4.00 3.00 4.00
健康的な食事ができる	.00	0.97	78	1 4.00 3.00 4.00	.02	0.81	77	2 4.00 3.00 4.00	.01	0.96	77	2 4.00 3.00 4.00
食卓に落ち着ける居場所がある	.09	0.30	77	2 4.00 3.00 4.00	.04	0.65	79	0 4.00 3.00 4.00	.11	0.21	78	1 4.00 4.00 4.00
食事がおいしい	.05	0.58	79	0 4.00 3.00 4.00	.01	0.95	79	0 4.00 3.00 4.00	.03	0.69	78	1 4.00 3.00 4.00
夜ぐっすり眠れる	.04	0.67	78	1 4.00 3.00 4.00	.20	0.02	78	1 4.00 4.00 4.00	.12	0.16	78	1 4.00 4.00 4.00
家族や親戚、新しい人たちとのつながりが保たれている	.16	0.07	78	1 4.00 3.00 4.00	.13	0.15	79	1 4.00 3.00 4.00	.13	0.12	78	1 4.00 4.00 4.00
話を聞いてくれる人がいる	.09	0.29	79	0 4.00 3.00 4.00	.04	0.67	79	0 4.00 3.00 4.00	.05	0.58	78	1 4.00 4.00 4.00
トイレに行く	.07	0.39	79	0 4.00 4.00 4.00	.03	0.75	78	1 4.00 4.00 4.00	.07	0.42	78	1 4.00 3.75 4.00

注) Mann-Whitney U test ; 「実現したい程度」に有意差あり (bonferroni補正 = 橙色 : $p < 0.17 = 0.05 / 3$) $p < .05$

表 2 6

生活状態項目を「認知症などの病気ににより自分の考えをうまく伝えることが難しくなっても表現したい程度」と「介護支援専門員が推測したご家族の介護負担感（経済的負担感：軽度～なし・中度以上）」の関連性 (Mann-Whitney U test) 予備調査 (n=58)

生活状態項目	認知症のご本人				ご家族				介護支援専門員								
	軽度～なし				軽度～なし				軽度～なし								
	r	ρ	n	四分位範囲	中央値	中央値	n	四分位範囲	中央値	中央値	n	四分位範囲					
地球の一員として社会参加する例) 地球の掃除等	.03	.853	38	4	2.00	1.00	3.00	15	1	2.00	2.00	3.00	15	1	3.00	2.00	3.00
選挙に行くなどの政治活動を行う	.04	.781	38	6	2.00	1.25	3.00	15	1	2.00	1.00	4.00	14	2	3.00	2.00	3.00
買い物をする機会がある	.29	.030	38	2	3.00	2.00	4.00	15	1	2.00	2.00	3.00	14	2	3.00	3.00	3.00
家の外になじみの場所がある	.20	.149	38	5	3.00	2.00	4.00	13	3	3.00	2.00	3.00	14	2	3.00	3.00	4.00
自分で使えるお金をもっている	.09	.506	38	3	3.00	2.00	4.00	15	1	3.00	2.00	3.00	15	1	2.00	2.00	3.00
家族や周りの人の役に立つことをしている	.09	.523	38	3	3.00	2.00	3.00	14	2	3.00	2.00	3.00	13	3	3.00	2.00	3.00
家の周りが片付いている	.21	.124	38	4	3.00	3.00	4.00	15	1	3.00	3.00	3.00	14	2	3.00	3.00	4.00
いろいろな行事を楽しむ例) 誕生日、正月、花見、七夕、月見、クリスマスなど	.09	.526	38	2	3.00	3.00	4.00	14	2	3.00	2.00	4.00	14	2	3.00	2.00	4.00
趣味やレクリエーションなどたのしい活動をする例) 読書、音楽鑑賞、旅行など	.09	.502	38	4	3.00	2.00	3.00	15	1	3.00	2.00	3.00	14	2	3.00	2.00	3.25
軽い運動をする(散歩を含む)	.15	.252	38	2	3.00	3.00	4.00	15	1	3.00	2.00	4.00	15	1	3.00	3.00	4.00
安全に外出し、緑芝できる	.05	.744	38	3	3.00	3.00	4.00	14	2	4.00	1.75	4.00	13	3	3.00	2.50	4.00
部屋になじみのものが置いてある	.24	.073	41	1	4.00	3.00	4.00	14	2	3.00	2.75	4.00	14	2	3.00	2.75	3.00
身だしなみを整える	.17	.215	41	1	4.00	3.00	4.00	15	1	3.00	3.00	4.00	15	1	3.00	3.00	4.00
テレビを見たり新聞を読んだりする	.05	.740	40	2	3.00	2.00	4.00	15	1	3.00	2.00	4.00	14	2	3.00	2.75	4.00
日中は適切で清潔な服に着替える	.23	.086	41	1	4.00	3.00	4.00	15	1	3.00	3.00	4.00	15	1	3.00	3.00	4.00
お風呂に入る	.09	.516	41	1	4.00	3.00	4.00	15	1	4.00	3.00	4.00	15	1	3.00	3.00	4.00
心地よい部屋で過ごす例) 色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど	.21	.118	41	1	4.00	3.00	4.00	15	1	3.00	3.00	4.00	14	2	3.00	3.00	4.00
健康的な食事ができる	.01	.948	41	1	4.00	3.00	4.00	15	1	4.00	3.00	4.00	15	1	4.00	3.00	4.00
家の中に落ち着ける居場所がある	.09	.498	41	1	4.00	3.00	4.00	15	1	4.00	3.00	4.00	14	2	3.00	3.00	4.00
食事がおいしい	.02	.863	41	1	4.00	3.50	4.00	15	1	4.00	3.00	4.00	15	1	3.00	3.00	4.00
夜ぐっすり眠れる	.03	.850	41	1	4.00	3.00	4.00	15	1	4.00	3.00	4.00	14	2	3.00	3.00	4.00
家族や親戚、親しい人たちのつながりが保たれている	.41	.002	40	2	4.00	4.00	4.00	15	1	3.00	3.00	4.00	14	2	3.00	3.00	4.00
話を聞いてくれる人がいる	.14	.296	39	3	4.00	3.00	4.00	15	1	4.00	3.00	4.00	13	3	3.00	3.00	4.00
トイレに行く	.25	.061	41	1	4.00	4.00	4.00	14	2	4.00	3.00	4.00	15	1	3.00	3.00	4.00
きれいで清潔な部屋で過ごす	.31	.023	41	1	4.00	3.00	4.00	15	1	3.00	3.00	4.00	15	1	3.00	3.00	4.00
物事に集中できる静かな環境がある	.20	.148	40	2	4.00	3.00	4.00	14	2	3.00	3.00	4.00	14	2	3.00	2.75	3.25

注) Mann-Whitney U test : 「表現したい程度」に有意差あり (bonferroni補正 = 検定: p<.017=.05/3) p<.05)

表 2 7 生活状態項目を「介護保険サービスやご家族等の支援をうけながら実現できている程度」と「介護支援専門員が推測したご家族の介護負担感（経済的負担感：軽度～なし・中度以上）」の関連性 (Mann-Whitney U test) 予備調査 (n=58)	認知症のご本人				ご家族				介護支援専門員							
	軽度～なし				中度以上				軽度～なし				中度以上			
	r	p	n	次調 中央値 四分位範囲	r	p	n	次調 中央値 四分位範囲	r	p	n	次調 中央値 四分位範囲	r	p	n	次調 中央値 四分位範囲
生活状態項目																
地域の一人として社会参加する(例) 地域の掃除等	.08	.601	34	8 1.00 1.00 2.00	13	3 1.00 1.00 2.50	32	10 1.00 1.00 2.00	32	10 1.00 1.00 2.00	32	10 1.00 1.00 2.00	.05	.718	33	9 1.00 1.00 2.00
選挙に行くなどの政治活動を行う	.17	.216	37	5 2.00 1.00 4.00	15	1 2.00 1.00 3.00	39	3 2.00 1.00 4.00	39	3 2.00 1.00 4.00	39	3 2.00 1.00 4.00	.12	.431	34	8 1.00 1.00 4.00
買い物をする機会がある	.10	.455	39	3 3.00 1.00 4.00	13	3 2.00 1.50 3.00	38	4 2.00 1.00 4.00	38	4 2.00 1.00 4.00	38	4 2.00 1.00 4.00	.05	.699	37	5 2.00 1.00 3.00
家の外になじみの場所がある	.10	.466	38	4 3.00 2.00 4.00	15	1 3.00 2.00 3.00	39	3 3.00 2.00 4.00	39	3 3.00 2.00 4.00	39	3 3.00 2.00 4.00	.05	.702	38	4 3.00 2.00 4.00
自分で使えるお金をもっている	.15	.264	40	2 3.00 1.25 4.00	13	3 2.00 1.50 3.00	40	2 3.00 1.25 4.00	40	2 3.00 1.25 4.00	40	2 3.00 1.25 4.00	.05	.078	36	6 3.00 1.00 4.00
家族や周りの人の役に立つことをしている	.27	.043	40	2 2.00 1.00 3.00	15	1 1.00 1.00 2.00	38	4 2.00 1.75 3.00	38	4 2.00 1.75 3.00	38	4 2.00 1.75 3.00	.09	.534	37	5 2.00 1.50 3.00
家の周りが片付いている	.28	.005	40	2 4.00 3.00 4.00	12	4 3.00 2.25 3.00	40	2 4.00 3.00 4.00	40	2 4.00 3.00 4.00	40	2 4.00 3.00 4.00	.29	.034	39	3 4.00 3.00 4.00
いろいろな行事を楽しむ(例) 誕生日、正月、花見、七夕、月見、クリスマスなど	.12	.371	40	2 3.00 2.25 4.00	14	2 3.00 1.75 4.00	42	0 3.00 2.00 4.00	42	0 3.00 2.00 4.00	42	0 3.00 2.00 4.00	.05	.704	40	2 3.00 2.00 4.00
趣味やレクリエーションなどたのしい活動をする(例) 読書、音楽鑑賞、旅行など	.24	.076	40	2 3.00 2.00 3.00	15	1 2.00 1.00 3.00	40	2 3.00 2.00 3.75	40	2 3.00 2.00 3.75	40	2 3.00 2.00 3.75	.23	.086	39	3 3.00 2.00 4.00
軽い運動をする(散歩を含む)	.28	.037	42	0 3.00 2.00 4.00	15	1 2.00 1.00 4.00	42	0 3.00 2.00 4.00	42	0 3.00 2.00 4.00	42	0 3.00 2.00 4.00	.25	.067	40	2 3.00 2.00 4.00
安全に外出し、帰宅できる	.09	.503	40	2 3.00 3.00 4.00	14	2 3.00 1.75 4.00	39	3 3.00 3.00 4.00	39	3 3.00 3.00 4.00	39	3 3.00 3.00 4.00	.25	.072	35	7 3.00 3.00 4.00
部屋になじみのものが置いてある	.37	.005	41	1 4.00 3.00 4.00	15	1 3.00 2.00 4.00	41	1 4.00 3.00 4.00	41	1 4.00 3.00 4.00	41	1 4.00 3.00 4.00	.17	.219	40	2 4.00 3.00 4.00
身だしなみを整える	.08	.539	42	0 4.00 3.00 4.00	15	1 3.00 3.00 4.00	42	0 4.00 3.00 4.00	42	0 4.00 3.00 4.00	42	0 4.00 3.00 4.00	.24	.073	40	2 4.00 3.00 4.00
テレビを見て新聞を読んだりする	.05	.728	41	1 3.00 2.00 4.00	15	1 3.00 2.00 4.00	42	0 3.00 3.00 4.00	42	0 3.00 3.00 4.00	42	0 3.00 3.00 4.00	.19	.164	38	4 3.00 2.00 4.00
日中は適切で清潔な服に着替える	.32	.017	41	1 4.00 3.00 4.00	15	1 3.00 3.00 4.00	42	0 3.50 3.00 4.00	42	0 3.50 3.00 4.00	42	0 3.50 3.00 4.00	.05	.707	40	2 3.00 3.00 4.00
お風呂に入る	.03	.829	42	0 4.00 3.00 4.00	15	1 4.00 3.00 4.00	41	1 4.00 3.00 4.00	41	1 4.00 3.00 4.00	41	1 4.00 3.00 4.00	.20	.130	40	2 4.00 3.00 4.00
心地よい部屋で過ごす(例) 色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど	.15	.245	42	0 4.00 3.00 4.00	15	1 3.00 3.00 4.00	42	0 3.00 3.00 4.00	42	0 3.00 3.00 4.00	42	0 3.00 3.00 4.00	.22	.110	40	2 4.00 3.00 4.00
健康的な食事ができる	.10	.458	42	0 4.00 3.00 4.00	15	1 4.00 3.00 4.00	42	0 3.00 3.00 4.00	42	0 3.00 3.00 4.00	42	0 3.00 3.00 4.00	.21	.123	40	2 4.00 3.00 4.00
家の中に落ち着ける居場所がある	.20	.133	41	1 4.00 4.00 4.00	15	1 4.00 3.00 4.00	41	1 4.00 4.00 4.00	41	1 4.00 4.00 4.00	41	1 4.00 4.00 4.00	.03	.812	40	2 4.00 3.00 4.00
食事がおいしい	.07	.582	40	2 4.00 3.00 4.00	15	1 4.00 3.00 4.00	42	0 4.00 3.00 4.00	42	0 4.00 3.00 4.00	42	0 4.00 3.00 4.00	.04	.785	39	3 4.00 3.00 4.00
夜ぐっすり眠れる	.33	.014	41	1 4.00 3.00 4.00	15	1 3.00 2.00 4.00	42	0 4.00 3.00 4.00	42	0 4.00 3.00 4.00	42	0 4.00 3.00 4.00	.14	.295	39	3 3.00 3.00 4.00
家族や親戚、親しい人たちとのつながりが保たれている	.18	.186	42	0 4.00 3.00 4.00	15	1 4.00 3.00 4.00	42	0 4.00 3.00 4.00	42	0 4.00 3.00 4.00	42	0 4.00 3.00 4.00	.09	.501	40	2 4.00 3.00 4.00
話を聞いてくれる人がいる	.06	.674	42	0 4.00 3.00 4.00	15	1 4.00 3.00 4.00	42	0 4.00 3.00 4.00	42	0 4.00 3.00 4.00	42	0 4.00 3.00 4.00	.17	.192	40	2 4.00 3.00 4.00
トイレに行く	.05	.708	41	1 4.00 4.00 4.00	14	2 4.00 3.75 4.00	42	0 4.00 3.00 4.00	42	0 4.00 3.00 4.00	42	0 4.00 3.00 4.00	.19	.156	40	2 4.00 3.25 4.00
きれいで清潔な部屋を過ごす	.24	.070	42	0 4.00 3.00 4.00	15	1 3.00 3.00 4.00	42	0 4.00 3.00 4.00	42	0 4.00 3.00 4.00	42	0 4.00 3.00 4.00	.14	.296	40	2 4.00 3.00 4.00
物事に集中できる静かな環境がある	.25	.060	41	1 4.00 3.00 4.00	15	1 3.00 2.00 4.00	42	0 4.00 3.00 4.00	42	0 4.00 3.00 4.00	42	0 4.00 3.00 4.00	.19	.153	40	2 4.00 3.00 4.00

注) Mann-Whitney U test: 「実現できている程度」に有意差あり (bonferroni補正=緑色: $p < .017 = .05/3$) $p < .05$

表 2 8

生活状態項目を「認知症などの病気により自分の考えをうまく伝えることが難しくなくなっても実現したい程度」と「介護支援専門員が推測したご家族の介護負担感（経済的負担感）」の関連性 (Mann-Whitney U test) 本調査 (n=139)

生活状態項目	「実現したい程度」の評価者					ご家族の介護負担感 (経済的)				
	認知症のご本人					ご家族				
	軽度～なし					軽度～なし				
	r	p	n	中央値	四分位範囲	r	p	n	中央値	四分位範囲
地域の一人として社会参加する例) 地域の掃除等	.04	.645	92	8	2.00 1.00 3.00	.08	.345	97	3	2.00 1.50 3.00
選挙に行くなどの政治活動を行う	.12	.170	91	9	2.00 2.00 3.00	.04	.648	97	3	2.00 1.00 3.00
買い物をする機会がある	.14	.096	99	1	3.00 2.00 3.00	.12	.161	100	0	3.00 2.00 3.00
家の外になじみの場所がある	.07	.444	93	7	3.00 2.00 4.00	.11	.209	97	3	3.00 2.00 4.00
自分で使えるお金をもっている	.08	.328	98	2	3.00 2.00 4.00	.06	.461	99	1	2.00 2.00 3.00
家族や周りの人の役に立つことをしている	.05	.552	93	7	3.00 2.00 3.00	.05	.553	97	3	3.00 2.00 3.00
家の周りが片付いている	.02	.782	96	4	3.00 2.00 4.00	.11	.180	100	0	3.00 3.00 4.00
いろいろな行事を楽しむ例) 誕生日、正月、花見、七夕、月見、クリスマスなど	.12	.153	99	1	3.00 3.00 4.00	.08	.372	100	0	3.00 3.00 4.00
趣味やレクリエーションなどたのしい活動をする例) 読書、音楽鑑賞、旅行など	.10	.229	98	2	3.00 3.00 4.00	.16	.068	99	1	3.00 3.00 4.00
軽い運動をする(散歩を会社)	.01	.881	97	3	3.00 3.00 4.00	.08	.327	100	0	3.00 3.00 4.00
安全に外出し、帰宅できる	.04	.617	98	2	4.00 3.00 4.00	.03	.722	99	1	4.00 3.00 4.00
部屋になじみのものが置いてある	.09	.315	99	1	3.00 3.00 4.00	.09	.320	100	0	3.00 3.00 4.00
身だしなみを整える	.16	.061	100	0	4.00 3.00 4.00	.03	.725	100	0	3.00 3.00 4.00
テレビを見たり新聞を読んだりする	.09	.292	99	1	3.00 3.00 4.00	.09	.320	100	0	3.00 3.00 4.00
日中は適切で清潔な服に着替える	.13	.119	99	1	4.00 3.00 4.00	.04	.607	99	1	4.00 3.00 4.00
お風呂に入る	.03	.738	100	0	3.50 3.00 4.00	.07	.439	100	0	4.00 3.00 4.00
心地よい部屋で過ごす例) 色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど	.09	.314	99	1	4.00 3.00 4.00	.20	.017	100	0	4.00 3.00 4.00
健康的な食事ができる	.15	.080	99	1	4.00 3.00 4.00	.04	.672	98	2	4.00 3.00 4.00
家の中に落ち着ける居場所がある	.02	.803	98	2	4.00 3.00 4.00	.14	.113	100	0	4.00 3.00 4.00
食事がおいしい	.07	.443	100	0	3.00 4.00	.09	.299	100	0	4.00 3.00 4.00
夜ぐっすり眠れる	.08	.381	100	0	4.00 3.00 4.00	.15	.075	98	2	4.00 4.00 4.00
家族や親戚、親しい人たちのつながりが保たれている	.04	.650	100	0	4.00 3.00 4.00	.15	.088	99	1	4.00 3.00 4.00
話を聞いてくれる人がいる	.06	.601	99	1	4.00 3.00 4.00	.14	.101	100	0	4.00 3.00 4.00
トイレに行く	.00	.997	100	0	4.00 4.00 4.00	.19	.027	99	1	4.00 3.00 4.00

注) Mann-Whitney U test : 「実現したい程度」に有意差あり (bonferroni補正 = 緑色 : p<.017=.05/3) p<.05)

表 2 9

生活状態項目を「認知症などの病気により自分の考えをうまく伝えることが難しくなっても表現したい程度」と「過去1か月の間のBPSD（あり・なし）」の関連性 (Mann-Whitney U test)

生活状態項目	BPSD				「表現したい程度」の評価者				認知症のご本人				ご家族				介護支援専門員			
	r	ρ	あり		なし		r	ρ	あり		なし		r	ρ	あり		なし			
			n	中央 欠損 値	n	中央 欠損 値			n	中央 欠損 値	n	中央 欠損 値			n	中央 欠損 値	n	中央 欠損 値		
地域の一人として社会参加する例) 地域の掃			17	1	2.00	2.00	3.50	35	4	2.00	1.00	3.00			16	2	2.00	1.00	3.00	
除等	.22	.107	17	1	2.00	2.00	3.50	35	4	2.00	1.00	3.00			16	2	2.00	1.00	3.00	
選挙に行くなどの政治活動を行う	.00	1.000	16	2	2.00	1.25	4.00	34	5	2.00	1.75	3.00			15	3	2.00	1.00	2.00	
買い物をする機会がある	.05	.715	18	0	3.00	2.00	4.00	36	3	3.00	2.00	4.00			17	1	3.00	2.00	4.00	
家の外になじみの場所がある	.23	.106	17	1	3.00	3.00	3.50	32	7	3.00	2.00	3.00			16	2	3.00	3.00	3.75	
自分で使えるお金もっている	.02	.903	16	2	3.00	2.00	3.00	37	2	3.00	2.00	3.50			18	0	3.00	2.00	3.00	
家族や周りの人の役に立つことをしている	.32	.022	17	1	3.00	3.00	3.00	35	4	2.00	2.00	3.00			16	2	3.00	2.00	3.00	
家の周りが片付いている	.04	.792	17	1	3.00	3.00	4.00	35	4	3.00	3.00	4.00			17	1	3.00	2.00	4.00	
いろいろな行事を楽しむ例) 誕生日、正月、			18	0	3.00	2.75	4.00	35	4	3.00	3.00	4.00			17	1	3.00	2.50	3.50	
花見、七夕、月見、クリスマスなど	.13	.344	18	0	3.00	2.75	4.00	35	4	3.00	3.00	4.00			17	1	3.00	2.50	3.50	
趣味やレクリエーションなどたのしい活動を	.09	.498	17	1	3.00	2.50	3.00	35	4	3.00	2.00	3.00			17	1	3.00	2.00	4.00	
する例) 読書、音楽鑑賞、旅行など	.11	.421	18	0	3.00	3.00	4.00	36	3	3.00	3.00	4.00			17	1	3.00	3.00	3.00	
軽い運動をする(散歩を含む)	.03	.839	16	2	3.50	3.00	4.00	36	3	3.00	3.00	4.00			17	1	3.00	3.00	4.00	
安全に外出し、帰宅できる	.02	.910	17	1	3.00	3.00	4.00	37	2	3.00	3.00	4.00			17	1	3.00	3.00	4.00	
部屋になじみのものが置いてある	.11	.405	18	0	4.00	3.00	4.00	37	2	3.00	3.00	4.00			18	0	3.00	3.00	4.00	
身だしなみを整える	.09	.520	18	0	3.00	2.00	4.00	36	3	3.00	2.25	4.00			17	1	3.00	3.00	3.00	
テレビを見たり新聞を読んだりする	.02	.865	18	0	3.00	3.00	4.00	37	2	3.00	3.00	4.00			18	0	3.00	3.00	4.00	
日は適切で清潔な服に着替える	.26	.054	18	0	4.00	3.75	4.00	37	2	4.00	3.00	4.00			18	0	3.00	3.00	4.00	
お風呂に入る	.01	.935	18	0	4.00	3.75	4.00	37	2	4.00	3.00	4.00			18	0	3.00	3.00	4.00	
心地よい部屋で過ごす例) 色彩、音、装	.25	.063	18	0	4.00	3.75	4.00	37	2	4.00	3.00	4.00			17	1	4.00	3.00	4.00	
飾、温度、湿度、匂いなど	.02	.907	18	0	4.00	3.00	4.00	37	2	4.00	3.00	4.00			17	1	4.00	3.00	4.00	
健康的な食事ができる	.32	.019	18	0	4.00	4.00	4.00	37	2	4.00	3.00	4.00			18	0	4.00	4.00	4.00	
家の中に落ち着ける居場所がある	.02	.882	18	0	4.00	3.00	4.00	37	2	4.00	3.00	4.00			17	1	4.00	3.00	4.00	
食事がおいしい	.05	.739	18	0	4.00	4.00	4.00	38	1	4.00	3.00	4.00			18	0	4.00	4.00	4.00	
夜ぐっすり眠れる	.04	.788	18	0	4.00	3.00	4.00	38	1	4.00	3.00	4.00			18	0	4.00	3.00	4.00	
家族や親戚、親しい人たちのつながりが保	.17	.215	18	0	4.00	3.00	4.00	37	2	4.00	3.00	4.00			17	1	4.00	3.00	4.00	
たれている	.01	.960	18	0	4.00	3.00	4.00	37	2	4.00	3.00	4.00			18	0	4.00	3.00	4.00	
話を聞いてくれる人がいる	.06	.669	18	0	4.00	3.00	4.00	36	3	4.00	3.00	4.00			18	0	4.00	3.00	4.00	
トイレに行く	.19	.167	18	0	4.00	3.00	4.00	38	1	4.00	3.00	4.00			17	1	4.00	3.00	4.00	
きれいで清潔な部屋で過ごす	.04	.772	18	0	4.00	3.00	4.00	38	1	4.00	3.00	4.00			17	1	4.00	3.00	4.00	
物事に集中できる静かな環境がある	.04	.772	18	0	4.00	3.00	4.00	38	1	4.00	3.00	4.00			17	1	4.00	3.00	4.00	

注) Mann-Whitney U test : 「表現したい程度」に有意差あり (bonferroni補正=綠色 ; p<.017=.05/3) ; p<.05)

表 3 0

生活状態項目を「介護保険サービスやご家族等の支援をうけながら実現できている程度」と「過去1か月の間のBPSD（あり・なし）」の関連性（Mann-Whitney U test）

予備調査（n=58）

生活状態項目	BPSD				認知症のご本人				ご家族				介護支援専門員									
	あり		なし		あり		なし		あり		なし		あり		なし							
	n	中央値	n	中央値	n	中央値	n	中央値	n	中央値	n	中央値	n	中央値	n	中央値						
地域の一員として社会参加する例) 地域の掃	17	1.00	1.00	1.50	29	10	2.00	1.00	2.00	15	3	1.00	1.00	1.00	16	2	1.00	1.00	1.00			
除等																						
運筆に行くなどの政治活動を行う	16	2	1.00	1.00	2.75	35	4	3.00	1.00	4.00	15	3	1.00	1.00	1.00	15	3	1.00	1.00	1.00		
買い物をする機会がある	17	1	2.00	1.00	3.50	34	5	3.00	1.00	4.00	16	2	2.00	1.00	3.75	17	1	2.00	1.00	3.00		
家の外になじみの場所がある	16	2	3.00	2.00	3.00	36	3	3.00	2.00	4.00	16	2	3.00	2.00	3.00	18	0	3.00	2.75	3.25		
自分で使えるお金もっている	16	2	2.50	1.00	3.75	36	3	3.00	2.00	4.00	15	3	2.00	1.00	3.00	16	2	2.00	1.00	3.00		
家族や周りの人の役に立つことをしている	18	0	1.00	1.00	3.00	36	3	2.00	1.00	3.00	16	2	2.50	1.25	3.00	18	0	2.00	1.75	3.00		
家の周りが片付いている	14	4	4.00	2.00	4.00	37	2	3.00	3.00	4.00	15	3	3.00	2.00	4.00	16	2	3.00	2.00	4.00		
いろいろな行事を楽しむ例) 誕生日、正月、																						
花見、七夕、月見、クリスマスなど	16	2	3.00	1.25	4.00	37	2	3.00	2.50	4.00	16	2	3.00	2.00	4.00	18	0	3.00	2.00	3.25		
趣味やレクリエーションなどたのしい活動を																						
する 例) 読書、音楽鑑賞、旅行など	18	0	2.00	1.00	3.00	36	3	3.00	2.00	3.00	16	2	3.00	2.00	3.00	18	0	3.00	2.00	3.00		
軽い運動をする(散歩を含む)	18	0	3.00	1.00	4.00	38	1	3.00	2.00	4.00	17	1	3.00	1.50	3.00	18	0	3.00	2.00	3.00		
安全に外出し、帰宅できる	15	3	3.00	1.00	4.00	38	1	3.00	2.75	4.00	15	3	3.00	2.00	4.00	14	4	3.00	1.75	4.00		
部屋になじみのものが置いてある	18	0	4.00	3.00	4.00	37	2	4.00	3.00	4.00	16	2	3.50	3.00	4.00	17	1	4.00	3.00	4.00		
身だしなみを整える	18	0	4.00	3.00	4.00	38	1	3.50	3.00	4.00	18	0	3.00	3.00	4.00	18	0	3.50	3.00	4.00		
テレビを見たなり新聞を読んだりする	18	0	3.00	2.00	4.00	37	2	4.00	2.50	4.00	18	0	3.00	2.00	3.00	17	1	3.00	1.50	3.00		
日中は適切で清潔な服に着替える	18	0	3.00	3.00	4.00	37	2	4.00	3.00	4.00	18	0	3.00	2.75	4.00	18	0	3.00	3.00	4.00		
お風呂に入る	18	0	3.50	3.00	4.00	38	1	4.00	3.00	4.00	18	0	3.00	3.00	4.00	18	0	3.00	2.75	4.00		
心地よい部屋で過ごす 例) 色彩、音、装																						
飾、温度、湿度、匂いなど	18	0	3.50	3.00	4.00	38	1	4.00	3.00	4.00	18	0	3.00	2.00	4.00	17	1	3.00	2.00	4.00		
健康的な食事ができる	18	0	4.00	3.00	4.00	38	1	4.00	3.00	4.00	18	0	3.50	3.00	4.00	18	0	3.50	3.00	4.00		
家の中に落ち着ける居場所がある	17	1	4.00	3.00	4.00	38	1	4.00	3.00	4.00	17	1	4.00	3.00	4.00	18	0	4.00	3.00	4.00		
食事がおいしい	16	2	4.00	3.25	4.00	38	1	4.00	3.00	4.00	17	1	3.00	3.00	4.00	17	1	3.00	3.00	4.00		
夜ぐっすり眠れる	17	1	3.00	3.00	4.00	38	1	3.50	2.75	4.00	18	0	3.00	3.00	3.25	16	2	3.00	3.00	4.00		
家族や親戚、親しい人たちのつながりが保																						
たれている	18	0	4.00	3.00	4.00	38	1	4.00	3.00	4.00	17	1	3.00	3.00	4.00	18	0	4.00	3.00	4.00		
話を聞いてくれる人がいる	18	0	4.00	3.00	4.00	38	1	4.00	3.00	4.00	17	1	3.00	3.00	4.00	18	0	3.50	3.00	4.00		
トイレに行く	18	0	4.00	3.75	4.00	36	3	4.00	4.00	4.00	18	0	4.00	3.00	4.00	18	0	4.00	3.00	4.00		
きれいで清潔な部屋で過ごす	18	0	4.00	3.00	4.00	38	1	3.00	3.00	4.00	18	0	3.00	2.75	4.00	18	0	3.00	2.75	4.00		
物事に集中できる静かな環境がある	17	208	18	0	3.50	2.00	4.00	37	2	4.00	3.00	4.00	18	0	3.00	2.00	4.00	17	1	3.00	3.00	4.00

注) Mann-Whitney U test; 「実現できている程度」に有意差あり (bonferroni補正=緑色: p<.017=05/3) p<.05)

表 3 1

生活状態項目を「認知症などの病気により自分の考えをうまく伝えることが難しくなっても実現したい程度」と「過去1か月の間のBPSD (あり・なし)」の関連性 (Mann-Whitney U test) 本調査 (n=139)

生活状態項目	BPSD				認知症のご本人				ご家族				介護支援専門員											
	r	ρ	あり		なし		r	ρ	あり		なし		r	ρ	あり		なし							
			n	中央値	n	中央値			n	中央値	n	中央値			n	中央値	n	中央値	n	中央値				
地域の一員として社会参加する (例) 地域の掃除等	.06	.488	40	6	2.00	1.00	3.00	86	7	2.00	1.00	3.00	.02	.797	43	3	3.00	2.00	3.00	88	5	3.00	2.00	3.00
選挙に行くなどの政治活動を行う	.05	.595	43	3	2.00	2.00	3.00	84	9	2.00	1.00	3.00	.04	.634	43	3	2.00	2.00	3.00	84	9	2.00	2.00	3.00
買い物をする機会がある	.08	.338	43	3	2.00	1.00	3.00	93	0	2.00	2.00	3.00	.03	.708	46	0	3.00	2.00	3.00	89	4	3.00	2.00	3.00
家の外になじみの場所がある	.05	.539	38	8	3.00	2.00	4.00	89	4	3.00	2.00	4.00	.09	.309	46	0	3.00	3.00	4.00	90	3	3.00	3.00	4.00
自分で使えるお金をもっている	.09	.296	44	2	3.00	1.25	4.00	91	2	3.00	2.00	4.00	.11	.192	45	1	3.00	2.00	3.00	89	4	3.00	2.00	3.00
家族や周りの人の役に立つことをしている	.06	.488	42	4	3.00	2.00	3.00	87	6	3.00	2.00	3.00	.05	.531	44	2	3.00	3.00	3.00	89	4	3.00	3.00	4.00
家の周りが片付いている	.03	.695	43	3	3.00	2.00	4.00	90	3	3.00	2.00	4.00	.02	.788	46	0	3.00	3.00	4.00	88	5	3.00	2.25	4.00
いろいろな行事を楽しむ (例) 誕生日、正月、花見、七夕、月見、クリスマスなど	.10	.246	45	1	3.00	2.50	4.00	92	1	3.00	2.00	4.00	.12	.159	46	0	4.00	3.00	4.00	90	3	3.00	3.00	4.00
趣味やレクリエーションなどたのしい活動をする (例) 読書、音楽鑑賞、旅行など	.20	.017	44	2	3.00	2.00	3.00	92	1	3.00	3.00	4.00	.01	.867	46	0	4.00	3.00	4.00	88	5	4.00	3.00	4.00
軽い運動をする (散歩を含む)	.04	.656	44	2	3.00	2.00	4.00	91	2	3.00	3.00	4.00	.02	.854	46	0	3.00	3.00	4.00	89	4	3.00	3.00	4.00
安全に外出し、帰宅できる	.09	.320	42	4	3.00	2.00	4.00	91	2	4.00	3.00	4.00	.01	.938	45	1	4.00	3.00	4.00	89	4	4.00	3.00	4.00
部屋になじみのものが置いてある	.11	.212	45	1	4.00	3.00	4.00	92	1	3.00	3.00	4.00	.17	.052	45	1	4.00	3.00	4.00	89	4	4.00	3.00	4.00
身だしなみを整える	.06	.475	44	2	4.00	3.00	4.00	93	0	3.00	3.00	4.00	.07	.485	46	0	4.00	3.00	4.00	90	3	3.50	3.00	4.00
テレビを見たり新聞を読んだりする	.06	.472	45	1	3.00	3.00	4.00	91	2	3.00	3.00	4.00	.02	.862	46	0	3.00	3.00	4.00	86	7	3.00	3.00	4.00
日中は適切で清潔な服に着替える	.17	.054	45	1	4.00	3.00	4.00	91	2	3.00	3.00	4.00	.01	.871	45	1	4.00	3.00	4.00	90	3	3.00	3.00	4.00
お風呂に入る	.05	.599	45	1	3.00	3.00	4.00	93	0	4.00	3.00	4.00	.08	.350	46	0	4.00	3.00	4.00	90	3	4.00	3.00	4.00
心地よい部屋で過ごす (例) 色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど	.12	.158	44	2	4.00	3.00	4.00	92	1	3.00	3.00	4.00	.01	.950	46	0	3.50	3.00	4.00	93	0	4.00	3.00	4.00
健康的な食事ができる	.06	.523	45	1	4.00	3.00	4.00	92	1	4.00	3.00	4.00	.00	.967	45	1	4.00	3.00	4.00	91	2	4.00	3.00	4.00
家の中に落ち着ける居場所がある	.06	.488	45	1	4.00	3.00	4.00	91	2	4.00	3.00	4.00	.06	.453	46	0	4.00	3.00	4.00	93	0	4.00	4.00	4.00
食事がおいしい	.04	.494	45	1	4.00	3.00	4.00	93	0	4.00	3.00	4.00	.09	.281	46	0	4.00	3.00	4.00	93	0	4.00	3.00	4.00
夜ぐっすり眠れる	.08	.348	44	2	4.00	4.00	4.00	93	0	4.00	3.00	4.00	.04	.686	44	2	4.00	3.00	4.00	93	0	4.00	3.50	4.00
家族や親戚、親しい人たちとのつながりが保たれている	.19	.028	45	1	4.00	3.50	4.00	92	1	4.00	3.00	4.00	.05	.535	45	1	4.00	3.00	4.00	92	1	4.00	3.00	4.00
話を聞いてくれる人がいる	.04	.673	45	1	4.00	3.00	4.00	92	1	4.00	3.00	4.00	.00	.979	45	1	4.00	3.00	4.00	93	0	4.00	3.00	4.00
トイレに行く	.06	.503	45	1	4.00	4.00	4.00	93	0	4.00	4.00	4.00	.02	.808	45	1	4.00	4.00	4.00	92	1	4.00	4.00	4.00

注) Mann-Whitney U test ; 「実現したい程度」に有意差あり=橙色 ; p<.05

表 3 2

生活状態項目を「認知症などの病気により自分の考えをうまく伝えることが難しくなっても表現したい程度」と評価者間の判断一致傾向 (Spearman順位相関係数) 予備調査 (n=58) 本調査 (n=139)

生活状態項目	予備調査				本調査															
	認知症のご本人とご家族		ご家族と介護支援専門員		認知症のご本人とご家族		ご家族と介護支援専門員													
	ρ	n	ρ	n	ρ	n	ρ	n												
地域の一員として社会参加する例) 地域の掃除等	.28	.053	48	10	.35	.014	49	9	.38	.000	120	19	.41	.000	118	21	.37	.000	123	16
選挙に行くなどの政治活動を行う	.42	.004	46	12	.42	.003	48	10	.51	.000	121	18	.35	.000	115	24	.28	.002	120	19
買い物をする機会がある	.41	.003	52	6	.61	.000	53	5	.44	.001	135	4	.42	.000	132	7	.39	.000	134	5
家の外になじみの場所がある	.39	.007	47	11	.43	.003	48	10	.31	.024	122	17	.23	.012	124	15	.06	.512	130	9
自分で使えるお金をもっている	.57	.000	52	6	.56	.000	52	6	.44	.001	134	5	.47	.000	130	9	.47	.000	132	7
家族や知り合いの人の役に立つことをしている	.17	.244	47	11	.06	.681	51	7	.30	.036	49	9	.27	.002	123	16	.45	.000	127	12
家の周りが片付いている	.49	.000	50	8	.56	.000	52	6	.64	.000	53	5	.26	.003	128	11	.40	.000	134	5
いろいろな行事を楽しむ例) 誕生日、正月、花見、七夕、月見、クリスマスなど	.47	.000	52	6	.39	.004	52	6	.47	.000	53	5	.22	.009	134	5	.25	.003	136	3
趣味やレクリエーションなどたのしい活動をする例) 読書、音楽鑑賞、旅行など	.49	.000	50	8	.29	.039	52	6	.36	.010	52	6	.25	.005	132	7	.32	.000	132	7
軽い運動をする(散歩を含む)	.30	.029	52	6	.16	.247	54	4	.30	.027	53	5	.22	.010	131	8	.29	.001	134	5
安全に外出し、帰宅できる	.55	.000	51	7	.55	.000	51	7	.59	.000	52	6	.49	.000	128	11	.30	.000	132	7
部屋になじみのものが置いてある	.42	.002	52	6	.16	.256	52	6	.17	.229	52	6	.30	.000	133	6	.19	.025	133	6
身だしなみを整える	.35	.009	54	4	.27	.045	54	4	.38	.005	54	4	.31	.000	137	2	.48	.000	136	3
テレビを見たり新聞を読んだりする	.52	.000	52	6	.27	.053	52	6	.33	.016	52	6	.46	.000	129	10	.22	.011	132	7
日中は通切で清潔な服に着替える	.43	.001	55	3	.41	.002	54	4	.42	.001	55	3	.32	.000	133	6	.44	.000	135	4
お風呂に入る	.11	.427	55	3	.17	.219	54	4	.36	.007	55	3	.40	.000	135	4	.42	.000	136	3
心地よい部屋で過ごす例) 色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど	.29	.035	54	4	.30	.030	53	5	.36	.008	53	5	.32	.000	133	6	.29	.001	135	4
健康的な食事ができる	.27	.050	55	3	.37	.006	54	4	.36	.007	55	3	.38	.000	133	6	.43	.000	132	7
家の中に落ち着ける居場所がある	.35	.010	54	4	.36	.007	53	5	.25	.066	53	5	.35	.000	133	6	.27	.002	136	3
食事をおいしい	.06	.659	55	3	.15	.288	53	5	.07	.592	54	4	.31	.000	135	4	.36	.000	136	3
夜ぐっすり眠れる	.36	.007	54	4	.30	.027	54	4	.29	.032	54	4	.40	.000	134	5	.48	.000	134	5
家族や親戚、親しい人たちとのつながりが保たれている	.63	.000	53	5	.33	.016	52	6	.10	.499	52	6	.19	.028	134	5	.25	.003	134	5
話を聞いてくれる人がいる	.56	.000	51	7	.60	.000	52	6	.55	.000	52	6	.34	.000	134	5	.16	.056	135	4
トイレに行く	.43	.002	52	6	.25	.070	53	5	.50	.000	53	5	.16	.060	135	4	.26	.002	134	5
きれいで清潔な部屋で過ごす	.34	.010	55	3	.30	.029	53	5	.40	.003	54	4	.43	.000	135	4	.43	.000	135	4
ものごと集中できず静かな環境がある	.43	.002	51	7	.43	.002	51	7	.53	.000	52	6	.53	.000	136	3	.53	.000	136	3

注) Spearman順位相関係数; bonferroni補正 (低相関性 = 青色; $p > .017 = .05/3$)

表 3 3

生活状態項目を「介護保険サービスやご家族等の支援をうけながら実現できている程度」(高・低二群)と評価者間(認知症のご本人・ご家族・介護支援専門員)判断一致傾向 (Cohen's Kappa係数) 予備調査 (n=58)

生活状態項目	「実現できている程度」の評価者			認知症のご本人とご家族			認知症のご本人と介護支援専門員			ご家族と介護支援専門員			
	κ	p	n	κ	p	n	κ	p	n	κ	p	n	
地域の一人として社会参加する例) 地域の掃除等	-.12	.433	41	.13	.426	40	.18			.13	.426	40	18
選挙に行くなどの政治活動を行う	.76	.000	50	.79	.000	44	14			.79	.000	44	14
買い物をする機会がある	.47	.001	48	.61	.000	48	10			.61	.000	48	10
家の外になじみの場所がある	.25	.080	49	.44	.002	49	9			.44	.002	49	9
自分で使えるお金もっている	.64	.000	50	.52	.000	46	12			.52	.000	46	12
家族や周りの人の役に立つことをしている	.51	.000	50	.41	.003	50	8			.58	.000	48	10
家の周りが片付いている	.46	.000	52	.62	.000	51	7			.33	.015	53	5
いろいろな行事を楽しむ例) 誕生日、正月、花見、七夕、月見、クリスマスなど	.46	.001	53	.42	.002	52	6			.47	.000	54	4
趣味やレクリエーションなどの楽しい活動をする例) 読書、音楽鑑賞、旅行など	.49	.000	52	.55	.000	53	5			.68	.000	51	7
軽い運動をする(散歩を含む)	.29	.027	56	.50	.000	54	4			.42	.002	54	4
安全に外出し、帰宅できる	.57	.000	51	.64	.000	48	10			.67	.000	48	10
部屋になじみのものが置いてある	.63	.000	53	.74	.000	52	6			.65	.000	51	7
身だしなみを整える	.73	.000	57	.30	.018	55	3			.30	.016	56	2
テレビを見たり新聞を読んだりする	.62	.000	56	.69	.000	52	6			.65	.000	53	5
日中は適切で清潔な服に着替える	.57	.000	56	.19	.139	54	4			.26	.034	56	2
お風呂に入る	.19	.150	55	.40	.003	55	3			.40	.003	55	3
心地よい部屋で過ごす例) 色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど	.52	.000	57	.56	.000	54	4			.42	.001	55	3
健康的な食事ができる	.31	.007	57	.13	.271	55	3			.35	.009	56	2
家の中に落ち着ける居場所がある	.88	.000	55	.46	.000	53	5			.54	.000	54	4
食事がおいしい	.45	.000	54	.24	.082	53	5			.35	.004	54	4
夜ぐっすり眠れる	.76	.000	56	.08	.082	52	6			.41	.002	54	4
家族や親戚、親しい人たちのつながりが保たれている	.47	.000	56	.47	.000	55	3			.44	.001	55	3
話を聞いてくれる人がいる	.09	.482	56	.15	.250	55	3			.56	.000	55	3
トイレに行く	.85	.000	55	.85	.000	53				.73	.000	56	2
きれいで清潔な部屋で過ごす	.32	.002	57	.34	.004	53	5			.49	.000	54	4
物事に集中できる静かな環境がある	.41	.000	56	.27	.008	53	5			.35	.001	55	3

(注) Cohen's Kappa係数；低い一致性=青色；(bonferroni補正：p>.017=.05/3)

表 3 4

生活状態項目を「認知症などの病気により自分の考えをうまく伝えることが難しくなっても実現したい程度」の評価者内の項目間判断類似傾向 (Spearman順位相関係数)
 予備調査 (n=58) 本調査 (n=139)

調査種類	予備調査			本調査		
	認知症のご本人	ご家族	介護支援専門員	人	ご家族	介護支援専門員
	n	p	p	n	p	p
生活状態項目 「実現したい程度」の評価者 生活状態項目						
地域の一日として社会参加する例) 地域の掃除等						
浴槽に行くなどの在宅活動を行う						
買い物をする機会がある						
家の外になじみの場所がある						
自分で使えるお金をもっている						
家族や周りの人の役に立つことをしている						
家の周りが片付いている						
いろいろな行事を楽しむ例) 誕生日、正月、花見、七夕、月見、クリスマスなど						
趣味やレクリエーションなどなどの楽しい活動をする例) 読書、音楽鑑賞、旅行など						
軽い運動をする(散歩を含む)						
安全に外出し、散歩できる						
部屋になじみのものが置いてある						
身だしなみを整える						
テレビを見たり新聞を読んだりする						
日中は適切で清潔な服に着替える						
お風呂に入る						
心地よい部屋で過ごす例) 色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど	56	90	.00	54	73	.00
きれいで清潔な部屋で過ごす				56	82	.00
心地よい部屋で過ごす例) 色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど				55	72	.00
度、匂いなど				55	72	.00
健康的な食事ができる	56	72	.00	57	72	.00
家の中に落ち着ける居場所がある				57	72	.00
ものごとに集中できる静かな環境がある	54	74	.00	56	74	.00
心地よい部屋で過ごす例) 色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど				56	72	.00
夜ぐっすり眠れる	56	71	.00	56	71	.00
夜ぐっすり眠れる				56	71	.00
きれいで清潔な部屋で過ごす	56	72	.00	56	72	.00
家の中に落ち着ける居場所がある	56	71	.00	56	71	.00
家族や親戚、親しい人たちのつながりが保たれている				54	71	.00
話を聞いてくれる人がいる				54	71	.00
トイレに行く				54	71	.00
				54	71	.00
きれいで清潔な部屋で過ごす	56	90	.00	56	74	.00
度、匂いなど				55	72	.00
夜ぐっすり眠れる	56	72	.00	54	73	.00
ものごとに集中できる静かな環境がある				55	86	.00
家の中に落ち着ける居場所がある	54	74	.00	55	86	.00

注) 最終的に削除した2項目と高い項目間関係を示した項目「きれいで清潔な部屋で過ごす」(黄色)「ものごとに集中できる静かな環境がある」(緑色)「Spearman順位相関係数」高い項目間相関係数 $\rho > .7$

表 3 5

生活状態項目を「認知症などの病気により自分の考えをうまく伝えることが難しくなっても表現したい程度」(再テスト: 予備調査と本調査)の判断一致傾向 (Mann-Whitney U test)
 予備調査 (n=58) 本調査 (n=139)

調査種類	認知症のご本人				ご家族				介護支援専門員			
	予備調査		本調査		予備調査		本調査		予備調査		本調査	
	r	p	n	中央値	n	中央値	n	中央値	n	中央値	n	中央値
生活状態項目												
地域の一人としての社会参加する例) 地域の掃除等	.04	.55	53	5	125	14	2.00	130	9	54	4	3.00
選挙に行くなどの政治活動を行う	.05	.54	51	7	127	12	2.00	132	7	52	6	3.00
買い物をする機会がある	.19	.01	55	3	136	3	2.00	138	1	56	2	3.00
家の外になじみの場所がある	.31	.68	50	8	127	12	3.00	133	6	56	2	3.00
自分で使えるお釜をもっている	.06	.38	54	4	135	4	3.00	137	2	56	2	3.00
家族や周りの人の役に立つことをしている	.03	.68	53	5	129	10	3.00	133	6	55	3	3.00
家の周りが片付いている	.13	.08	53	5	133	6	3.00	139	0	56	2	3.00
いろいろな行事を楽しむ例) 誕生日、正月、花見、七夕、月見、クリスマスなど	.01	.89	54	4	137	2	3.00	139	0	56	2	3.00
趣味やレクリエーションなどたのしい活動をする例) 読書、音楽鑑賞、旅行など	.10	.18	53	5	136	3	3.00	137	2	55	3	3.00
軽い運動をする(散歩を含む)	.06	.39	55	3	135	4	3.00	138	1	56	2	3.00
安全に外出し、帰宅できる	.04	.55	53	5	133	6	4.00	137	2	56	2	4.00
合計			54		76			56		30		
部屋になじみのものが置いてある	.06	.43	55	3	137	2	3.00	138	1	55	3	4.00
身だしなみを整える	.08	.30	56	2	137	2	3.00	139	0	56	2	4.00
テレビを見たり新聞を読んだりする	.07	.34	55	3	136	3	3.00	139	0	55	3	3.00
日中は適切で清潔な服に着替える	.02	.79	56	2	136	3	3.00	138	1	56	2	4.00
お風呂に入る	.02	.74	56	2	137	2	4.00	136	3	56	2	4.00
心地よい部屋で過ごす例) 色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど	.05	.48	56	2	138	1	4.00	139	0	55	3	4.00
健康的な食事ができる	.09	.19	56	2	136	3	4.00	139	0	56	2	4.00
食卓に落ち着ける居場所がある	.06	.38	56	2	136	3	4.00	139	0	55	3	4.00
家事がおいしい	.11	.13	56	2	138	1	4.00	139	0	55	3	4.00
夜ぐっすり眠れる	.01	.90	56	2	137	2	4.00	137	2	55	3	4.00
家族や親戚、親しい人たちとのつながりが保たれている	.05	.51	55	3	137	2	4.00	137	2	56	2	4.00
話を聞いてくれる人がいる	.00	.99	54	4	137	2	4.00	138	1	56	2	4.00
トイレに行く	.01	.91	55	3	138	1	4.00	137	2	56	2	4.00
合計			32		27			28		32		

注) Mann-Whitney U test: 判断一致程度に有意差あり = 橙色: p<.05

表 3 6 - 1

予備調査；生活状態項目についての自由記述

追加または削除意見

生活状態項目

認知症のご本人

ご家族

・仕事をしている場合もあるので人の役に立つことをしているという項目で判断したが「仕事」という項目を入れてもよくないかと感じた。

家族や周りの人の役に立つことをしている

その他

- ・「楽しいと思うこと、楽しみにしていることがある。」「何かやりたいことがある。」「毎日やるべきことがある。」「項目が重複するところがありわかりづらい抽象的な質問が多くある。
- ・日中も横になって寝ていることが多く、何に対しても興味を示さなくなっています。近くに同年代の方々がいなくなり、友達と会って話すこともありません。
- ・独居で、家族は遠方に住む。定期的に帰省する。本人は施設入所を望まないで、できるだけギリギリまで自宅で生活させてやりたい。

表 3 6 - 2

予備調査；生活状態項目についての自由記述。青字表記は2つの項目を比較した意見のため、2つの欄ともに記載。うち、重複分を色づけ。

介護支援専門員				
生活状態項目	追加意見	削除意見	回答に困った項目意見	気づいた点
食事がおいしい	・問1と問4はマニュアルにて内容の違いを理解できたが、本人、家族の理解しやすく説明するのに工夫が必要だった。	・問4と問1と重ねての内容はどうだろうか？説明の時に少し悩んだ。		
お風呂に入る		・風呂にはいっていない人もいる。週に〇回フロに入っていると変更した上で、別に、「清潔に過ごせていると思う」と回答させる。		
健康的な食事ができる	・問1と問4はマニュアルにて内容の違いを理解できたが、本人、家族の理解しやすく説明するのに工夫が必要だった。	・痛んだ食べ物を食べていない、又は食べて体調をくずしていない、と変更する。 ・賞味期限は高齢者は食している。どのような賞味期限？健康的とはちがう言葉ではないでしょうか？ ・問4と問1と重ねての内容はどうだろうか？説明の時に少し悩んだ。		
トイレに行く			・自分では行くことがあっても失禁していることが多い為、家族がついて行く場合でも「行く」という事で判断させてもらいました。	
自分で使えるお金をもっている			・問8（回答に困った） ・お金は家族が持って管理しているため本人が自由に使うことはない。買い物も1人で行くことがないため「できない」と判断しました。 ・財布にて1万円が常に入っていて、床屋の支払いを行う時小銭が出せない。計算ができない。お金を持っていることを評価するのでしょうか？	
安全に外出し、帰宅できる		・問9（削除した方がよい）	・問9（回答に困った） ・1人では外出できない為、家族のつきそいで外出する、またはデイサービスに行くという外出で判断して記入しました。	
家の周りが片付いている		・家の周り…というのがわからない。マンションだったらどうしたらよいのか？具体的に、外の窓ふきができてい、草抜きがされて、雑草がない…とか？	・家の周りとはどこまでを指しているのか？質問の意図がわかりづらい。 ・家の周り→自分の部屋ではなく庭などを指すのか？	

軽い運動をする（散歩を含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日自分の体にあった活動、運動をしている、続けて取り組んでいると変更する。
家族や周りの人の役に立つことをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・「家での仕事、就労など」の項目ではどうか？ ・役に立つ…手伝い、家事をしているに変更する。
家の外になじみの場所がある	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の事例は、自営の酒店を営んでいた人でなじみの場所はその店だったが、壊れていて無いことでなじみの場所が「あまりない」になったが、その場所へ行こうとするとそこから、チェックに悩んだ。 ・できているかできていないかというより、その場所が「ある」か「ない」か「時々行く」とかの方がよいのでは？と思いました（場所に行かなくていいことなので…）
いろいろな行事を楽しむ	<ul style="list-style-type: none"> ・問16に「地域のお祭り」などを例)に入れてみてはどうか？
家族や親戚、親しい人たちとのつながりが保たれている	<ul style="list-style-type: none"> ・頻度が不明。少なくとも良いのか、年に1回でもご本人の満足度で良いのか。
<p>きれいで清潔な部屋で過ごす</p> <p>※削除した項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問19、問20例の部屋についての質問は、まとめた方がいいのでは。 ・問19、問20は、同じ質問に思います。 ・問19と問20が似た意味もあり、あまり整っていない方の時、重ねてできていないことを言われているように感じて家族が少し落ち込みました。重ねてきくのは少し気になります。 ・問19と問20が似ていて説明しにくかった。どちらかひとつで良いと思った。 ・問19と問20の項目をきいて、2人で「片付けんからや」「片付けたのに出すからや」と言い合いになってしまいました ・問19、問22、きれいで清潔な部屋…どこでもよいのか、家（自宅）のことなのか、別の場所のことなのかわからない。
心地よい部屋で過ごす	<ul style="list-style-type: none"> ・問19、問20例の部屋についての質問は、まとめた方がいいのでは。 ・問19、問20は、同じ質問に思います。 ・問19と問20が似た意味もあり、あまり整っていない方の時、重ねてできていないことを言われているように感じて家族が少し落ち込みました。重ねてきくのは少し気になります。 ・問19と問20が似ていて説明しにくかった。どちらかひとつで良いと思った。 ・問19と問20の項目をきいて、2人で「片付けんからや」「片付けたのに出すからや」と言い合いになってしまいました

<p>ものごとに集中できる静かな環境がある</p> <p>※削除した項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・意味が説明しづらかった。 ・問22、問23は、集中する、落ち着くといった環境の部屋があるか、表現を工夫した方が良い。 ・問22（回答に困った） ・問22と問23の違いが微妙で選択しにくい。 ・問19、問22、きれいで清潔な部屋…どこでもよいのか、家（自宅）のことなのか、別の場所のことなのかわからない
<p>家の中に落ち着ける居場所がある</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問22、問23は、集中する、落ち着くといった環境の部屋があるか、表現を工夫した方が良い。 ・問22と問23の違いが微妙で選択しにくい。
<p>夜ぐっすり眠れる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夜8時頃寝て午前3時頃目が覚めて明るくなるまで寝付けない方の場合の判断。本人は眠れないと訴えている。 ・トイレ夜中よくおきる人が多い。ぐっすり眠れる…基準がわからない。○時間起きずに寝れる…とした方がよいのでは。
<p>選挙に行くなどの政治活動を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問25削除した方が良い ・認知症の方は判断力も記憶力も低下しているため、自ら行くこともなく、政治内容も理解できないため ・問25の選挙や政治活動はよくわからない（必要性） ・選挙がない為、答えられなかった

その他

・「お茶を飲んでいるか、または飲んでいるか」
・「電話の利用」、「口腔機能」など
・「家事をする、あるいは手伝う」
・「医療について」。薬を飲んでいるとか？通院の状況（自分で行く、家族に連れて行かれる？）、かかりつけ医がいるか等
・「なんでも相談できる医師がいる。」「ゴミ出しが決めた日にできている。」
「転倒しないように安全に入浴できている。」「家の中で転倒していない。」「食事を楽しみにして毎食たべている。」「毎朝、夕に着替えている。」「自分で買い物をする機会がある。」「相談に乗ってくれる人がいる。」「災害時に非難が安全にできる。」「好きな本が読める（買える）。」「家電が買える。」「修理がすぐにできる。」「週に〇回なじみの人と会う。」「月に〇回地域の活動に参加している。」「ひとりで安全に外出できる。」「天気の良い日に散歩に行く。」「天気の良い日に戸外に出る。」「安心して買い物ができる？」「生活に必要な情報をわかりやすく手に入れられる。」「家事等何らかの役割を持っている。」「食べたい物、欲しいもの、やりたいことなど自分で決めている。」「口腔」「服薬」の項目。

・きれいな部屋、心地よいとか家族に負担をいう所で、自分の家や自分が家族の負担になっている、掃除等の家事もできなくなった、と悲観的な言葉を発言された。自分の意思もしっかりある面、マイナス面に感じられていました。
・質問の聞き方（聞き方）について、何点かの質問が抽象的で困った。質問は具体的記載がよいと思います。例) 食事がおいしい①食事だけに焦点をしばらく、たどおしく食べていけばいいのか？②食事は1人で介助を受けず自立して食べることなのか。
・本人中心の質問の内容なので判断基準があいまいになりそうである。
・今回認知症の人を選んだが、質問1は答える事が出来ても質問2は答えにくかった様子。また、聞き取りに時間がかかりました。家の周りの片付けや部屋の掃除は、本人が行って出来ている場合と家族が行い出来ている場合があるので選択に困った。
・軽度判断能力の低下がある方のアンケート実施であった為、説明をわかりやすく行わなければならないかった。選定ミスかもわかりません。年齢が若く自分の思いはしっかり言う方でした。

・本人と家族と質問の回答の部分が同じ項目であれば、あえて回答を別々にしなくても1冊でよいのではないかと感じました；本人の横に家族の欄をもうけるなど
・御本人様が記入されました。いくつか判断に迷われましたがきちんと選択されていたと感じました。
・認知症の方にとって、質問2は想像するの事が難しい面があり、説明するのも大変でした。質問の数が多すぎてご本人が疲れてしまった。
・本人の願望や現実とはなれている。家族が口をはさむ等もあり、むずかしかった。認知症という文字に対して反応も様々で、調査マニュアルではしにくい面もあった。
・ご家族様就労のため、ほぼ毎日デイサービスを利用しての方です。他者との交流や活動を通して、快活に過ごされています。
・答えが「できている」「できていない」だと答えにくい質問もある。
・形容詞は、主観に幅がありすぎて基準があいまいになり、わかりにくい。介護者の負担感、同居、別居でも異なる負担感があります。都県市、過疎地でも大きく異なると思います。地域性もあるので、詳細なアンケートが必要では。アンケートもそうだが、今の介護サービスは、同居家族の存在が前提になっていることを考慮に入れて欲しい。本人の自立、家族負担の軽減に焦点をあててほしい。
・家族等介護者の支援と介護サービスを一緒にしていることに疑問、何を調べたいのか分からない、家族等による介護を前提にしている？家族等によって実現できていることと介護保険サービスで実現できていることを分けるべきでは。しかも介護保健サービスではできないことをあげている。世帯構成の差、認知症レベルの差、地域サービスの差もあり、それが考慮されていない。サービスの利用状況も考慮すべきでは。サービスが使えるのに使っていない（使えていない）人もいるわけで比較にならない。高齢ふたり暮らし、就労世帯、子育て世帯もあり、単に認知症というだけで生活象は見えてこない。アンケートに深みがない。対象者の世代でも感じ方は異なるので、どれだけ意味が今回のアンケートにあるのか疑問です。
・アウトカム指標ということで数値化と思われたが、（本人）自分記載は難しかった。

特になし、なし…6名

特になし、なし…5名

特になし、なし…3名

特になし、なし…2名

表 3 7 - 1

生活安定度 (VAS) 「現在、ご本人の生活の内容はどの程度安定していますか」の評価者間 (認知症のご本人・ご家族・介護支援専門員) の関連性 (Friedman検定、Wilcoxon符号付順位和検定、Spearman順位相関係数) 予備調査 (n=58)

Friedman検定				Wilcoxon符号付順位和検定			Spearman順位相関係数			
χ^2	df	p	n	r	p	n	ρ	p	n	
6.31	2	.43	53	認知症のご本人とご家族	.30	.320	50	.42	.002	50
				認知症のご本人と介護支援専門員	.03	.540	49	.66	.000	49
				ご家族と介護支援専門員	.17	.224	50	.62	.000	50

注) Wilcoxon符号付順位和検定、Spearman順位相関係数 (bonferroni補正: 有意差または相関性あり = 橙色: $p < .017 = .05/3$)

表 3 7 - 2

精神的健康状態 (WHO-5) の認知症のご本人とご家族の関連性

(Wilcoxon符号付順位和検定、Spearman順位相関係数)

予備調査 (n=58)

Wilcoxon符号付順位和検定			Spearman順位相関係数		
r	p	n	ρ	p	n
.13	.35	54	.52	.000	54

注) Wilcoxon符号付順位和検定、Spearman順位相関係数

(有意差または相関性あり = 橙色: $p < .05$)

表 3 7 - 3

認知症のご本人の生活の質 (short QOL-D) と精神的健康状態 (WHO-5; 認知症のご本人とご家族)、生活安定度 (VAS) 「現在、ご本人の生活の内容はどの程度安定していますか」の関連性 (Spearman順位相関係数) 予備調査 (n=58)

	評価者	精神的健康状態 (WHO-5)			生活安定度 (VAS)		
		認知症のご本人	ご家族	認知症のご本人	ご家族	介護支援専門員	
生活の質 (short QOL-D)	ρ	.39	.37	.20	.46	.37	
	p	.005	.007	.156	.001	.008	
	n	51	51	50	51	50	
WHO-5 (認知症のご本人)	ρ	—	.51	.55	.36	.54	
	p	—	.000	.000	.010	.000	
	n	—	51	51	51	50	
WHO-5 (ご家族)	ρ	—	—	.45	.52	.59	
	p	—	—	.001	.000	.000	
	n	—	—	54	54	55	

注) Spearman順位相関係数 (bonferroni補正: 相関性あり = 橙色:

精神的健康状態 (WHO-5) $p < .025 = .05/2$ または $<.05$ 、生活安定度 (VAS) $p < .017 = .05/3$)

表 3 8
生活状態項目を「介護保険サービスやご家族等の支援をうけながら実現できていない程度」と生活安定度 (VAS) 「現在、ご本人の生活の内容はどの程度安定していますか」の関連性 (Spearman順位相関係数)
予備調査 (n=58)

生活状態項目	「実現できている程度」の評価者						「現在、ご本人の生活の内容はどの程度安定していますか」の関連性 (Spearman順位相関係数)													
	認知症のご本人			ご家族			介護支援専門員			介護支援専門員										
	ρ	p	n	ρ	p	n	ρ	p	n	ρ	p	n								
地域の一人として社会参加する例) 地域の掃除等	.01	.949	45	13	.07	.663	44	14	.11	.455	46	12	.35	.016	46	12	.30	.038	48	10
選挙に行くなどの政治活動を行う	.09	.523	51	7	.34	.019	49	9	.20	.156	51	7	.37	.007	52	6	.39	.007	47	11
買い物をする機会がある	-.12	.424	50	8	-.13	.364	49	9	-.18	.203	51	7	-.03	.813	49	9	-.04	.764	51	7
家の外になじみの場所がある	-.23	.102	51	7	-.29	.039	51	7	-.12	.402	52	6	-.11	.448	52	6	-.04	.788	51	7
自分で使えるお金をもっている	-.03	.857	52	6	-.06	.655	50	8	.02	.906	52	6	-.14	.331	53	5	.00	.989	49	9
家族や周りの人の役に立つことをしている	.25	.066	53	5	.28	.043	52	6	.31	.021	54	4	.34	.015	51	7	.26	.068	51	7
家の周りが片付いている	.33	.020	50	8	.11	.436	49	9	.27	.051	52	6	.28	.037	54	4	.31	.028	52	6
いろいろな行事を楽しむ 例) 誕生日、正月、花見、七夕、月見、クリスマスなど	.17	.233	52	6	.04	.775	51	7	.22	.111	53	5	.44	.001	55	3	.20	.149	54	4
趣味やレクリエーションなどたのしい活動をする 例) 読書、音楽鑑賞、旅行など	.04	.802	53	5	.08	.591	52	6	.16	.258	54	4	.23	.102	53	5	.11	.420	53	5
軽い運動をする (散歩を含む)	.11	.413	55	3	.18	.197	54	4	.19	.164	56	2	.41	.002	56	2	.12	.398	53	5
安全に外出し、帰宅できる	-.01	.929	52	6	-.10	.485	51	7	-.05	.699	53	5	.19	.169	53	5	.08	.580	48	10
部屋になじみのものが置いてある	.10	.492	54	4	.29	.035	53	5	.14	.318	55	3	.34	.011	54	4	.28	.043	52	6
身だしなみを整える	.15	.268	55	3	.03	.822	54	4	.10	.444	56	2	.31	.023	55	3	.08	.567	54	4
テレビを見たて新聞を読んだりする	.18	.190	54	4	.17	.229	53	5	.18	.185	55	3	.43	.001	57	1	.17	.230	51	7
日中は適切に清潔な服に着替える	.31	.022	54	4	.13	.356	53	5	.41	.002	55	3	.36	.007	57	1	.21	.137	54	4
お風呂に入る	.01	.945	55	3	-.01	.929	54	4	.14	.305	56	2	.33	.014	54	4	.22	.118	54	4
心地よい部屋で過ごす 例) 色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど	.32	.019	55	3	.25	.066	54	4	.33	.013	56	2	.52	.000	57	1	.44	.001	53	5
健康的な食事ができる	.25	.067	55	3	.00	.994	54	4	.11	.424	56	2	.38	.003	57	1	.25	.070	54	4
家の中に落ち着ける居場所がある	.05	.712	54	4	.30	.031	53	5	.10	.471	55	3	.37	.006	56	2	.13	.366	53	5
食事がおいしい	.29	.035	53	5	.16	.288	52	6	.27	.050	54	4	.68	.000	56	2	.38	.005	53	5
夜ぐっすり眠れる	.27	.051	54	4	.15	.283	53	5	.23	.089	55	3	.53	.000	57	1	.41	.003	52	6
家族や親戚、親しい人たちとのつながりが保たれている	.14	.311	55	3	.09	.520	54	4	.19	.156	56	2	.52	.000	56	2	.36	.007	54	4
話を聞いてくれる人がいる	.01	.942	55	3	.12	.406	54	4	.01	.949	56	2	.46	.000	56	2	.25	.074	54	4
トイレに行く	-.12	.407	54	4	.04	.785	53	5	.02	.876	54	4	.30	.026	55	3	.20	.150	54	4
きれいで清潔な部屋で過ごす	.33	.015	55	3	.21	.131	54	4	.28	.034	56	2	.27	.045	55	3	.45	.001	56	2
ものごと集中できる静かな環境がある	.34	.011	54	4	.45	.001	53	5	.44	.001	55	3	.49	.000	55	3	.34	.010	56	2

注) Spearman順位相関係数 (bonferroni補正: 相関性あり = 橙色: p < .017 = .05/3)

表 3 9

生活状態項目を「介護保険サービスやご家族等の支援をうけながら実現できている程度」と精神的健康状態 (WHO5, 認知症のご本人・ご家族) の関連性 (Spearman順位相関係数) の関連性 (Spearman順位相関係数) の調査 (n=58)

生活状態項目	「WHO5」の評価者				認知症のご本人				ご家族				ご家族				介護支援専門員							
	「WHO5」の評価者				認知症のご本人				ご家族				ご家族				認知症のご本人				ご家族			
	ρ	n	n	欠損	ρ	n	n	欠損	ρ	n	n	欠損	ρ	n	n	欠損	ρ	n	n	欠損	ρ	n	n	欠損
地域の員として社会参加する例) 地域の掃除等	.251	.088	47	11	.237	.113	46	12	.208	.181	43	15	.142	.337	48	10	.390	.007	47	11	.194	.196	46	12
選挙に行くなどの政治活動を行う	.346	.012	52	6	.182	.205	50	8	.218	.125	51	7	.293	.046	47	11	.194	.196	46	12	.003	.983	51	7
買い物をする機会がある	-.074	.600	52	6	-.219	.127	50	8	-.080	.578	51	7	.003	.983	51	7	-.160	.267	50	8	.203	.144	53	5
家の外になじみの場所がある	-.017	.904	53	5	.095	.505	52	6	.147	.304	51	7	.203	.144	53	5	.173	.221	52	6	.069	.636	50	8
自分で使えるお金もっている	.165	.238	53	5	.033	.820	51	7	.215	.126	52	6	.069	.636	50	8	-.013	.929	49	9	.435	.001	53	5
家族や周りの人の役に立つことをしている	.467	.000	55	3	.204	.139	54	4	.227	.109	51	7	.435	.001	53	5	.202	.151	52	6	.320	.018	54	4
家の周りが片付いている	.419	.002	52	6	.187	.193	50	8	.388	.003	55	3	.320	.018	54	4	.159	.254	53	5	.336	.011	56	2
いろいろな行事を楽しむ 例) 誕生日、正月、花見、七夕、月見、クリスマスなど	.347	.010	54	4	.075	.599	52	6	.520	.000	56	2	.428	.001	54	4	.220	.106	55	3	.201	.142	55	3
趣味やレクリエーションなどたのしい活動をする 例) 読書、音楽鑑賞、旅行など	.396	.003	55	3	.004	.979	54	4	.210	.127	54	4	.189	.175	53	5	.190	.169	54	4	.327	.015	55	3
軽い運動をする (散歩を含む)	.487	.000	57	1	.205	.134	55	3	.364	.005	57	1	.366	.006	55	3	.178	.198	54	4	.358	.011	50	8
安全に外出し、帰宅できる	.363	.007	54	4	.121	.392	52	6	.306	.024	54	4	.283	.042	52	6	.312	.029	49	9	.268	.050	54	4
部屋になじみのあるものが置いてある	.206	.129	56	2	.272	.047	54	4	.333	.013	55	3	.305	.026	53	5	.382	.005	53	5	.259	.054	56	2
身だしなみを整える	.445	.001	57	1	.153	.264	55	3	.298	.023	58	0	.122	.370	56	2	.035	.801	55	3	.267	.053	53	5
テレビを見たり新聞を読んだりする	.362	.006	56	2	.058	.678	54	4	.337	.010	58	0	.268	.045	56	2	.179	.205	52	6	.337	.011	56	2
日中は適切に清潔な服に着替える	.496	.000	56	2	.218	.113	54	4	.324	.013	58	0	.069	.612	56	2	.076	.583	55	3	.390	.003	56	2
お風呂に入る	.280	.035	57	1	.058	.674	55	3	.345	.009	57	1	.110	.424	55	3	.027	.844	55	3	.268	.050	54	4
心地よい部屋で過ごす 例) 色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど	.516	.000	57	1	.278	.040	55	3	.356	.006	58	0	.308	.021	56	2	.391	.003	55	3	.259	.054	56	2
健康的な食事ができる	.392	.003	57	1	.187	.173	55	3	.303	.021	58	0	.075	.582	56	2	.240	.075	56	2	.247	.069	55	3
家の中に落ち着ける居場所がある	.335	.012	56	2	.113	.414	54	4	.281	.034	57	1	.245	.071	55	3	.310	.023	54	4	.373	.005	55	3
食事がおいしい	.483	.000	55	3	.177	.205	53	5	.561	.000	57	1	.294	.029	55	3	.138	.319	54	4	.385	.004	54	4
夜ぐっすり眠れる	.500	.000	56	2	.279	.041	54	4	.400	.002	58	0	.327	.014	56	2	.351	.010	53	5	.264	.049	56	2
家族や親戚、親しい人たちのつながりが保たれている	.287	.030	57	1	.207	.129	55	3	.344	.009	57	1	.473	.000	55	3	.401	.002	55	3	.319	.017	56	2
話を聞いてくれる人がいる	.184	.170	57	1	.030	.830	55	3	.475	.000	57	1	.400	.002	55	3	.273	.044	55	3	.314	.018	56	2
トイレに行く	.146	.289	55	3	.115	.412	53	5	.328	.012	58	0	.218	.106	56	2	.162	.238	55	3	.207	.133	54	4
きれいで清潔な部屋で過ごす	.463	.000	57	1	.276	.041	55	3	.425	.001	58	0	.311	.020	56	2	.207	.133	54	4	.392	.003	55	3
ものごとに集中できる静かな環境がある	.569	.000	56	2	.401	.003	54	4	.258	.051	58	0	.329	.013	56	2	.337	.013	54	4	.207	.133	54	4

注) Spearman順位相関係数 (bonferroni補正: 相関性あり = 橙色: $p < .025 = .05/2$)

表 4 0

生活状態項目を「介護保険サービスやご家族等の支援をうけながら実現できている程度」と生活の質 (short QOL-D) の関連性 (Spearman順位相関係数) の関連性 (Spearman順位相関係数) 予備調査 (n=58)

生活状態項目	「実現できている程度」の評価者				認知症のご本人				ご家族				介護支援専門員							
	short QOL-D				short QOL-D				short QOL-D				short QOL-D							
	陰性点 ρ	陽性点 ρ	合計点 ρ	n	陰性点 ρ	陽性点 ρ	合計点 ρ	n	陰性点 ρ	陽性点 ρ	合計点 ρ	n	陰性点 ρ	陽性点 ρ	合計点 ρ	n				
地域の一員として社会参加する例) 地域の掃除等	.10	.515	.20	.202	.36	.018	.26	.093	.38	.013	.42	16	.21	.166	.35	.017	46	12		
選挙に行くなどの政治活動を行う	.38	.008	.29	.304	.18	.228	.42	.003	.45	.001	.49	9	.33	.025	.35	.020	45	13		
買い物をする機会がある	.07	.636	-.08	.369	-.09	.525	.06	.685	-.06	.670	.49	9	-.04	.765	.03	.841	49	9		
家の外になじみの場所がある	.07	.630	-.08	.571	.20	.168	.40	.004	.43	.002	.49	9	-.10	.481	.15	.284	51	7		
自分で使えるお金をもっている	.21	.151	-.14	.340	.06	.664	.08	.604	.12	.399	.50	8	.14	.353	.28	.056	48	10		
家族や周りの人の役に立つことをしている	.10	.487	.28	.069	.28	.050	.44	.002	.52	.000	.48	10	.31	.027	.38	.006	50	8		
家の周りが片付いている	.02	.881	.06	.671	.01	.929	.10	.507	.04	.782	.51	7	-.11	.446	.07	.632	51	7		
いろいろな行事を楽しむ例) 誕生日、正月、花見、七夕、月見、クリスマスなど	.26	.067	.13	.362	.20	.147	.39	.004	.43	.002	.52	6	.16	.265	.26	.064	53	5		
趣味やレクリエーションなどたのしい活動をする例)	.03	.814	.18	.205	.13	.355	.67	.000	.61	.000	.50	8	.06	.651	.49	.000	43	.002	52	6
読書、音楽鑑賞、旅行など	.23	.098	.02	.879	.24	.082	.31	.023	.35	.011	.53	5	.18	.212	.30	.032	52	6		
軽い運動をする(散歩を含む)	.03	.827	.07	.616	.00	.987	.30	.032	.25	.080	.50	8	.01	.932	.24	.103	47	11		
安全に外出し、帰宅できる	.03	.855	-.07	.598	.04	.803	.14	.323	.11	.432	.51	7	.00	###	.07	.641	.04	.784	52	6
部屋になじみのものが置いてある	.17	.215	.09	.513	.13	.346	.24	.079	.24	.079	.54	4	.03	.856	.22	.107	.25	.073	53	5
身だしなみを整える	.07	.599	-.09	.523	.10	.487	.11	.447	.18	.196	.54	4	.06	.663	.26	.063	.26	.065	50	8
テレビを見たり新聞を読んだりする	.07	.625	.31	.024	.08	.569	.26	.062	.25	.068	.54	4	.12	.376	.18	.200	.24	.079	53	5
日中は適切で清潔な服に着替える	.20	.147	.02	.914	.25	.072	.23	.097	.28	.039	.53	5	.16	.247	.14	.307	.22	.108	53	5
お風呂に入る	.25	.076	.05	.736	-.02	.907	.07	.599	.03	.823	.54	4	.07	.646	.12	.378	.11	.447	52	6
心地よい部屋で過ごす例) 色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど	.16	.264	.10	.458	.09	.525	.09	.496	.09	.497	.54	4	.11	.442	-.04	.756	.02	.872	53	5
健康的な食事ができる	.19	.172	-.07	.636	.19	.163	.09	.535	.16	.260	.53	5	.30	.029	.03	.829	.13	.361	52	6
家の中に落ち着ける居場所がある	.20	.161	.14	.318	.29	.033	.25	.073	.33	.015	.53	5	.16	.255	.11	.419	.19	.180	52	6
食事がおいしい	.10	.499	.06	.688	.17	.219	.18	.187	.23	.088	.54	4	.22	.123	.06	.674	.09	.524	51	7
夜ぐっすり眠れる	.31	.024	.12	.395	.28	.041	.04	.771	.16	.268	.53	5	.29	.034	.14	.322	.21	.126	53	5
家族や親戚、親しい人たちとのつながりが保たれている	.19	.172	-.07	.639	.15	.293	.31	.022	.34	.012	.53	5	.32	.021	.28	.039	.38	.004	53	5
話を聞いてくれる人がいる	.13	.367	-.06	.686	-.02	.868	-.11	.433	-.07	.593	.54	4	.06	.665	-.23	.094	-.13	.368	53	5
トイレに行く	.13	.368	.02	.863	.00	.974	.24	.082	.19	.175	.54	4	-.05	.717	-.04	.777	-.06	.684	52	6
きれいで清潔な部屋で過ごす	.27	.056	.11	.451	.31	.024	.08	.566	.20	.138	.54	4	.21	.137	.26	.067	.31	.026	52	6
ものごと集中できる静かな環境がある																				

注) Spearman順位相関係数 (bonferroni補正: 相関性あり = 橙色: p < .017 = .05/3)

表 4 1

生活状態項目を「認知症などの病気により自分の考えをうまく伝えることが難しくなっても実現したい程度；認知症のご本人・ご家族評価」の因子分析による2カテゴリー（因子抽出法：最尤法、回転法；Kaiser の正規化を伴うプロマックス法） 本調査(n=139)

生活状態項目	「実現したい程度」の評価者							ご家族			
	因子	1	2	3	4	5	6	<i>h</i> ²	1	2	<i>h</i> ²
家の中に落ち着ける居場所がある		.675	-.004	.002	-.037	-.154	.144	.470	.576	.212	.529
家族や親戚、親しい人たちとのつながりが保たれている		.668	-.050	.087	-.005	-.030	.122	.483	.397	.324	.423
部屋になじみのものが置いてある		.576	-.093	-.060	.137	-.004	-.087	.308	.549	.213	.494
心地よい部屋で過ごす 例) 色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど		.573	.061	-.055	.000	.191	-.124	.422	.515	.286	.531
テレビを見たり新聞を読んだりする		.489	-.022	-.103	.026	.228	.013	.362	.334	.254	.282
夜ぐっすり眠れる		.478	.047	.116	-.091	.048	.048	.288	.510	.083	.320
話を聞いてくれる人がいる		.426	.025	.100	.157	-.015	-.080	.267	.505	.195	.415
食事がおいしい		.293	.049	.042	-.064	.000	.255	.218	.630	.064	.451
お風呂に入る		.248	.135	-.058	.036	.187	.105	.281	.426	.055	.214
身だしなみを整える		-.053	.912	.059	.154	.062	-.210	.820	.987	-.292	.700
日中は適切で清潔な服に着替える		.120	.683	.027	.026	-.039	.101	.675	.820	-.112	.570
健康的な食事ができる		.203	.342	.032	.320	-.339	.177	.555	.760	-.228	.413
トイレに行く		.278	.327	.024	-.258	.158	.039	.298	.536	.031	.310
買い物をする機会がある		.033	.123	.562	.112	.065	.069	.435	.019	.522	.285
自分で使えるお金もっている		.001	.029	.457	.031	.093	.147	.282	-.004	.434	.186
趣味やレクリエーションなどたのしい活動をする 例) 読書、音楽鑑賞、旅行など		-.063	.087	.091	.663	.031	.006	.496	.071	.584	.398
いろいろな行事を楽しむ 例) 誕生日、正月、花見、七夕、月見、クリスマスなど		.260	.127	.064	.417	.076	-.227	.397	.248	.391	.336
家の外になじみの場所がある		.052	-.055	.302	.381	.116	.000	.302	.117	.438	.269
家の周りが片付いている		-.029	.377	-.149	-.053	.605	.127	.680	.278	.406	.383
地域の一員として社会参加する 例) 地域の掃除等		-.007	-.212	.262	.193	.535	.031	.459	-.333	.789	.406
選挙に行くなどの政治活動を行う		.254	-.043	.228	-.123	.488	-.116	.376	-.038	.512	.240
家族や周りの人の役に立つことをしている		-.213	.062	.153	.257	.463	.304	.589	-.042	.667	.411
安全に外出し、帰宅できる		-.003	-.064	.282	-.137	.045	.845	.709	.038	.408	.187
軽い運動をする (散歩を含む)		.171	-.143	-.282	.328	.084	.468	.587	.226	.454	.386

		因子相関行列							
		1	2	3	4	5	6	1	2
1	—							1	—
2	.648	—						2	.624
3	.117	.035	—						
4	.449	.503	.024	—					
5	.330	.317	.174	.376	—				
6	.394	.466	.023	.421	.342	—			

適合度検定		
<i>x</i> ²	189.141	423.526
<i>df</i>	147	229
<i>p</i>	.011	.000

Kaiser-Meyer-Olkin の標本妥当性の測度 および Bartlett の球面性検定		
Kaiser-Meyer-	.809	.850
Bartlett <i>x</i> ²	997.131	1306.261
<i>df</i>	276	276
<i>p</i>	.000	.000

注) 下位尺度の区分は、研究委員会での理論的背景の検討と因子分析結果「実現したい程度」認知症のご本人（因子1・2、因子3~6）とご家族2因子の区分で共通構造となる2カテゴリー（13項目・11項目）の下位尺度とした。

なお、この2カテゴリーは認知症のご本人が「実現したい程度」が「高い」の割合で二区分（80%以上；13項目、80%以下11項目）した結果と一致した（表11）。

表 4 2

生活状態項目を「介護保険サービスやご家族等の支援をうけながら実現できている程度；ご家族評価」の基礎統計量と生活安寧指標（2 カテゴリー）の信頼性検討（Cronbach α 係数） 予備調査(n=58)

「実現できている程度」の評価者

生活状態項目	平均	標準偏差	α
1 3 項目カテゴリー合計 (n=53、欠損値=5)	3.39	.45	.86
家の中に落ち着ける居場所がある	3.62	.60	.85
家族や親戚、親しい人たちとのつながりが保たれている	3.51	.72	.86
部屋になじみのものが置いてある	3.53	.67	.86
心地よい部屋で過ごす 例) 色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど	3.28	.72	.86
テレビを見たり新聞を読んだりする	3.11	.93	.86
夜ぐっすり眠れる	3.25	.70	.85
話を聞いてくれる人がいる	3.36	.81	.86
食事がおいしい	3.38	.74	.85
お風呂に入る	3.47	.70	.86
身だしなみを整える	3.40	.63	.85
日中は適切で清潔な服に着替える	3.26	.76	.85
健康的な食事ができる	3.28	.72	.85
トイレに行く	3.57	.69	.85
1 1 項目カテゴリー合計 (n=37、欠損値=21)	2.45	.64	.81
買い物をする機会がある	2.35	1.21	.80
自分で使えるお金をもっている	2.41	1.21	.80
趣味やレクリエーションなどたのしい活動をする 例) 読書、音楽鑑賞、旅行など	2.57	1.14	.77
いろいろな行事を楽しむ 例) 誕生日、正月、花見、七夕、月見、クリスマスなど	3.00	.97	.80
家の外になじみの場所がある	2.59	1.17	.80
家の周りが片付いてる	3.05	.91	.80
地域の一員として社会参加する 例) 地域の掃除等	1.46	.77	.80
選挙に行くなどの政治活動を行う	2.14	1.32	.81
家族や周りの人の役に立つことをしている	2.22	.92	.78
安全に外出し、帰宅できる	2.70	1.22	.77
軽い運動をする (散歩を含む)	2.51	1.10	.78

注) α (項目毎) ; 項目が削除された場合の Cronbach α

表 4 3 - 1

生活状態項目を「介護保険サービスやご家族等の支援をうけながら実現できている程度;ご家族評価」の2カテゴリー（13項目平均と11項目平均）と属性（性別・BPSD・介護負担感）の関連性（Mann-Whitney U test） 予備調査(n=58)

性別	1 3 項目カテゴリー平均（合計）								1 1 項目カテゴリー平均（合計）							
	<i>r</i>	<i>p</i>	<i>n</i>	中央値	四分位範囲	<i>n</i>	中央値	四分位範囲	<i>r</i>	<i>p</i>	<i>n</i>	中央値	四分位範囲	<i>n</i>	中央値	四分位範囲
	男 性				女 性				男 性				女 性			
	0	.795	17	3.38	2.69 3.39	34	3.50	3.15 3.69	0.1	.752	14	2.36	1.73 3.39	21	2.36	2.00 2.77
BPSD	あ り				な し				あ り				な し			
	0.1	.491	15	3.46	3.15 3.69	37	3.54	3.08 3.77	0.2	.903	10	2.45	1.86 3.07	26	2.36	2.00 3.11
介護負担感	軽 度 ～ な し				中 度 以 上				軽 度 ～ な し				中 度 以 上			
精神的	0.2	.169	18	3.58	3.31 3.77	35	3.38	3.08 3.69	.03	.214	13	2.55	2.05 3.23	23	2.36	1.73 2.55
身体的	0.2	.087	31	3.54	3.31 3.77	22	3.23	2.98 3.63	.02	.116	22	2.45	2.25 3.20	14	2.05	1.73 2.57
経済的	0.4	.005	39	3.54	3.23 3.77	14	3.19	2.96 3.46	.00	.017	27	2.45	2.09 3.27	10	1.86	1.73 2.39

注) Mann-Whitney U test ; 「実現できている程度」に有意差あり=橙色 : $p < .05$

表 4 3 - 2

生活状態項目を「介護保険サービスやご家族等の支援をうけながら実現できている程度;ご家族評価」の13項目カテゴリー平均と11項目カテゴリー平均と属性（要介護度・認知症高齢者の日常生活自立度・障害高齢者の日常生活自立度）の関連性

(Spearman順位相関係数) 予備調査(n=58)

	13項目カテゴリー平均（合計） (n=53、欠損値=5)		11項目カテゴリー平均（合計） (n=37、欠損値=21)	
	<i>ρ</i>	<i>p</i>	<i>ρ</i>	<i>p</i>
要介護度	-.118	.400	-.273	.102
認知症高齢者の 日常生活自立度	.104	.458	.241	.151
障害高齢者の 日常生活自立度	.094	.502	-.145	.391

注) Spearman順位相関係数

(bonferroni補正 : 正の関連性 = 橙色/負の関連性 = $p < .017 = .05/3$)

表 4 4

生活状態項目を「介護保険サービスやご家族等の支援をうけながら実現できている程度；ご家族評価」の13項目カテゴリ合計と11項目カテゴリ合計と生活安定度；VAS、精神的健康状態；WHO-5、生活の質；short QOL-D) の関連性 (Spearman)順位相関係数) 予備調査(n=58)

	生活安定度 (V A S)		精神的健康状態 (WHO-5)		生活の質 (short QOL-D)	
	認知症のご本人	ご家族	介護支援専門員	認知症のご本人	ご家族	合計
ρ	.46	.56	.67	.56	.35	.26
p	.001	.000	.000	.000	.011	.070
n	51	50	52	53	51	49
<hr/>						
ρ	.21	.24	.37	.47	.37	.56
p	.237	.175	.029	.003	.005	.000
n	35	34	36	37	56	35
<hr/>						
ρ						
p						
n						

注) Spearman)順位相関係数
 (bonferroni補正：正の関連性 = 青色/負の関連性 = 青色/生活安定度 (V A S) と生活の質 (short QOL-D) $p < .017 = .05/3$ 、精神的健康状態 (WHO-5) $p < .025 = .05/2$)

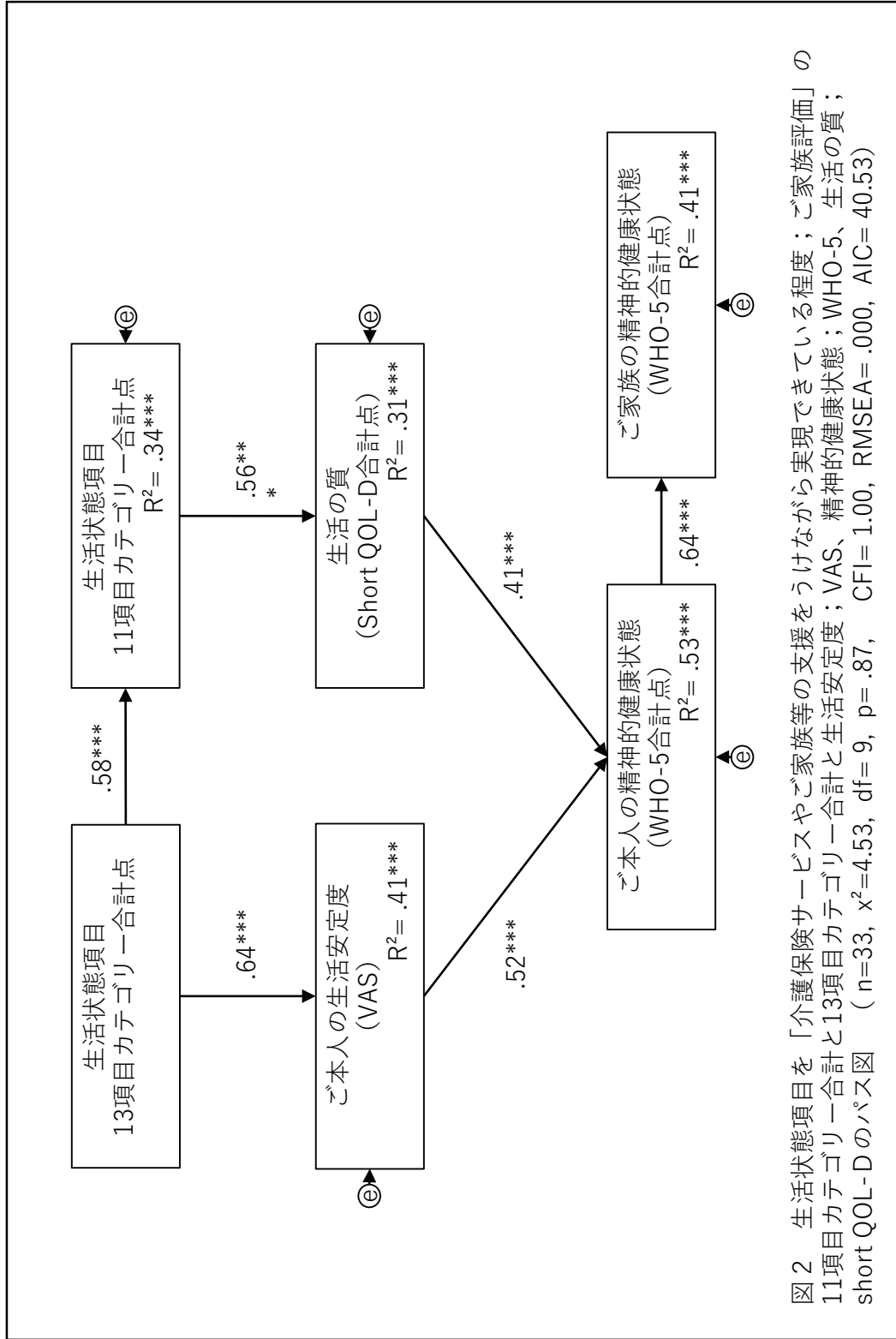


図2 生活状態項目を「介護保険サービスやご家族等の支援をうけながら実現できている程度；ご家族評価」の11項目カテゴリー合計と13項目カテゴリー合計と生活安定度；VAS、精神的健康状態；WHO-5、生活の質；short QOL-Dのパス図（ $n=33$, $\chi^2=4.53$, $df=9$, $p=.87$, CFI= 1.00, RMSEA= .000, AIC= 40.53）

表 4 5 - 1 ~ 3、図 2

生活状態項目を「介護保険サービスやご家族等の支援をうけながら実現できている程度；ご家族評価」の13項目カテゴリ合計（平均）と11項目カテゴリ合計（平均）の比較（Paired t-test）

表 4 5 - 1

基礎統計

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差
13項目カテゴリ	35	3.35	.47	.08
11項目カテゴリ	35	2.45	.65	.11
13項目カテゴリ合計	35	46.00	6.17	1.04
11項目カテゴリ合計	35	17.00	7.12	1.20

表 4 5 - 2

Pearson 相関係数

	度数	r	p
13項目カテゴリ平均(合計)と 11項目カテゴリ平均(合計)	35	.56	.001

注) 相関性あり = 橙色； $p < 0.05$

表 4 5 - 3

Paired t-test

	t値	df	p	r	95% 信頼区間	
					下限	上限
13項目カテゴリ平均と 11項目カテゴリ平均	9.72	34	<.001	.86	.72	1.09

注) 有意差あり = 橙色； $p < 0.05$

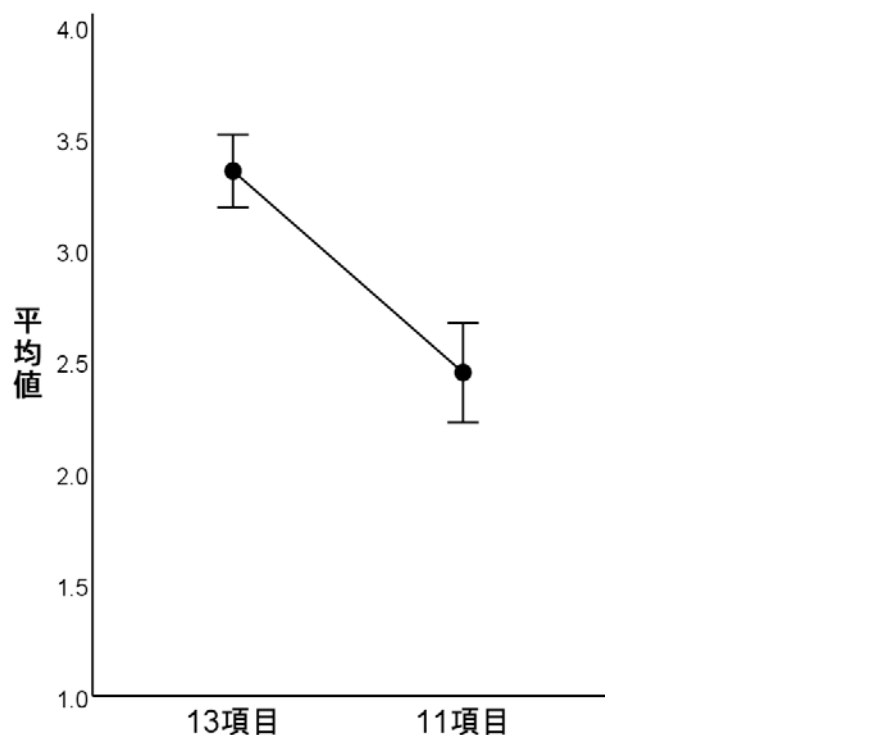


図3 13項目カテゴリと11項目カテゴリ平均値の比較。エラーバー；95%信頼区間

表4 6 - 1 ~ 5

生活状態項目を「認知症などの病気により自分の考えをうまく伝えることが難しくなっても実現したい程度」の13項目カテゴリー（合計）と11項目カテゴリー（合計）の欠損値の関連性 (χ^2 検定)

表4 6 - 1

予備調査 (n=58)

	項目評価者	認知症のご本人	ご家族	介護支援専門員	合計	Cramer's V	.09
13項目カテゴリー	度数	32	28	32	92	χ^2	3.2
	(%)	(35)	(30)	(35)	(100)	df	2
11項目カテゴリー	度数	54	41	30	125	p	.200
	(%)	(43)	(33)	(24)	(100)		
合計	度数	86	69	62	217		
	(%)	(40)	(32)	(29)	(100)		

表4 6 - 2

本調査 (n=139)

	項目評価者	認知症のご本人	ご家族	介護支援専門員	合計	Cramer's V	.13
13項目カテゴリー	度数	27	12	47	86	χ^2	9.25
	(%)	(31)	(14)	(55)	(100)	df	2
11項目カテゴリー	度数	76	36	60	172	p	.009
	(%)	(44)	(21)	(35)	(100)		
合計	度数	103	48	107	258		
	(%)	(40)	(19)	(41)	(100)		

表4 6 - 3

	項目評価者	認知症のご本人	ご家族	介護支援専門員	合計	Cramer's V	.11
予備調査 (n=58)	度数	32	28	32	92	χ^2	6.78
13項目カテゴリー	(%)	(35)	(30)	(35)	(100)	df	2
本調査 (n=139)	度数	27	12	47	86	p	.030
13項目カテゴリー	(%)	(31)	(14)	(55)	(100)		
合計	度数	59	40	79	178		
	(%)	(33)	(22)	(44)	(100)		

表4 6 - 4

	項目評価者	認知症のご本人	ご家族	介護支援専門員	合計	Cramer's V	.16
予備調査 (n=58)	度数	54	41	30	125	χ^2	9.48
11項目カテゴリー	(%)	(43)	(33)	(24)	(100)	df	2
本調査 (n=139)	度数	76	36	60	172	p	.008
11項目カテゴリー	(%)	(44)	(21)	(35)	(100)		
合計	度数	130	77	90	297		
	(%)	(44)	(26)	(30)	(100)		

表4 6 - 5

予備+本調査 (n=197)	項目評価者	認知症のご本人	ご家族	介護支援専門員	合計	Cramer's V	.10
13項目カテゴリー	度数	59	40	79	178	χ^2	9.48
	(%)	(33)	(22)	(44)	(100)	df	2
11項目カテゴリー	度数	130	77	90	297	p	.008
	(%)	(44)	(26)	(30)	(100)		
合計	度数	189	117	169	475		
	(%)	(40)	(25)	(36)	(100)		

表 4 7

生活状態項目を「介護保険サービスやご家族等の支援をうけながら実現できている程度」の11項目カテゴリーと13項目カテゴリーの欠損値の関連性
(Fisher's Exact Test) 予備調査 (n=58)

	項目評価者 度数 (%)	認知症のご本人 22 (33)	ご家族 8 (12)	介護支援専門員 36 (55)	合計 66 (100)
13項目カテゴリー					
11項目カテゴリー					
合計					
<i>Fisher's Exact Test ; p-value</i>					.006

執筆者一覧

執筆者	所 属	執筆箇所
佐藤 信人	社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター 副センター長	第1章 I, II, III-1, 2, IV-1 第5章 第6章
寺崎 一永	社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター 研修指導員	第1章 III-3 参考資料 1
花田 健二	社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター 研究企画主幹	第1章 IV-2, 3, 4, 5, 6, 7 第2章 I, II 第3章 第4章 第5章 参考資料 1, 2
藤生 大我	社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター 研究主幹	参考資料 1, 2

(執筆順)

平成 30 年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金
老人保健健康増進等事業

認知症施策のアウトカムとしての認知症の本人やご家族の視点を重視した
評価指標の確立に関する研究
報告書

平成 31 (2019) 年 3 月

発行 社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター
住所 東京都杉並区高井戸西 1-12-1
電話 03-3334-2173 (代表)